ESMPRO®/AutomaticRunningController Ver5.6
セットアップカード

Express5800 シリーズ

UL1046-S01

第１章　製品内容

第２章　セットアップの準備

第３章　セットアップの方法

第４章　スケジュール運転の設定

第５章　ジョブの登録方法

第６章　ユーティリティ

第７章　注意事項

第８章　障害発生時には

第９章　用語集

第８版

2025 年８月

© NEC Corporation 2025

ごあいさつ

　このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

　本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

更新履歴

版数	更新日付	更新内容
第 1 版	2024/06/06	新規作成
第 2 版	2024/06/06	VMware 製品の商標登録を修正
第 3 版	2024/06/28	「8.7 Collectlog および IPMI ログ」に装置情報収集ユーティリティの情報を追記
第 4 版	2024/12/27	文書全般のフォントおよび文字間隔の調整
第 5 版	2025/04/28	「第２章 セットアップの準備」に記載の DELL PowerEdge のサポート機種追加 「8.7 Collectlog および IPMI ログ」に装置情報収集ユーティリティの情報を修正
第 6 版	2025/06/16	「３．２ ESMPRO Platform Management Kit からのインストール」に PMK 1.007.01 の注意(3)を記載
第 7 版	2025/06/30	社外 HP のリンク情報を更新
第 8 版	2025/8/29	VMware ESX 9.0 サポートに伴い、ESXi の記載を ESXi/ESX に変更

目次

第１章　製品内容 6

第２章　セットアップの準備 7

２.１　ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境 7
２.２　ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例 10

第３章　セットアップの方法 11

３.１　ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール 11
　３.１.１　新規インストールの場合 12
　３.１.２　上書きインストールの場合 17
　３.１.３　バージョンアップインストールの場合 21
３.２　ESMPRO Platform Management Kit からのインストール 26
３.３　ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定 27
　３.３.１　ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定（環境設定ウィザードボタン） 28
　３.３.２　マルチサーバ構成の設定（「マルチサーバの構成の設定」（AMC の起動）ボタン） 29
３.４　ライセンスキーの登録 30
３.５　ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール 32
　３.５.１　『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール 32
　３.５.２　[コントロール パネル]を用いたアンインストール 37

第４章　スケジュール運転の設定 40

４.１　スケジュール運転によるサーバの自動運転 40

第５章　ジョブの登録方法 46

５.１　ジョブ登録画面の起動方法 47
５.２　電源投入時のジョブ登録方法 48
５.３　電源切断時のジョブ登録方法 51
　５.３.１　電源切断時に起動するジョブの登録方法 51
　５.３.２　電源異常切断時に起動するジョブの登録方法 55
５.４　ジョブ登録の保存 58

第６章　ユーティリティ 59

６.１　acpowoff.exe 59
６.２　WAITJOB.EXE 60
６.３　GetAcVer.exe 61

第７章　注意事項 64

７.１　セットアップ関連 64
７.２　運用関連 64
７.３　通信ポート番号関連 66
７.４　共有フォルダ関連 68
７.５　AC-LINK 関連 68
７.６　ウィルススキャンソフト関連 68

第８章　障害発生時には 69

８.１　ESMPRO/AutomaticRunningController ログ 69
８.２　ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ 71
８.３　イベントログ 75

８.４　クラスタシステムのログ採取......75
８.５　バージョン情報......76
８.６　SNMP カードからの情報採取......77
８.６.１　　SNMP カードの情報（Ａ）......79
８.６.２　　SNMP カードの情報（Ｂ）......86
８.６.３　　SNMP カードの情報（Ｃ）......94
８.７　Collect ログの採取......101
第９章　用語集......102

第１章　製品内容

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6のパッケージの内容は、製品に同梱されている構成品表に記載されています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

第２章　セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、コンピュータの環境を準備していただく必要があります。本章の要件を満たした後に ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップを実行してください。セットアップの方法は、第３章で詳しく説明しています。

２.１　ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

＜ハードウェア＞

・　対象機種　: Express5800シリーズ、iStorage NSシリーズ、
NX7700xシリーズ、
DELL PowerEdge
R760 / R760xs / R660 / R660xs
R750 / R750xs / R650 / R650xs / R550 / R450 / R350

最新の対応 H/W 状況は、以下をご参照ください。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_environment.html
→　動作環境
→　動作環境一覧

・　メモリ　: 23.0 MB 以上
・　固定ディスクの空き容量 : 60.0 MB 以上
・　HW/BIOS機能（＊）　: UPSを使用しない構成でWOL (Wake On LAN) 機能を使ってサーバのリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL(Wake On LAN)機能を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

（＊）
機種によっては、Wake On LAN機能が提供されていない場合があります。機能が提供されていない機種は、Wake On LAN機能を有効にすることができません。これらの機種は、リモート起動を含め自動運転の起動機能は実現できません。

また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。この場合には、その後の自動起動も出来ません。
これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存するため、導入の際には、あらかじめ使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。
（同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合もあります。）

※　サーバの電源管理を行う場合には、Smart-UPS相当無停電電源装置が必要になります。Smart-UPS相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、Smart-UPS相当無停電電源装置添付の取扱説明書を参照してください。

＜ソフトウェア＞

・　ＯＳ

Windows Server 2022 Standard/Datacenter /Essentials
Windows Server 2019 Standard/Datacenter /Essentials
Windows Server 2016 Standard/Datacenter /Essentials
Windows 11 Pro ※1
Windows 10 Pro ※1

最新の対応 OS 状況は、以下をご参照ください。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_environment.html
→ 動作環境
→ 対応 OS 一覧

※ 仮想化ソフトウェア(VMware ESXi 7/8, ESX 9) の仮想マシン上にESMPRO/AutomaticRunningControllerとESMPRO/AC Enterpriseをインストールして制御端末として動作させ、マルチサーバ構成の電源管理/自動運転を行うことも可能です。

※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerをx64のOSで動作させる場合、WOW64がサポートされている必要があります。

※ Windows Server IoT 2022 for Storage Workgroup Edition、
Windows Server IoT 2019 for Storage Workgroup Edition、
Windows Storage Server 2016/は、iStorage NSシリーズのみに対応しています。
https://jpn.nec.com/istorage/product/nas/ns/lineup.html?

※1 当該OSは「WebSAM SigmaSystemCenterの管理サーバ」として使用することはできません。

・　連携ソフトウェア
以下の用途で電源管理/自動運転を行う場合には、適切な制御端末用ソフトウェアをセットアップしてください。

＜UPSをネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う＞
ESMPRO/AC Enterprise

＜UPSを使用せずに自動運転を行う＞
ESMPRO/AC Advance (複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合に必要となります)

＜ESMPRO/ServerManagerと連携してUPS管理を行う＞
ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/ServerManager Ver. 7.12で、管理対象機器としてUPSをご利用になる場合は、ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AutomaticRunningControllerまたはESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6を組み合わせてご利用願います。
ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AutomaticRunningController をインストールした場合、ライセンスキーの登録を行うことなくESMPRO/AutomaticRunningController をインストールすることは可能です。
しかし、ライセンスキーを登録しない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。無停電電源装置(UPS)の管理以外の機能を使う場合には、以下の製品ライセンスキーをご購入の上で、ライセンスキーの登録をお願いします。

UL1046-S01

＜WebSAM SigmaSystemCenterと連携してUPS管理を行う＞
ESMPRO/AC Enterprise

PowerChute Busness Edition との連携機能は、
ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6 より削除しました。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerおよび各オプションパッケージ製品のアップデートを下記サイトに公開しています。未適用のアップデートがございましたら、ダウンロードし適用してください。

https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx
→ 修正物件ダウンロード
→ 製品名・カテゴリから探す
→ ESMPRO/AutomaticRunningController

２.２　ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例

（１）　UPSをネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う

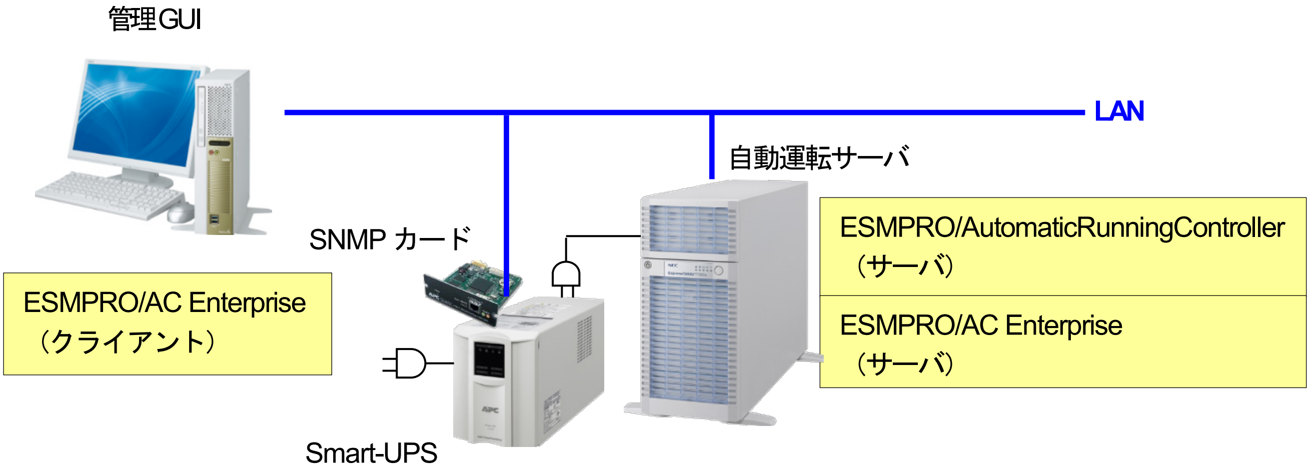


図 2.2-1

（２）　UPSを使用せずに自動運転を行う

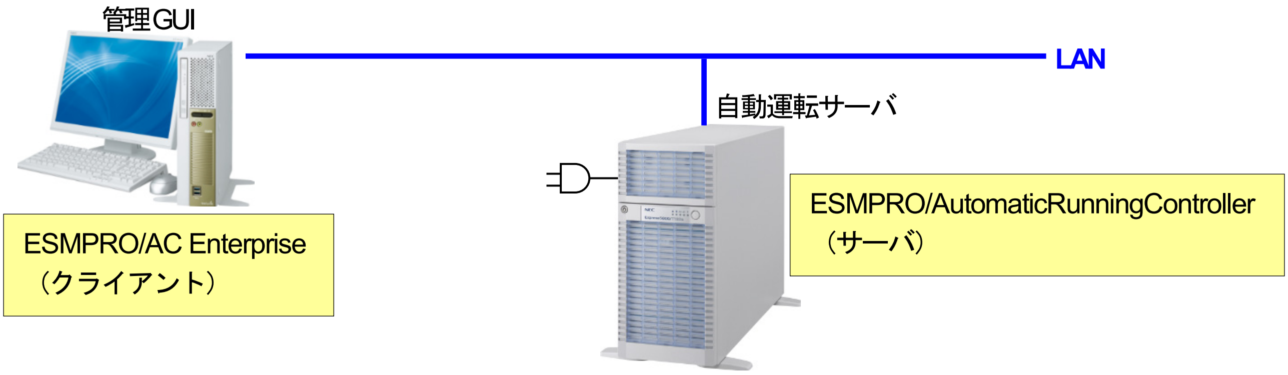


図 2.2-2

複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合の構成例は、ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance 等（ともにオプション製品）の資料をご参照ください。

第３章　セットアップの方法

３.１　ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

Administratorもしくは Administrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

注意

- ESMPRO/AutomaticRunningController の HP より最新のパッチ/修正モジュールを確認し、最新のアップデートを適用願います。
  https://jpn.nec.com/esmpro_ac/update.html?
- 上位バージョンがインストールされている場合は、インストールは行えません。エラーとなります。
- インストールの実行中に「終了」および「キャンセル」ボタンを押すと、インストール中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで「終了」ボタンを押すと、インストールは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。
- CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』の内容で iso イメージファイルを作成しマウントしてインストールを行ってください。

３．１．１　新規インストールの場合

（1）　ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

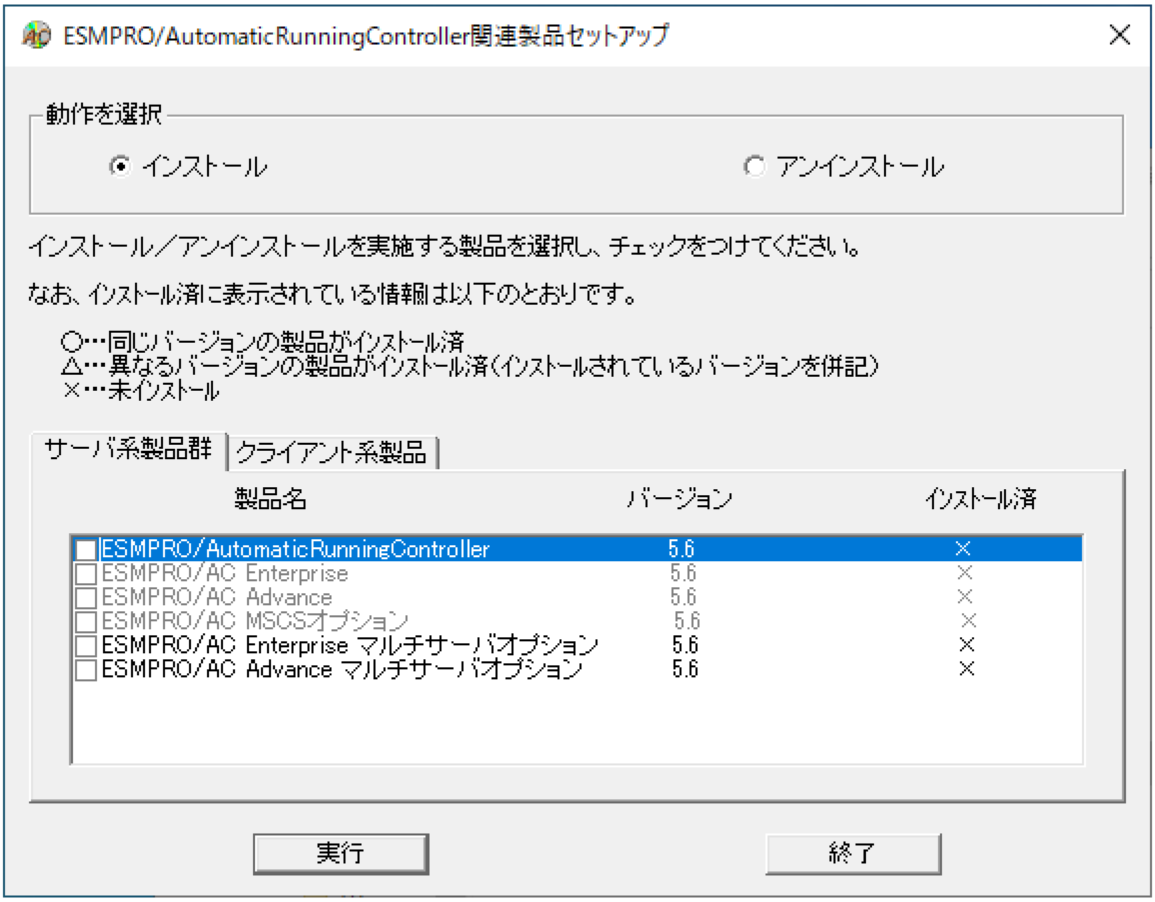


図 3.1-1

（２）　「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

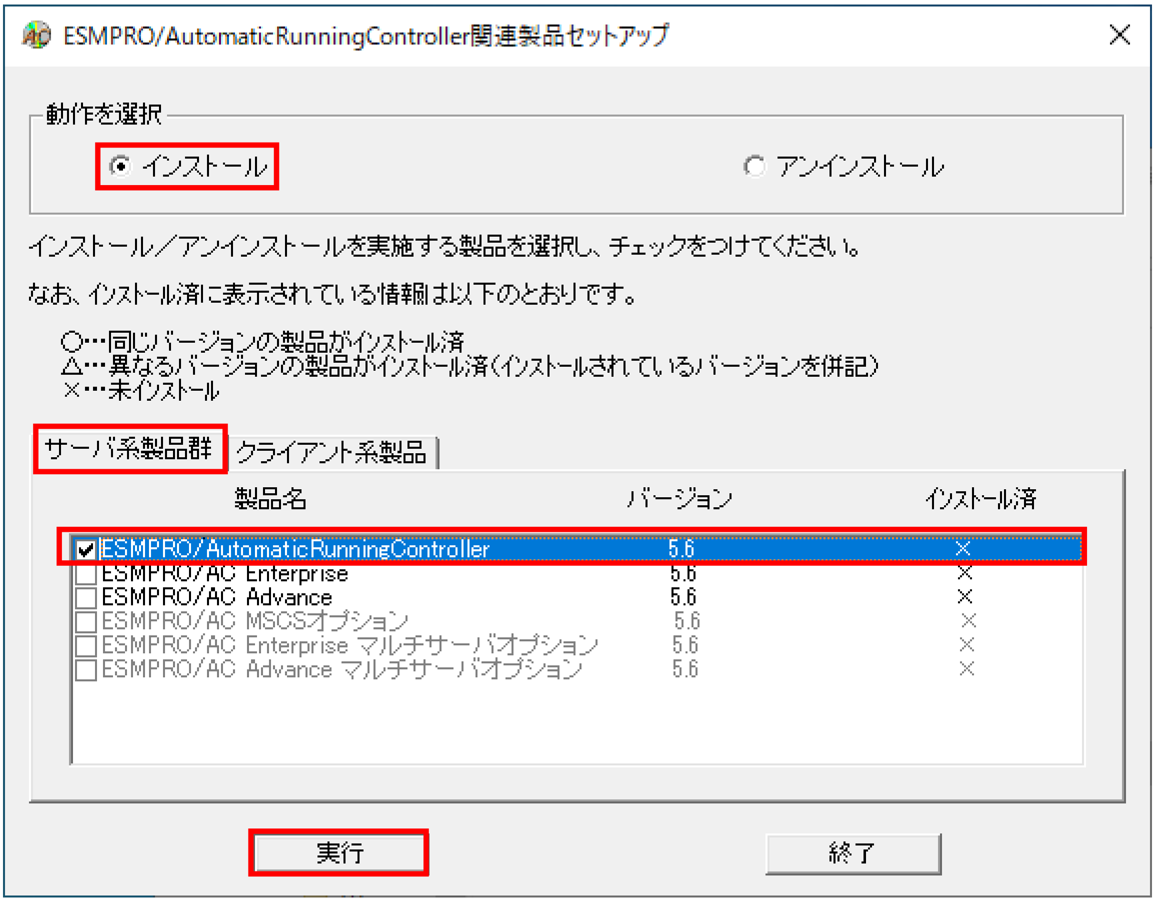


図 3.1-2

＜サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合＞
ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等）も同時に選択可能となり、順次インストールすることができます。

（３）　「実行」ボタンを選択します。

（４）　選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

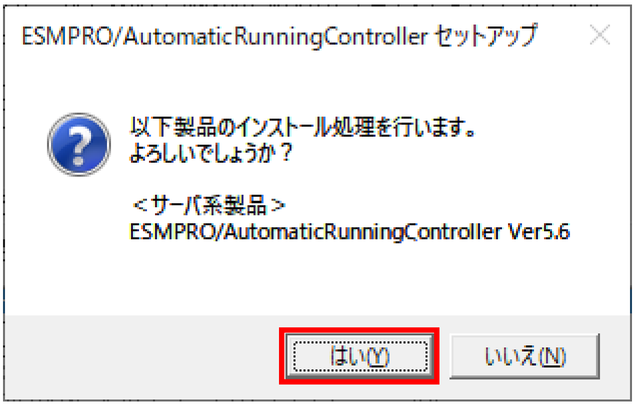


図 3.1-3

（5） サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

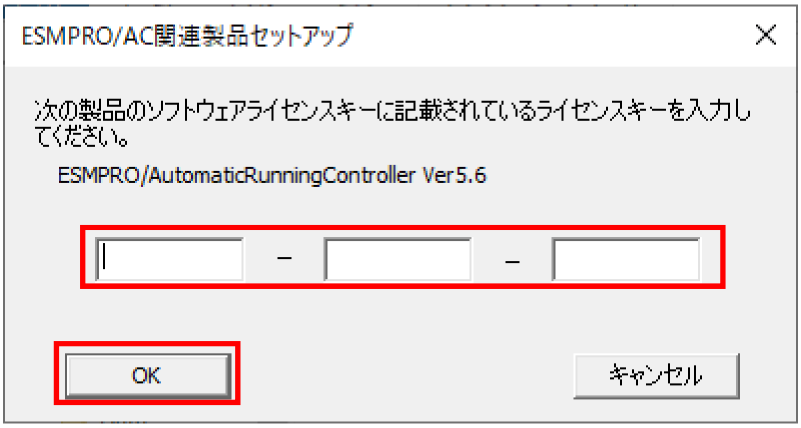


図 3.1-4

（6） 入力したライセンスキーが認証されると、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップが開始されますので、「次へ」ボタンを選択します。

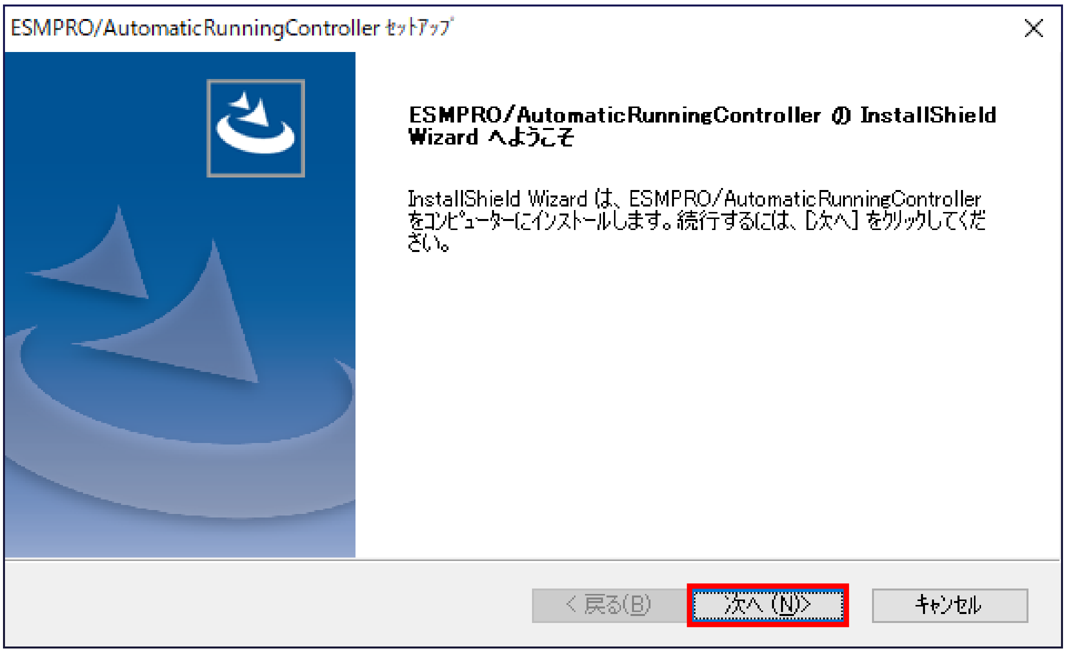


図 3.1-5

（7） 続いて、インストール先を選択します。表示されているフォルダとは別のフォルダにインストールする場合は、「参照」ボタンをクリックしてインストール先のフォルダを選択します。
インストール先が決定したら、「次へ」ボタンを選択します。

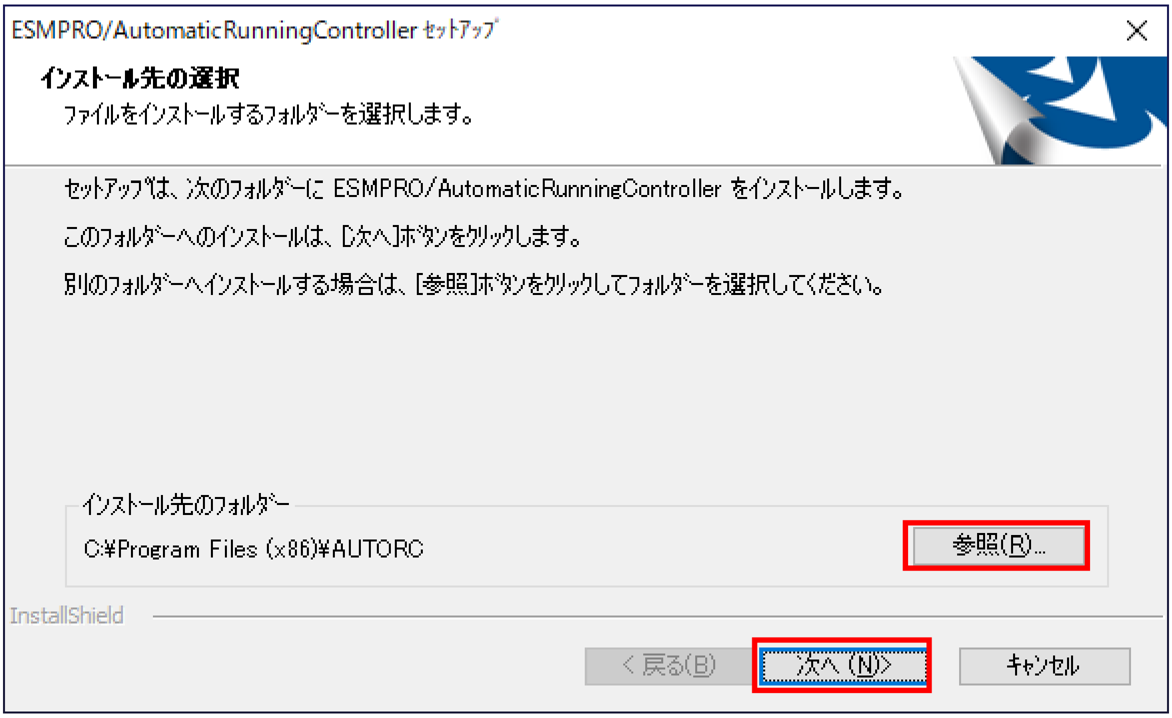


図 3.1-6

（8） ファイルの転送が開始されます。

（9） 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。

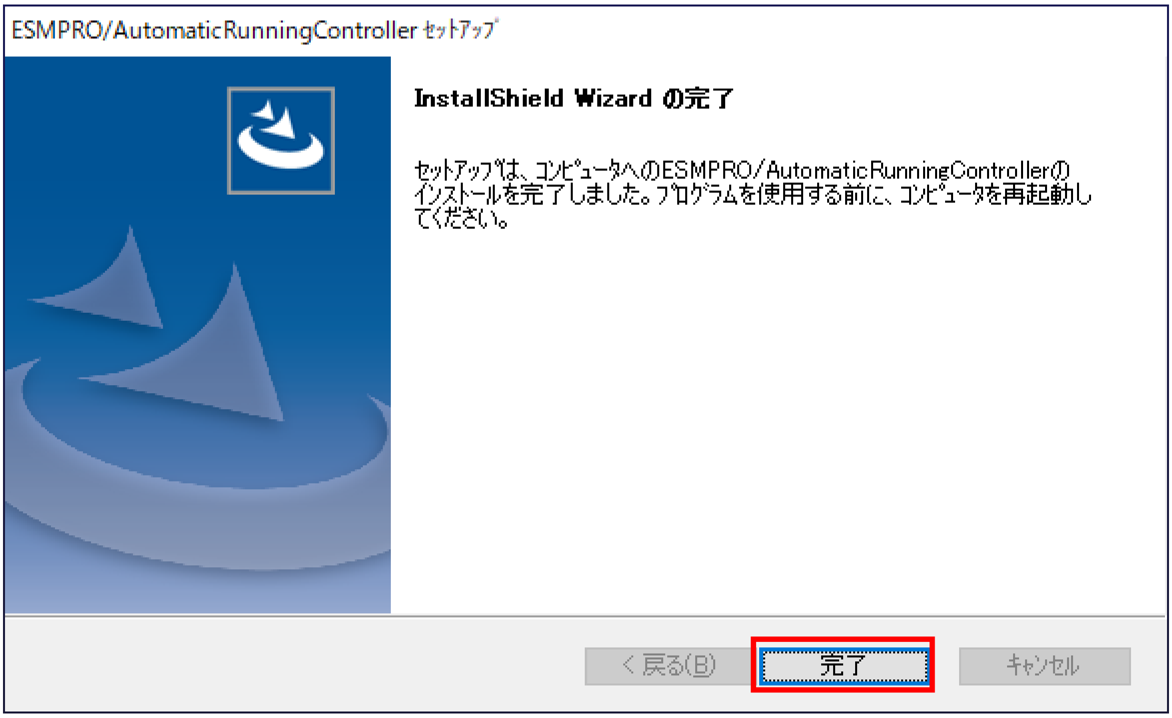


図 3.1-7

（１０） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に〇および
バージョンが表示されていることを確認します。

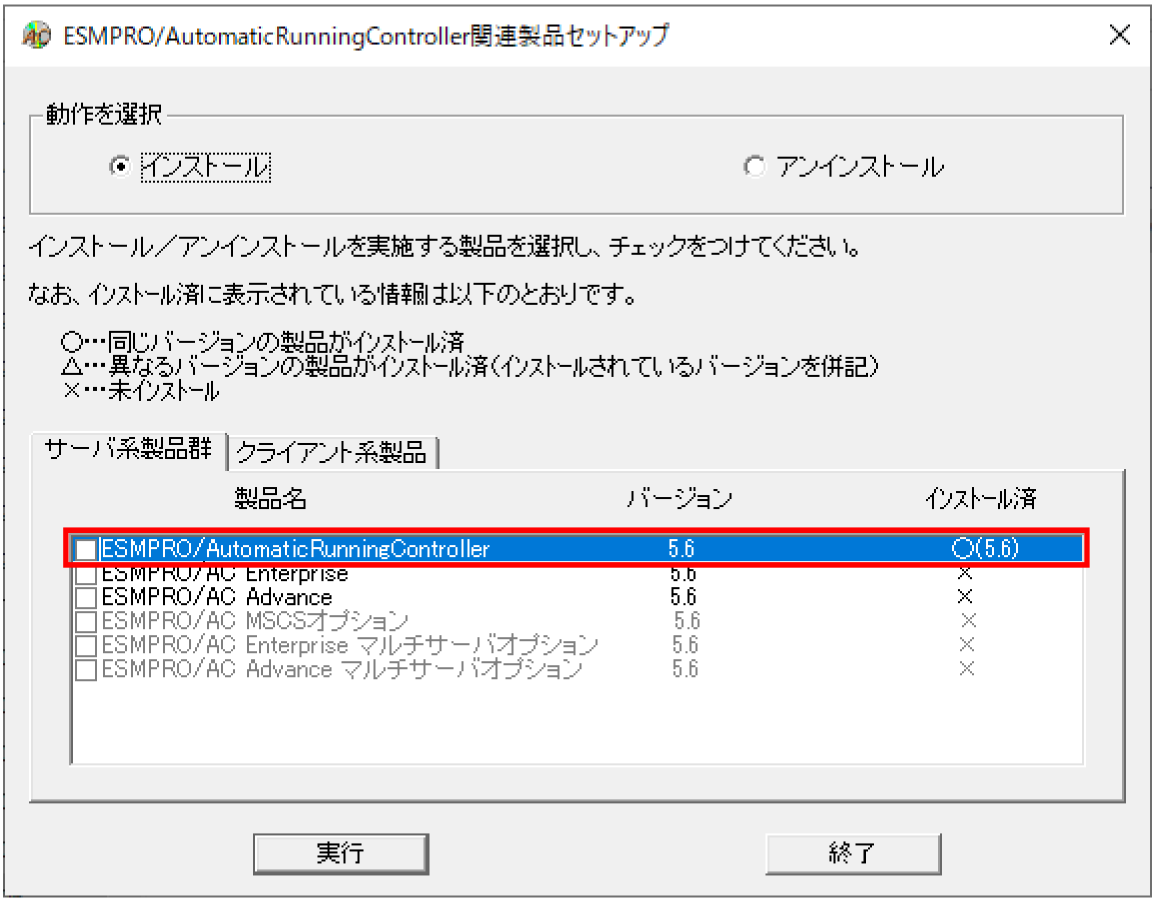


図 3.1-8

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション）をインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

（１１） ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を「３.３ ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照の上で**必ず実施**ください。

３．１．２　上書きインストールの場合

（１）　ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

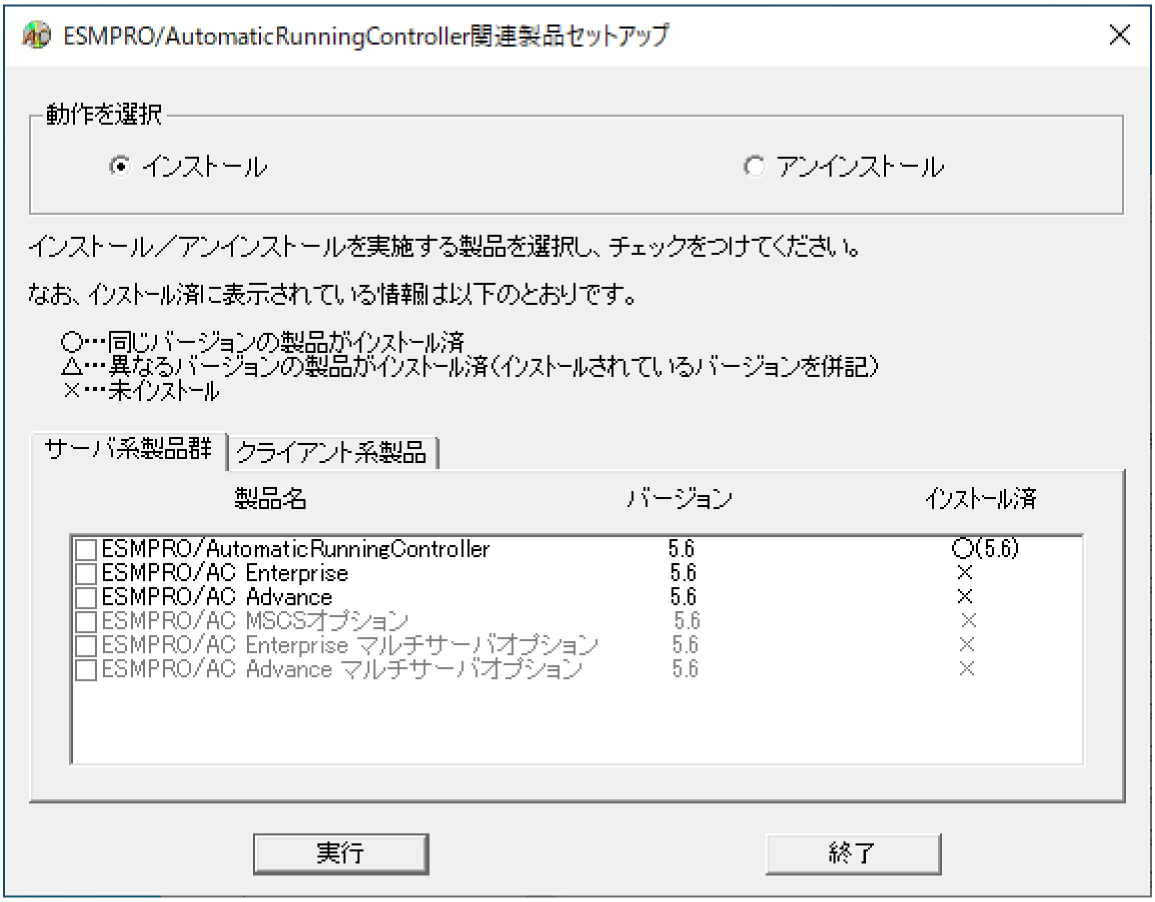


図 3.1-9

（２）　「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

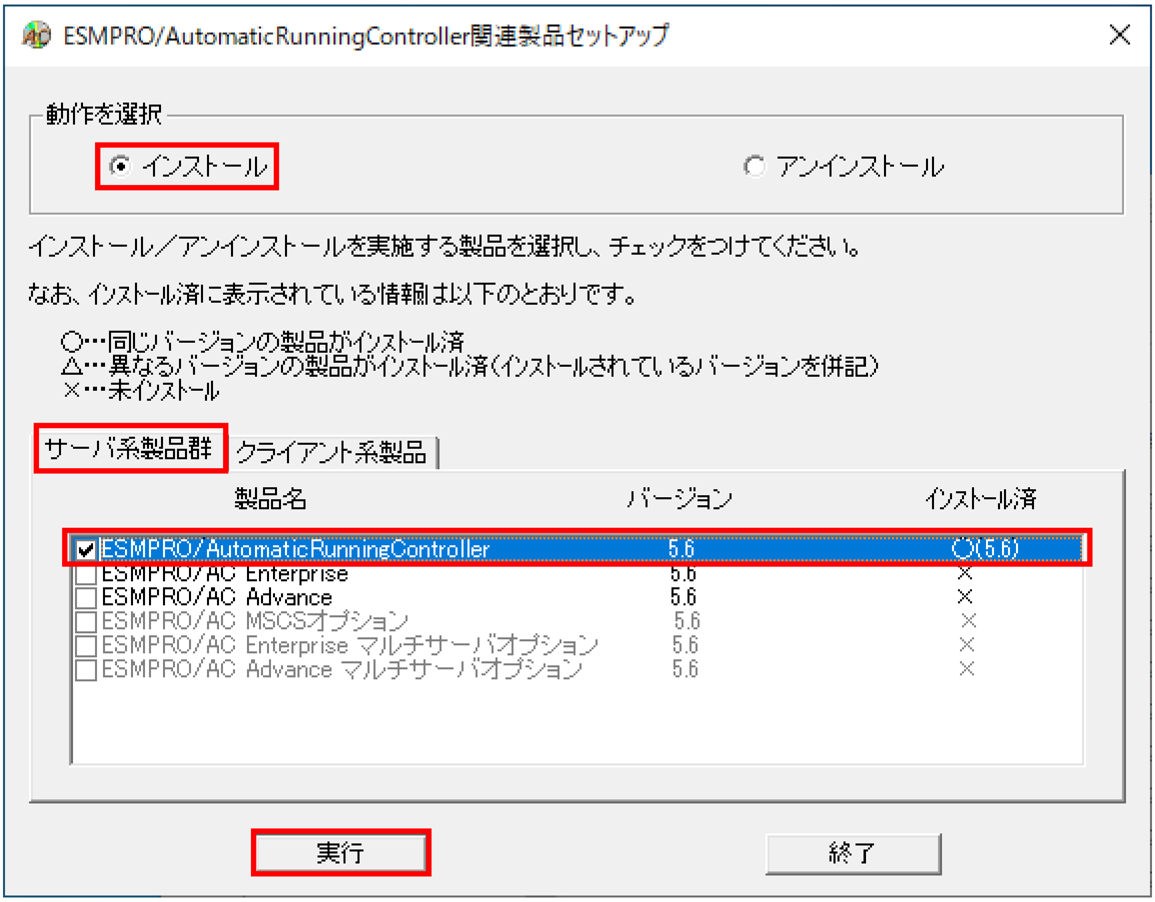


図 3.1-1０

<サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合>
ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等）も同時に選択可能となり、順次上書きインストールすることができます。

（３）　「実行」ボタンを選択します。

（４）　選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.1-1１

（５） ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

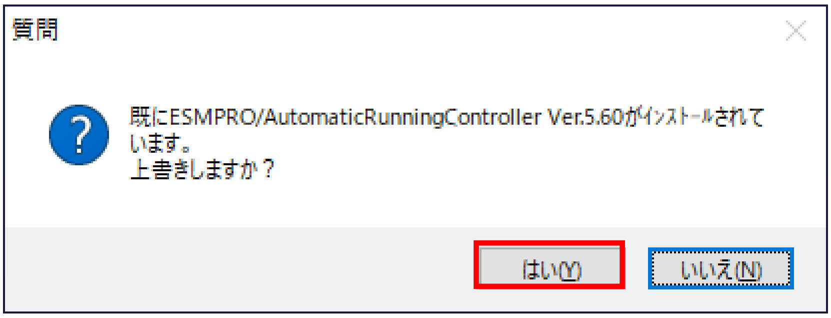


図 3.1-1２

（６） ファイルの転送が開始されます。

（７） 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。

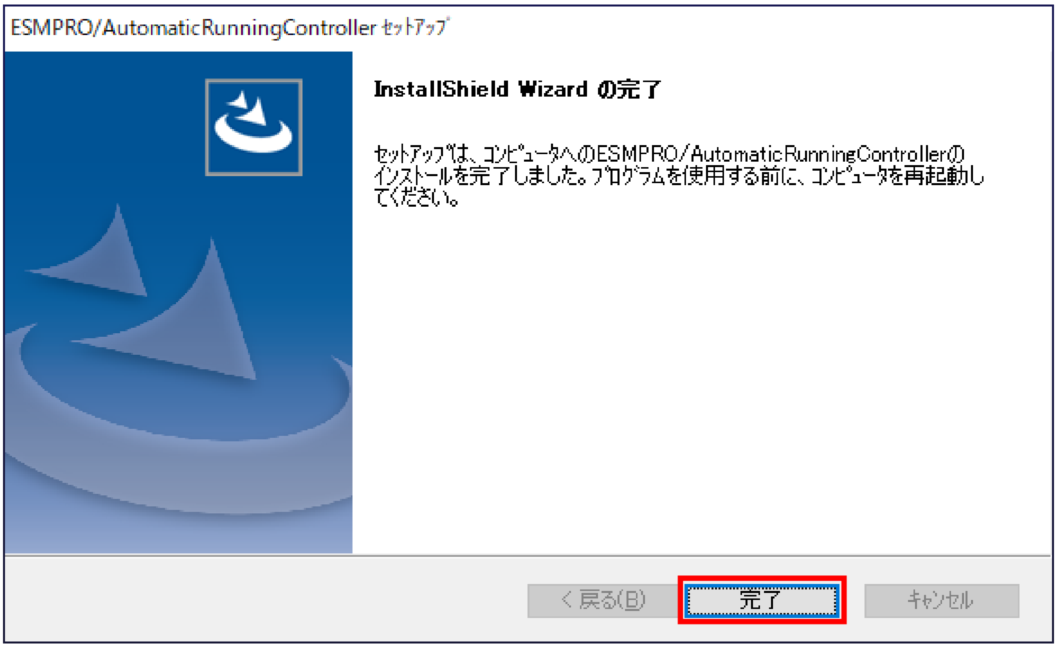


図 3.1-1３

（８） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に〇およびバージョンが表示されていることを確認します。

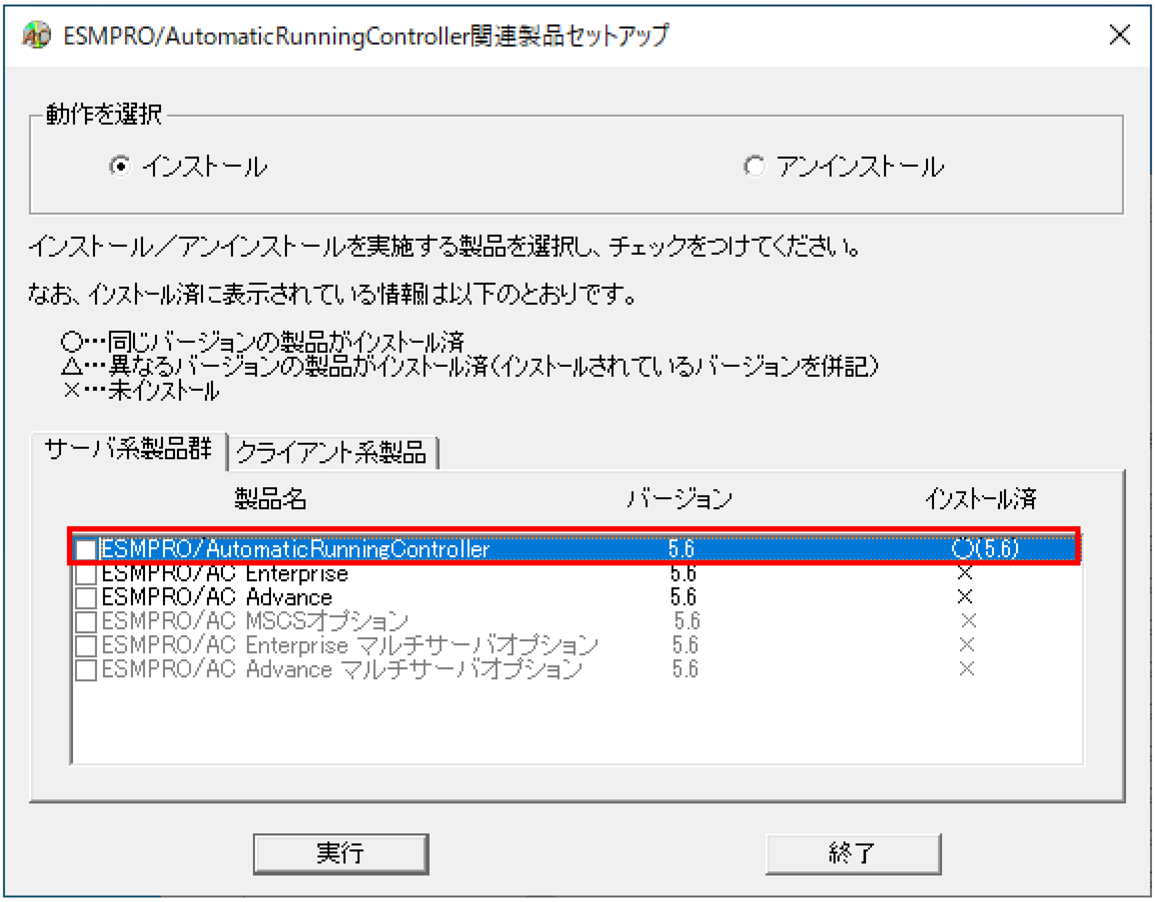


図 ３.１-１４

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション）を上書きインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

（９） ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を変更する場合は「３.３ ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照してください。

３．１．３　バージョンアップインストールの場合

（１）　ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

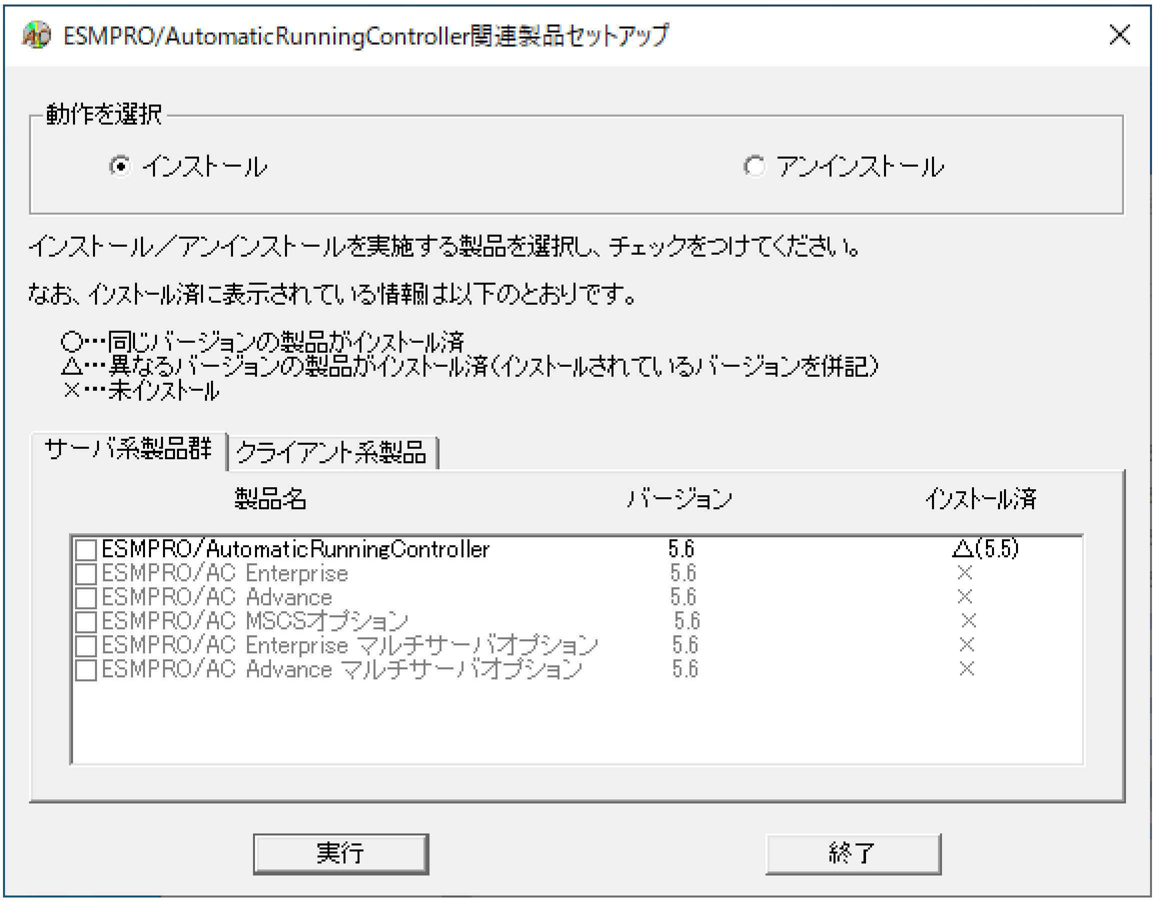


図 3.1-15

（2）　「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

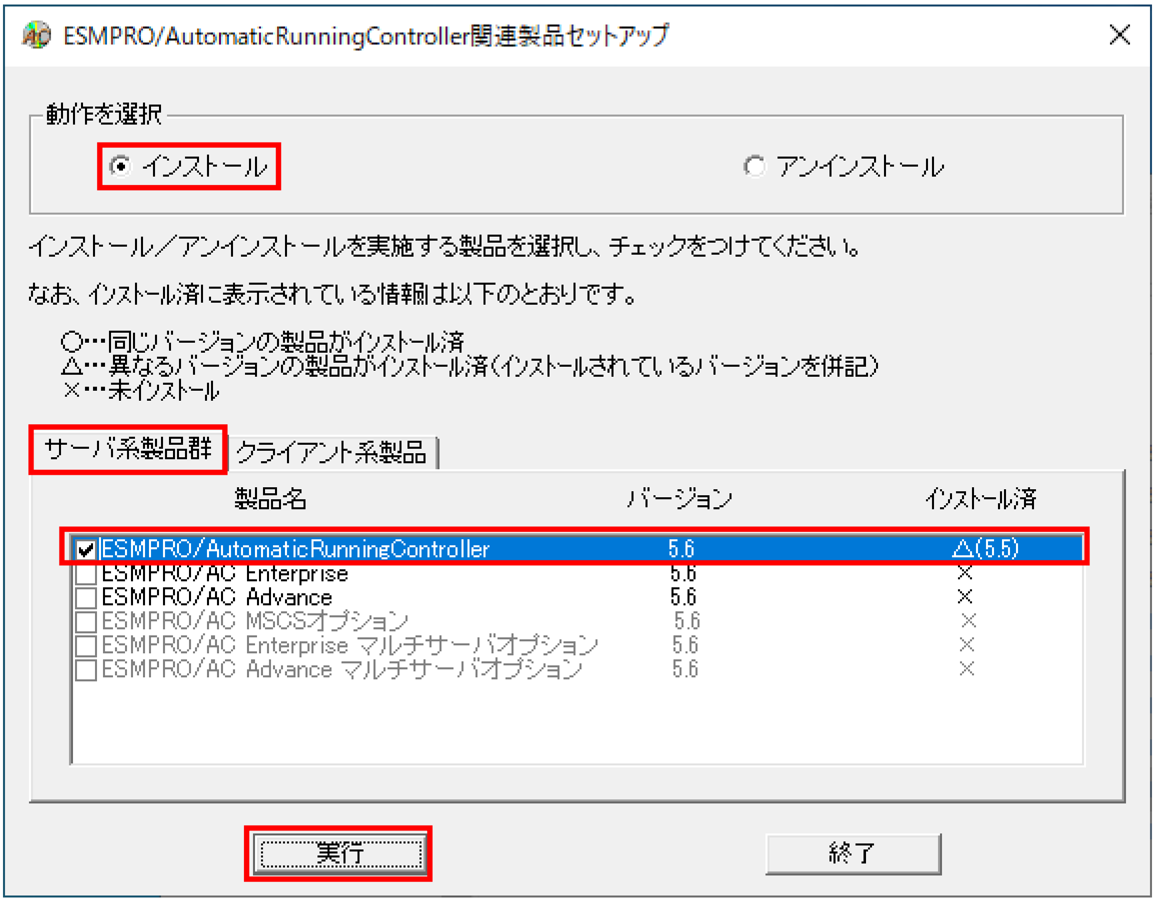


図 3.1-16

<サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合>
ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等）も同時に選択可能となり、順次バージョンアップインストールすることができます。

（3）「実行」ボタンを選択します。

（4）選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.1-17

（５）サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

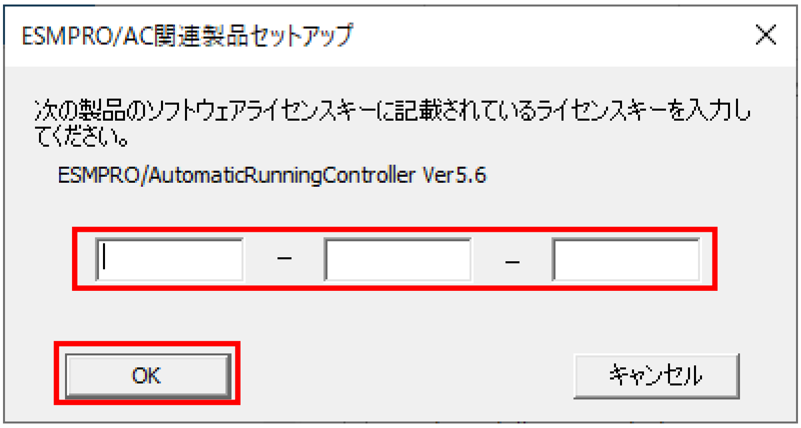


図 3.1-18

（６）入力したライセンスキーが認証されると、ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

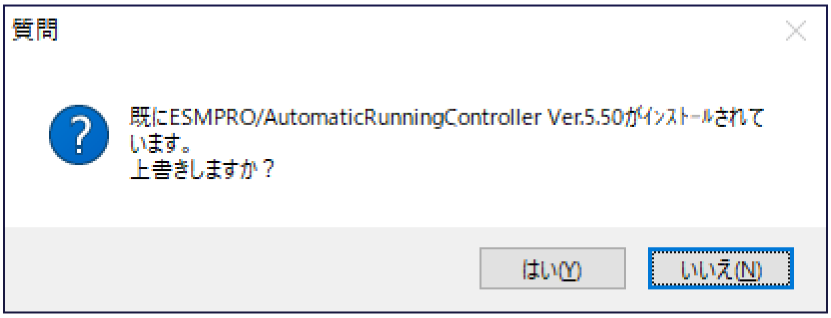


図 3.1-19

（７）ファイルの転送が開始されます。

（８）次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。

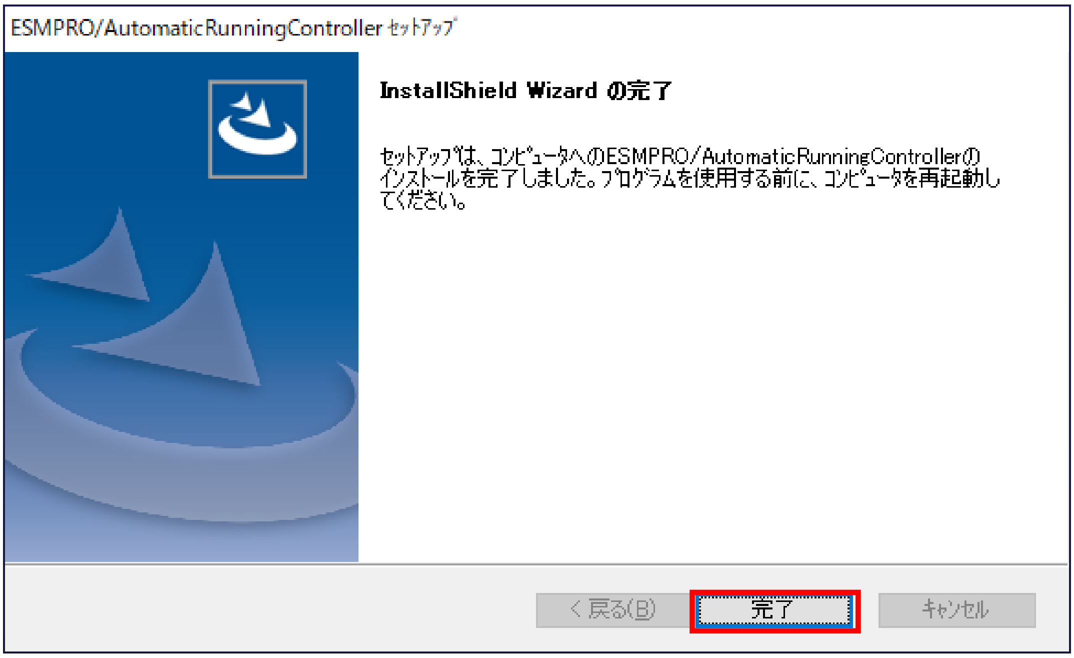


図 3.1-20

（９）最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に〇およびバージョンが表示されていることを確認します。

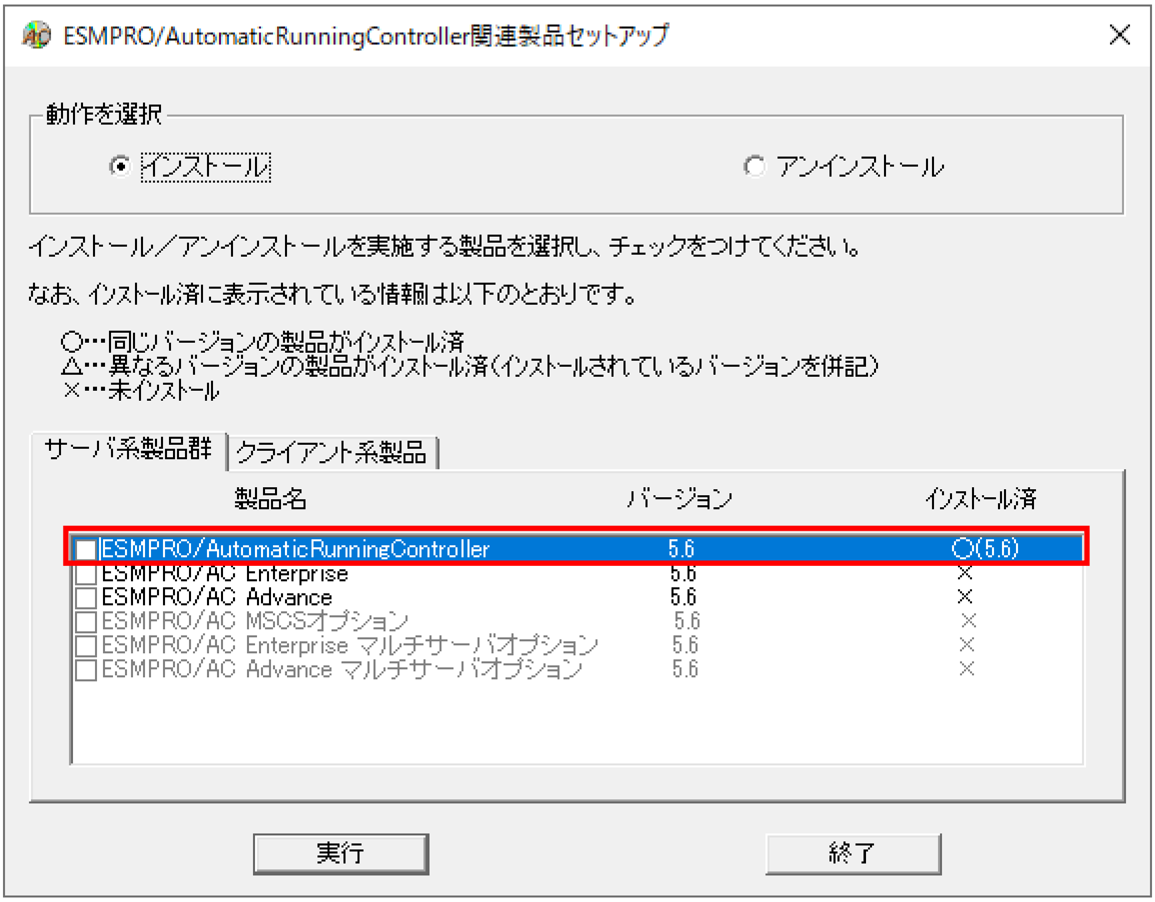


図 3.1-21

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション）をバージョンアップインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

（１０）ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を変更する場合は
「３．３ ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照してください。

３.２　ESMPRO Platform Management Kit からのインストール

「ESMPRO Platform Management Kit v1.006」または「ESMPRO Platform Management Kit v1.007」より「ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6」をインストールされる場合は「ESMPRO インストールツール ユーザーズガイド」を参照願います。

注意

(1) ライセンスキーの登録を行わない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。旧バージョンよりのアップデートインストールを行い、ライセンス適用を行わない場合、アップデート前の動作と同じにならないため、システム運用に問題が発生する可能性があります。アップデートインストールを行う場合は、アップデート完了後に新しいライセンスの適用を行ってからの運用を強く推奨します。

(2) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.003.01」以降の「ESMPRO インストールツール」「統合インストール」で、ライセンス適用済みの ESMPRO/AutomaticRunningController 環境に対してアップデートインストールを行うことはできません。項目(1)の注意をお読みの上、「各種アプリケーション」よりアップデートインストールを行ってください。

(3) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.007.01」でインストールした場合は、インストール後にインストールイメージの【アップデート格納ディレクトリ】中の『ESMARC56-01-241115.zip』を適用願います。ZIP ファイルを解凍し、ファイル解凍後の README.TXT にアップデート適用方法の詳細が記載されていますので、参照してください。

【アップデート格納ディレクトリ】
「software¥999¥win¥esmpro_arc¥update」

３.３　ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定

本ソフトウェアを使用して電源管理/自動運転を行うためには、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、動作環境の設定を行う必要があります。

「UPS をネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う」場合には、ESMPRO/AC Enterprise のセットアップカードを参照の上で、「ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定」を実施願います。
「UPS を使用せずに自動運転を行う」場合には、ESMPRO/AC Advance セットアップカードを参照の上で、「ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定」を実施願います。

注意：
製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」は起動できません。

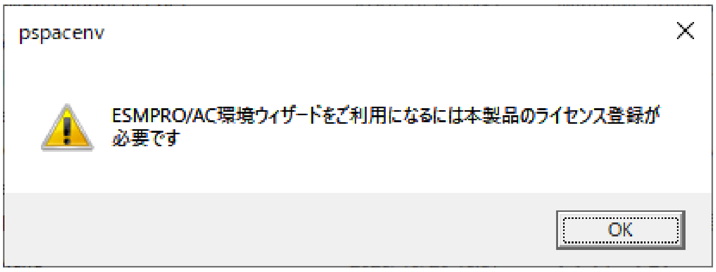


図 ３.３-１

「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動するには、「スタート」－「プログラム」－「ESMPRO_AutomaticRunningController」を選択します。さらに、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を選択してください。

図 ３.３-２

３．３．１　ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定（環境設定ウィザードボタン）

「環境設定ウィザード」ボタンを押すと、環境設定ウィザードが起動されます。

図 3.3-3

表示される選択肢に応じて説明いたします。

（１）　UPSをネットワーク経由で制御し電源管理／自動運転を行う

> この選択をするには『ESMPRO/AC Enterprise』のインストールが必須です。
> 設定方法は『ESMPRO/AC Enterprise』のセットアップカードに記載しています。
> 同セットアップガイドをご参照の上で、設定をお願いします。

（２）　UPSを使用せずに自動運転を行う

> 『ESMPRO/AC Advance』をインストールしている場合は、『ESMPRO/AC Advance』のセットアップカードを参照の上で設定をお願いします。
> 『ESMPRO/AC Advance』をインストールしていない場合は、下記設定をお願いします。

①　”UPSを使用せずに自動運転を行う”を選択し「次へ」ボタンを押します。
②　設定内容が表示されますので、「完了」ボタンを押します。

以上で、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。
ESMPRO/AutomaticRunningControllerサービスが再起動され、「ESMPRO_AC環境設定ウィザード」の設定内容が更新されます。

３．３．２　マルチサーバ構成の設定（「マルチサーバの構成の設定」（AMC の起動）ボタン）

オプション製品である『ESMPRO/AC Enterprise』または『ESMPRO/AC Advance』をインストールされている場合は、マルチサーバ構成の設定が必要です。「マルチサーバ構成の設定（AMC の起動）」ボタンを押すと、「AC Management Console」が起動されます。設定方法の詳細は各オプション製品のセットアップカードを参照ください。

３.４　ライセンスキーの登録

以下の条件でESMPRO/AutomaticRunningController関連製品をインストールした場合、制御端末側でライセンスキー登録作業が必要です。

- ESMPRO/AC Enterpriseをインストールして、ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションをインストールしたサーバを連動端末として使用する場合。
- ESMPRO/AC Advanceをインストールして、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションをインストールしたサーバを連動端末として使用する場合。
- VMware ESXi/ESXを連動端末として使用する場合。

注意

・ライセンス管理ツール「License Management Tool – ESMPEO/AC」起動中に「ESMPRO Platform Management Kit」の「ライセンス・バージョン管理」を実行した場合は、ライセンス状態がすぐに表示されません。本ツールを終了させた後に、もう一度起動してください。

（1）[スタート] → [すべてのプログラム] → [ESMPRO/AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC ライセンス] を起動し、「追加」ボタンを選択します。

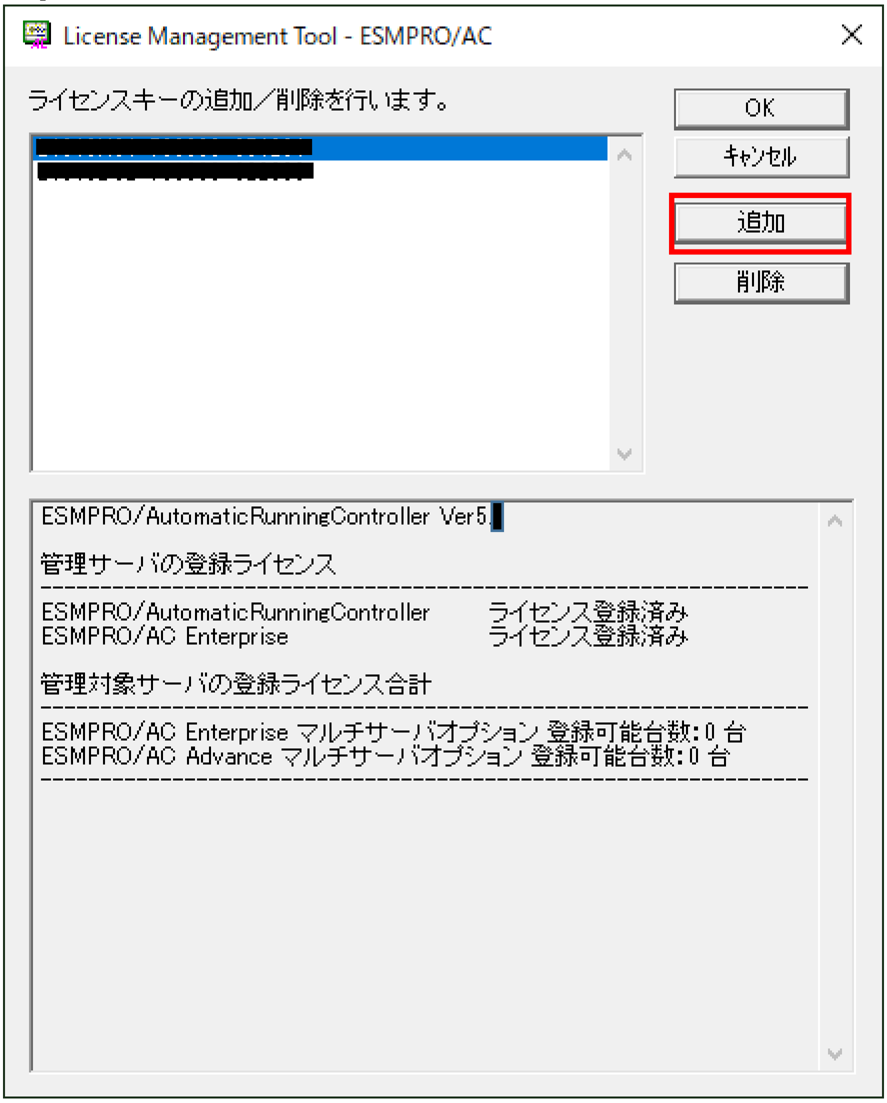


図 3.4-1

（2）ライセンスキーの入力画面が表示されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

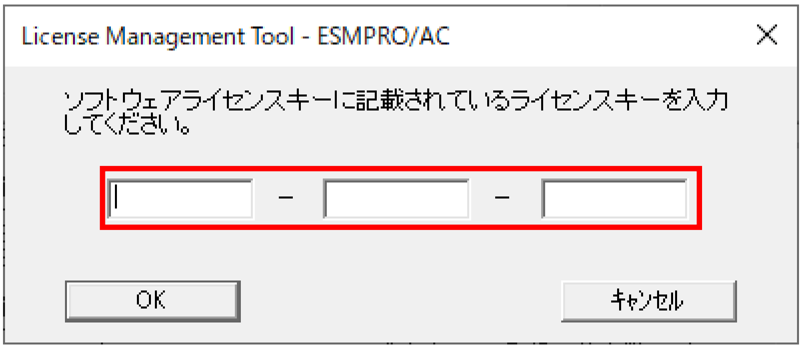


図 3.4-2

（3）下図のように登録したライセンスキーが表示されていることを確認します。

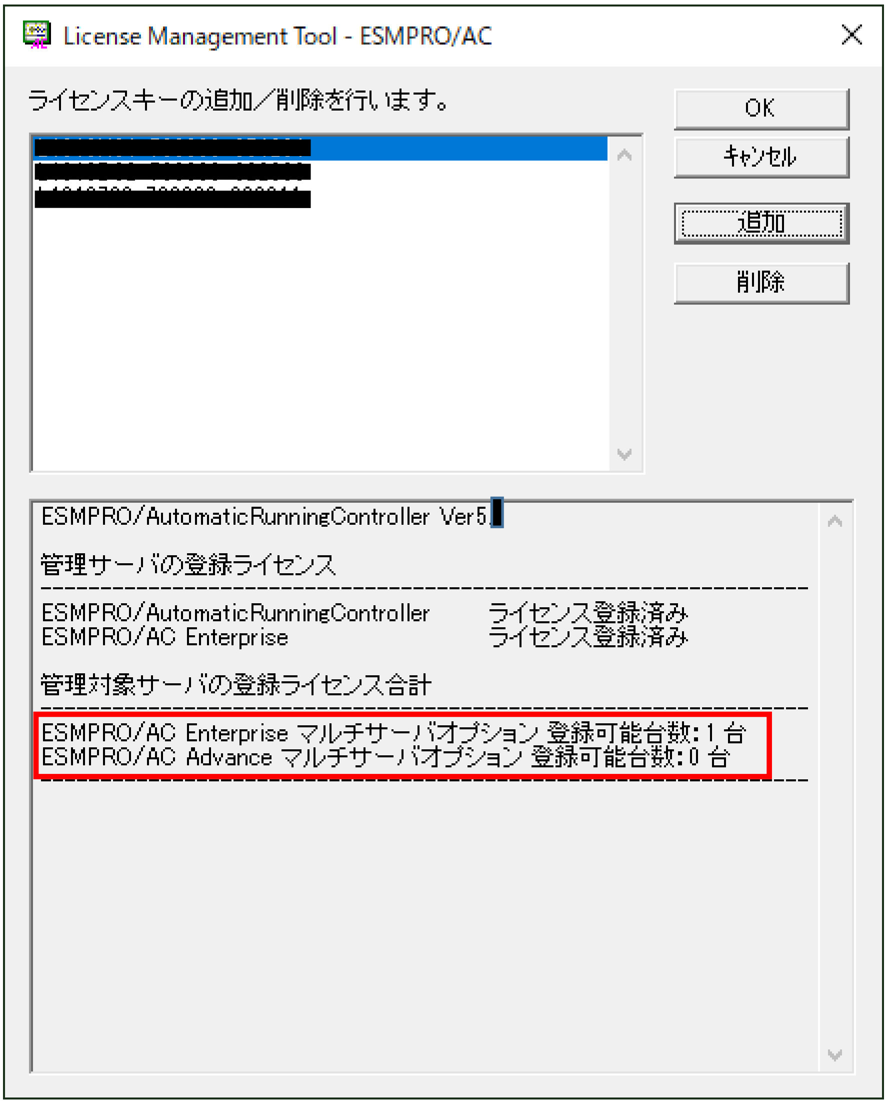


図 3.4-3

３.５　ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストールは、下記 2 つの方法があります。下記いずれかの方法にてアンインストールをしてください。

１．『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール
２．[コントロール パネル] を用いたアンインストール

３．５．１　『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール

注意

・ 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション）がインストールされている場合は、先にそれらの製品のアンインストールを実行します。（方法についてはオプション製品のセットアップカードを参照してください。）

・ 対象サーバに CLUSTERPRO X がインストールされている場合は、CLUSTERPRO サービスを停止させた後、コマンドプロンプト上で下記コマンドを実行します。CLUSTERPRO サービスの停止方法については、CLUSTERPRO X のマニュアルを参照してください。

```
> clpacmode disable
```

・ ESMPRO Platform Management Kit よりアンインストールを実行する場合は、「３.５.２ [コントロール パネル]を用いたアンインストール」を行ってください。

・ CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、[コントロール パネル]を用いたアンインストール に記載した方法にてアンインストールを行ってください。

（1）インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。

（2）CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

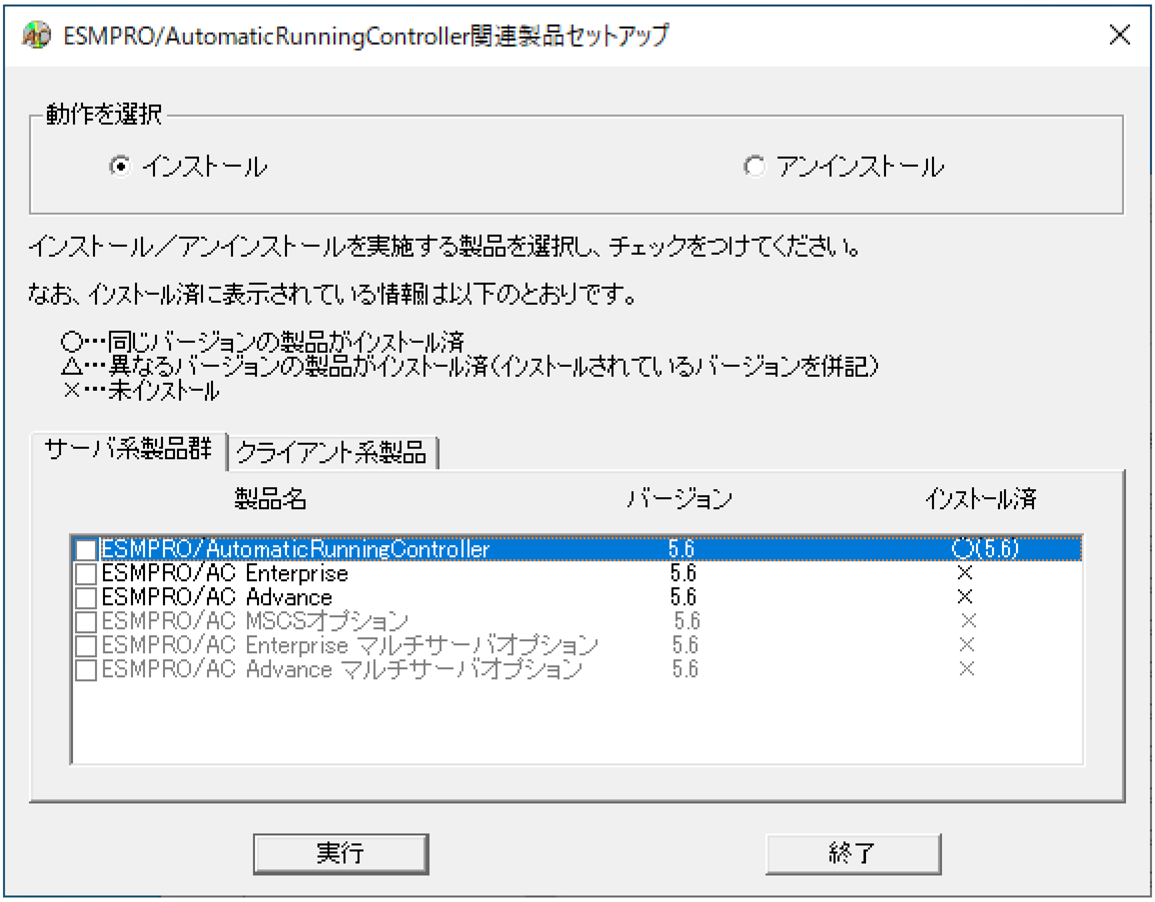


図 3.5-1

（3） 「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

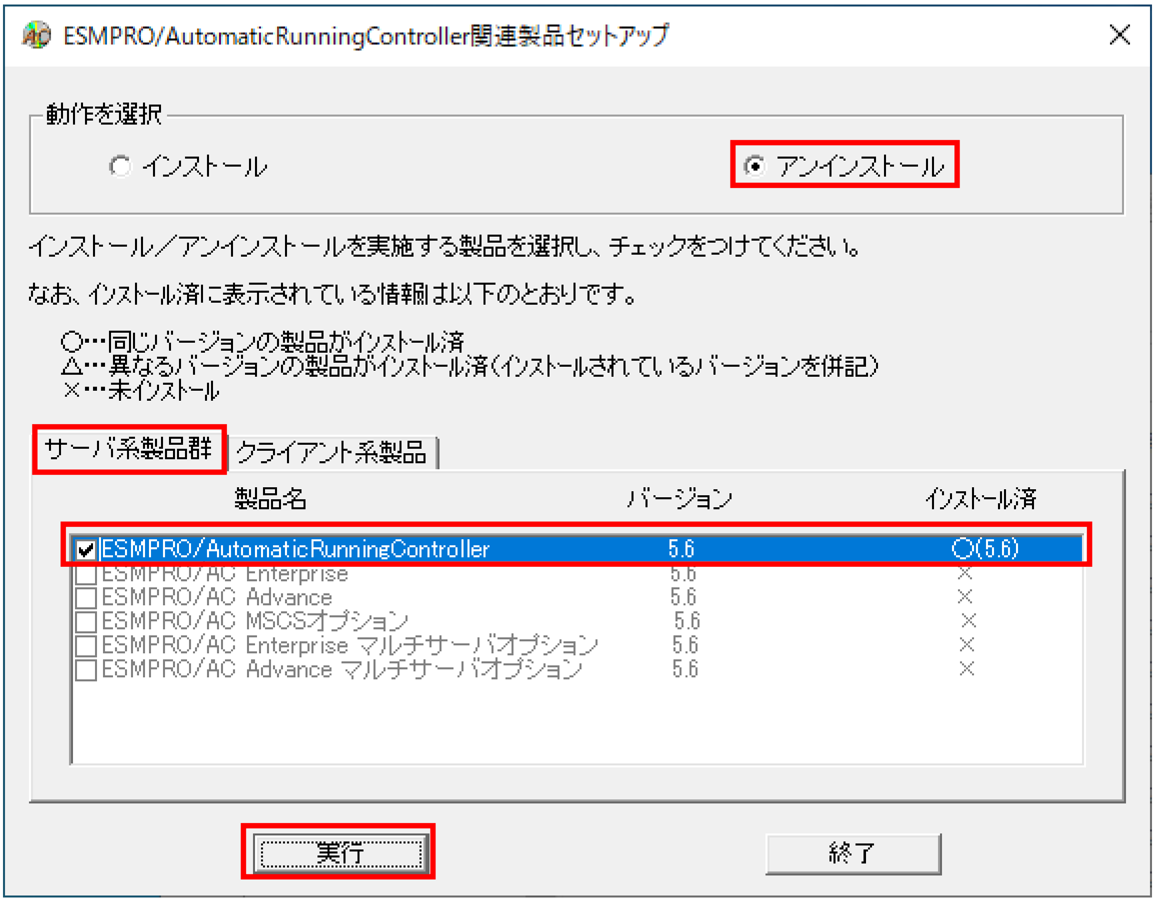


図 3.5-2

（4） 「実行」ボタンを選択します。

（5）選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.5-3

（６）インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

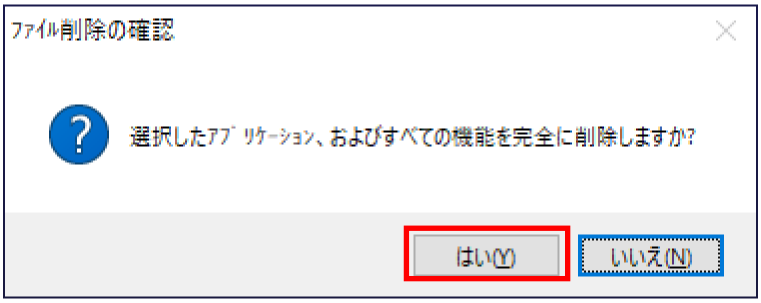


図 3.5-4

（７）ファイルの削除が行われます。

（８）次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

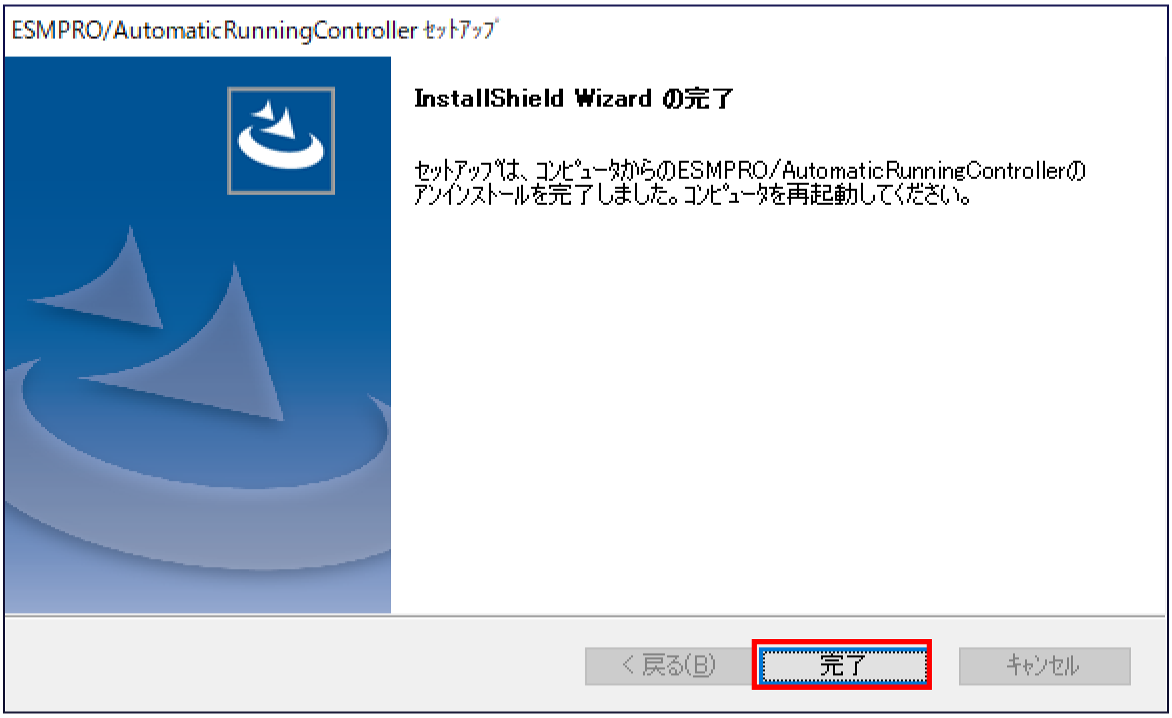


図 3.5-5

（９）最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。

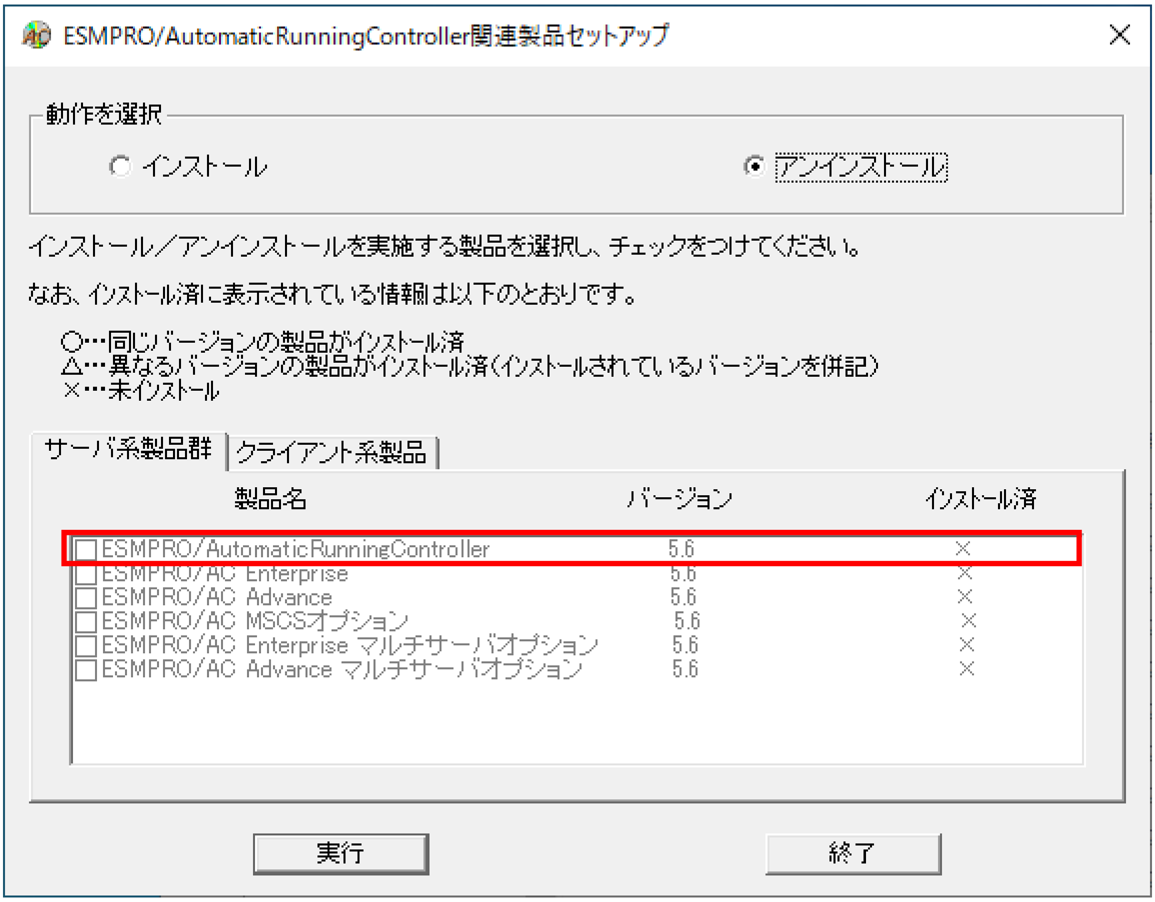


図 3.5-6

（１０）アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

３．５．２　[コントロール パネル]を用いたアンインストール

__注意__

- 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品（ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション）がインストールされている場合は、先にそれらの製品のアンインストールを実行します。（方法についてはオプション製品のセットアップカードを参照してください。）

- 対象サーバに CLUSTERPRO X がインストールされている場合は、CLUSTERPRO サービスを停止させた後、コマンドプロンプト上で下記コマンドを実行します。CLUSTERPRO サービスの停止方法については、CLUSTERPRO X のマニュアルを参照してください。

```
> clpacmode disable
```

（１）インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。

（２）タスクバーの検索ボックスに ”コントロール” と入力し、検索結果の [コントロール パネル] をクリックします。

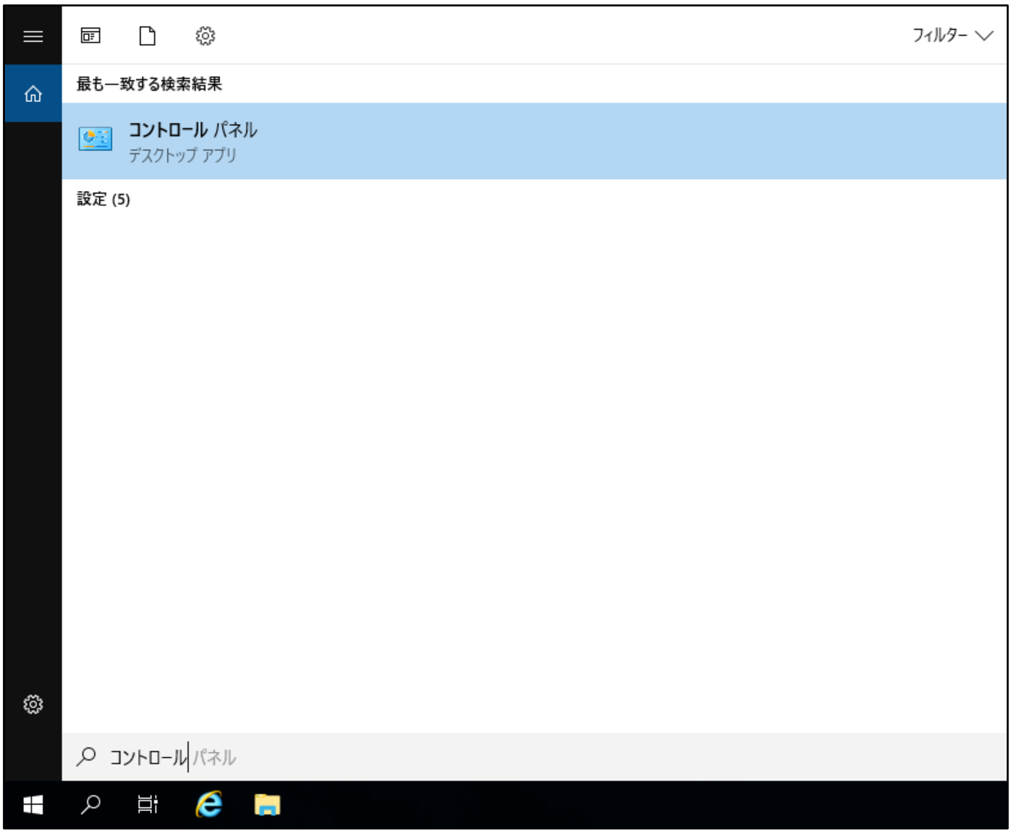


図 3.5-7

（3）コントロールパネルから [プログラム] → [プログラムと機能] をクリックします。

図 3.5-8

（4）ESMPRO/AutomaticRunningController をクリックした後、[アンインストール]をクリックします。

図 3.5-9

（５）インストーラが起動され、確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

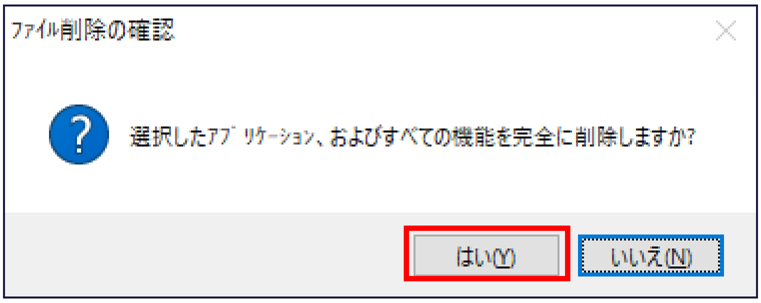


図 3.5-10

（６）ファイルの削除が行われます。

（７）次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

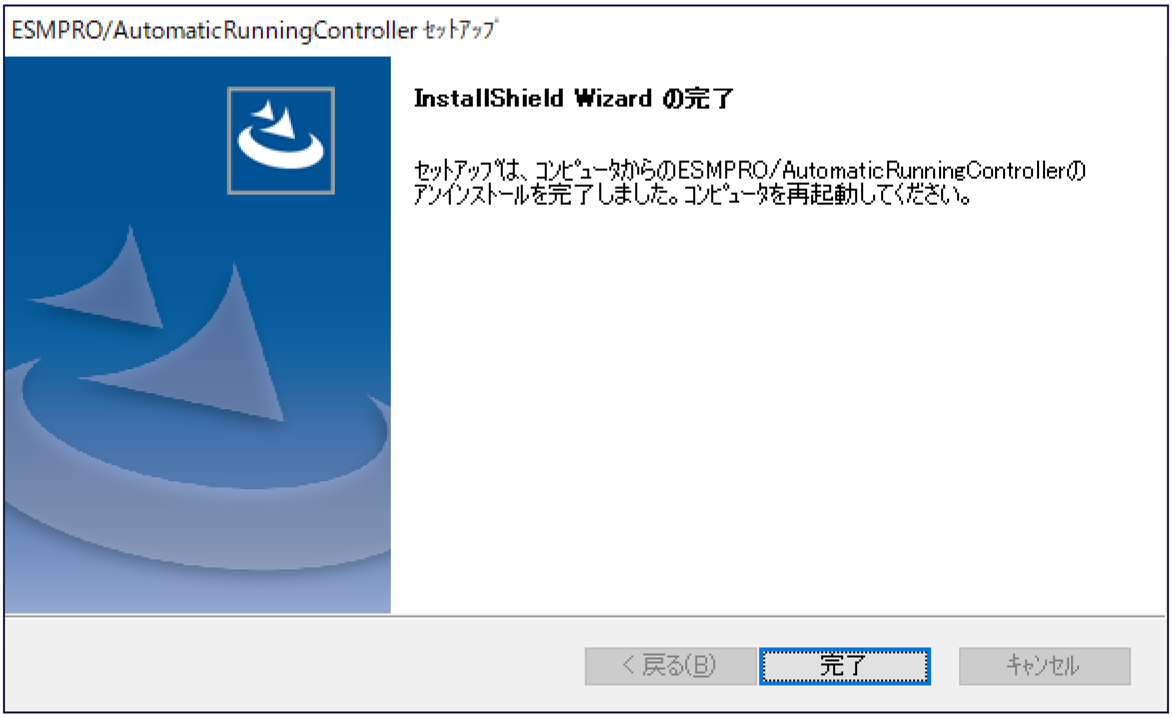


図 3.5-11

（８）アンインストール後は、システムを再起動してください。

第４章　スケジュール運転の設定

４.１　スケジュール運転によるサーバの自動運転

<u>注意：</u>
　製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI 」は起動できません。

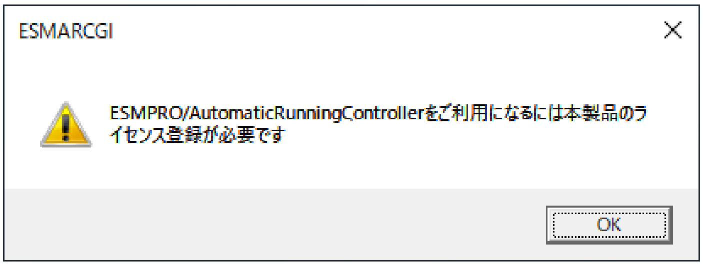


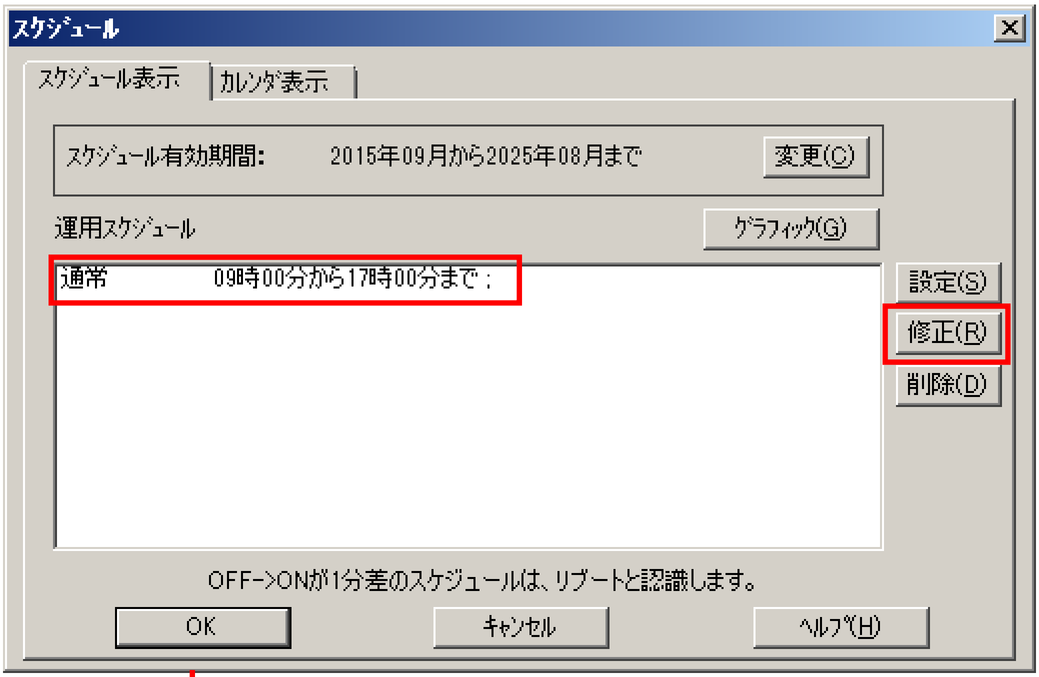
図 4.1-1

自動運転を行うサーバのスケジュール登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』で設定を行う必要があります。
以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。
①月曜日から金曜日までは、8時00分 に電源投入。17時00分 に電源切断。
②土日祝は、運用しない。

（１） ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動
[スタート] メニュー → [すべてのプログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC] を起動してください。起動すると以下のような画面が表示されますので「スケジュール」ボタンを押してください。

図 4.1-2

（２）　「スケジュール」画面が表示されますので、画面内の
“通常 09時00分から17時00分まで ” （赤枠）を選択し「修正」ボタンを押してください。



“月曜日から金曜日までは、8 時 00 分 に電源投入。17 時 00 分 に電源切断。”
設定を行います。投入時間を 9 時 00 分 → 8 時 00 分 に変更し、
「OK」ボタンを選択してください。

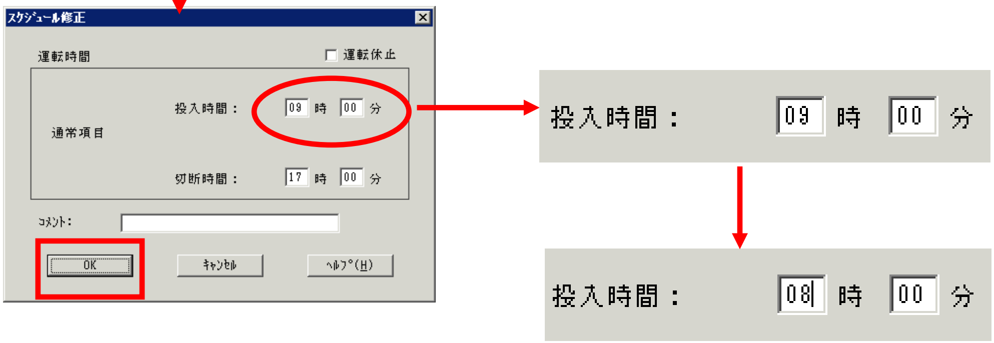


図 4.1-3

（３）　「スケジュール」画面に戻りますので、（２）で変更した時間が反映されているか確認を行います。
問題なければ、「設定」ボタンを選択して、”②土日祝は、運用しない。” の設定を行います。

①　「設定」画面が表示されましたら「祭日休日指定」タブを選択します。赤枠内すべてのチェックを有効にします。

②　次に「曜日指定」タブを選択します。同じく赤枠内のように、「複数曜日」と「日」、「土」、「運転休止」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択してください。

③　「スケジュール」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択してください。

④　青枠のようなメッセージ画面が表示されますので、すべて「はい」または「OK」ボタンを選択してください。

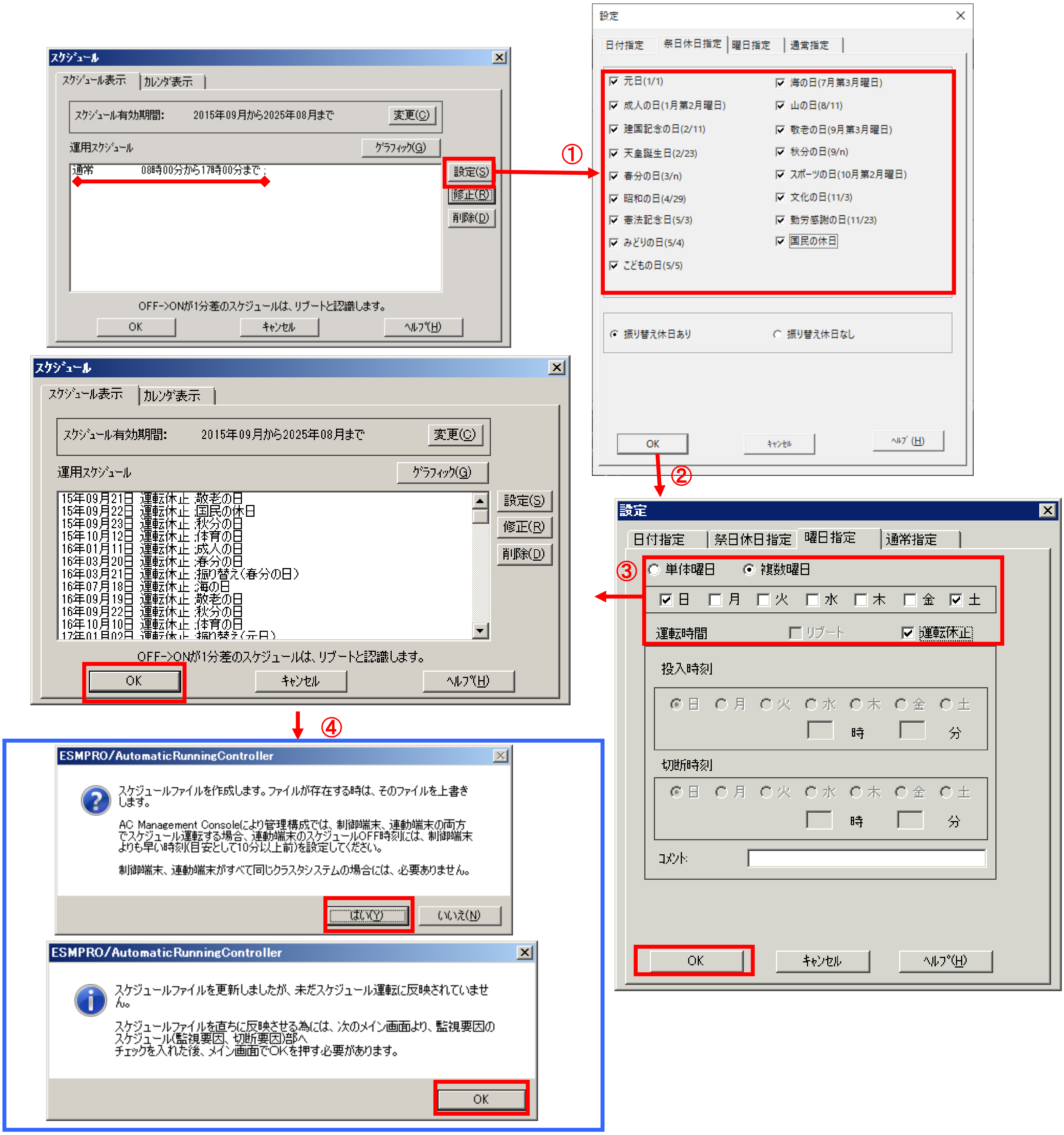


図 4.1-4

（4） 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

① 以下のような画面が表示されましたら、「投入要因」タブと「切断要因」タブ内にある、“基本部”欄の 「スケジュール」のチェックを有効にしてください。
その後「OK」ボタンを選択してください。

② メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

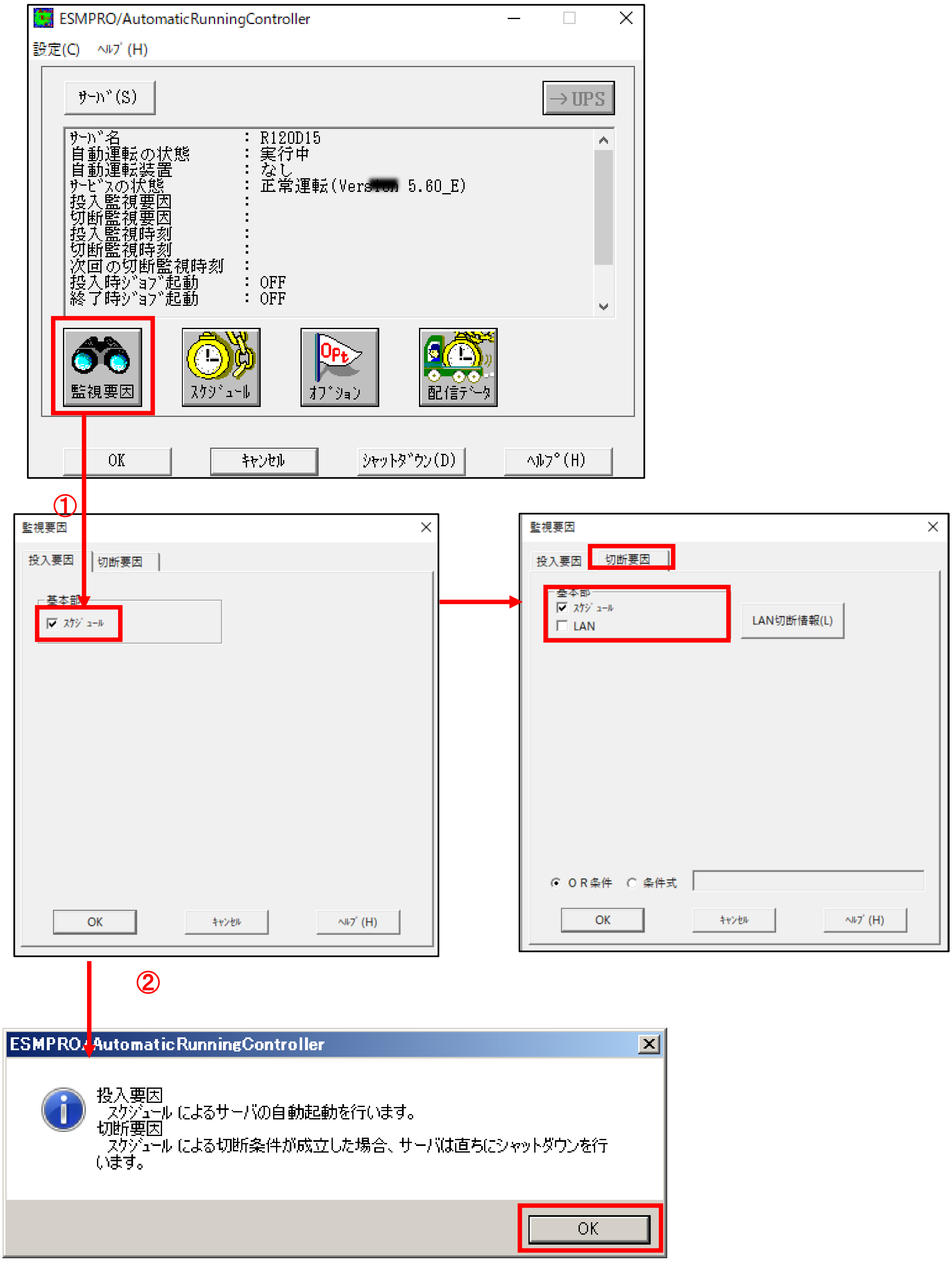


図 4.1-5

（5） 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。

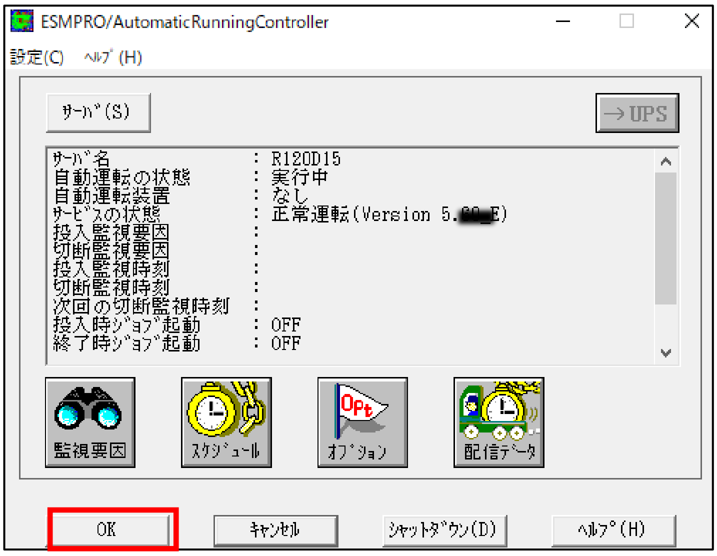


図 4.1-6

以下のような画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。
「OK」ボタンを押しますと、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。

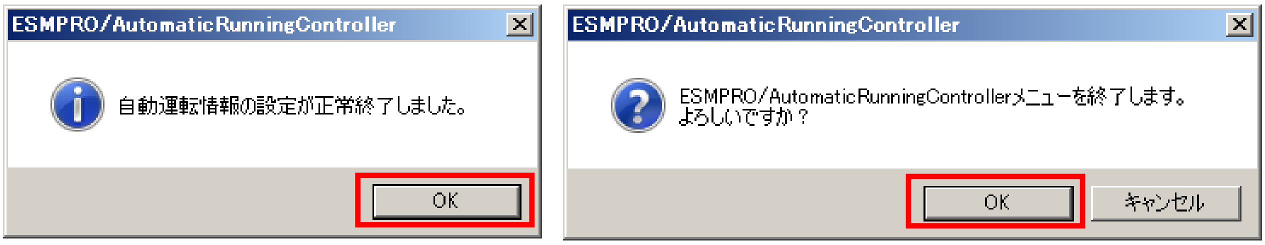


図 4.1-7

※参考
最後の確認メッセージで「キャンセル」を選択すると、スケジュール運転設定完了後の情報確認ができます。

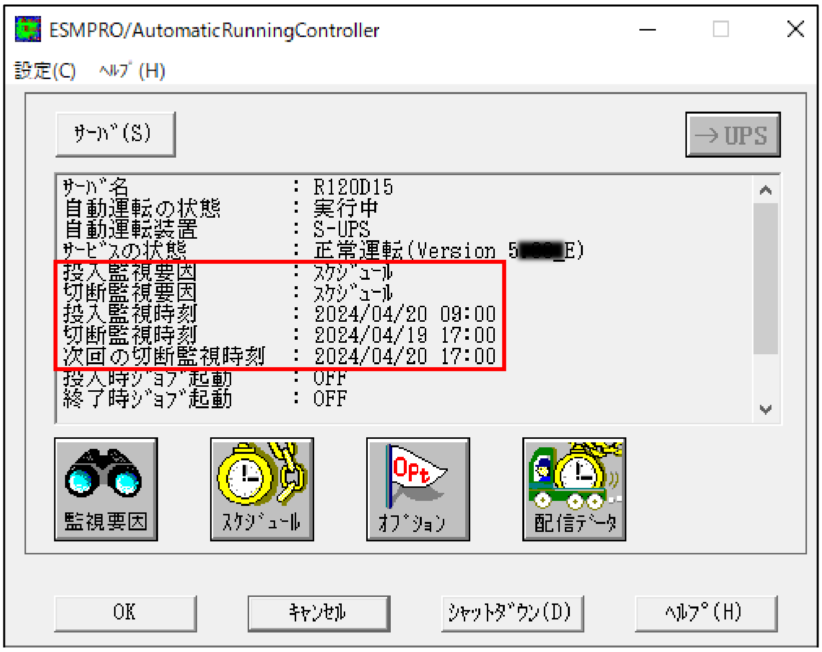


図 4.1-8

（注意事項）
スケジュール設定方法の詳細は、『ESMPRO/AC GUI』のヘルプ、
"「スケジュール」ダイアログボックス" をご参照ください。

- スケジュールの設定には優先順位があり、日付項目→曜日項目→通常項目という順位で優先されます。
- 祭日休日は、設定した時のスケジュールの有効期限内のみ運転休止に登録します。
- 設定後は、グラフィック表示やカレンダ表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

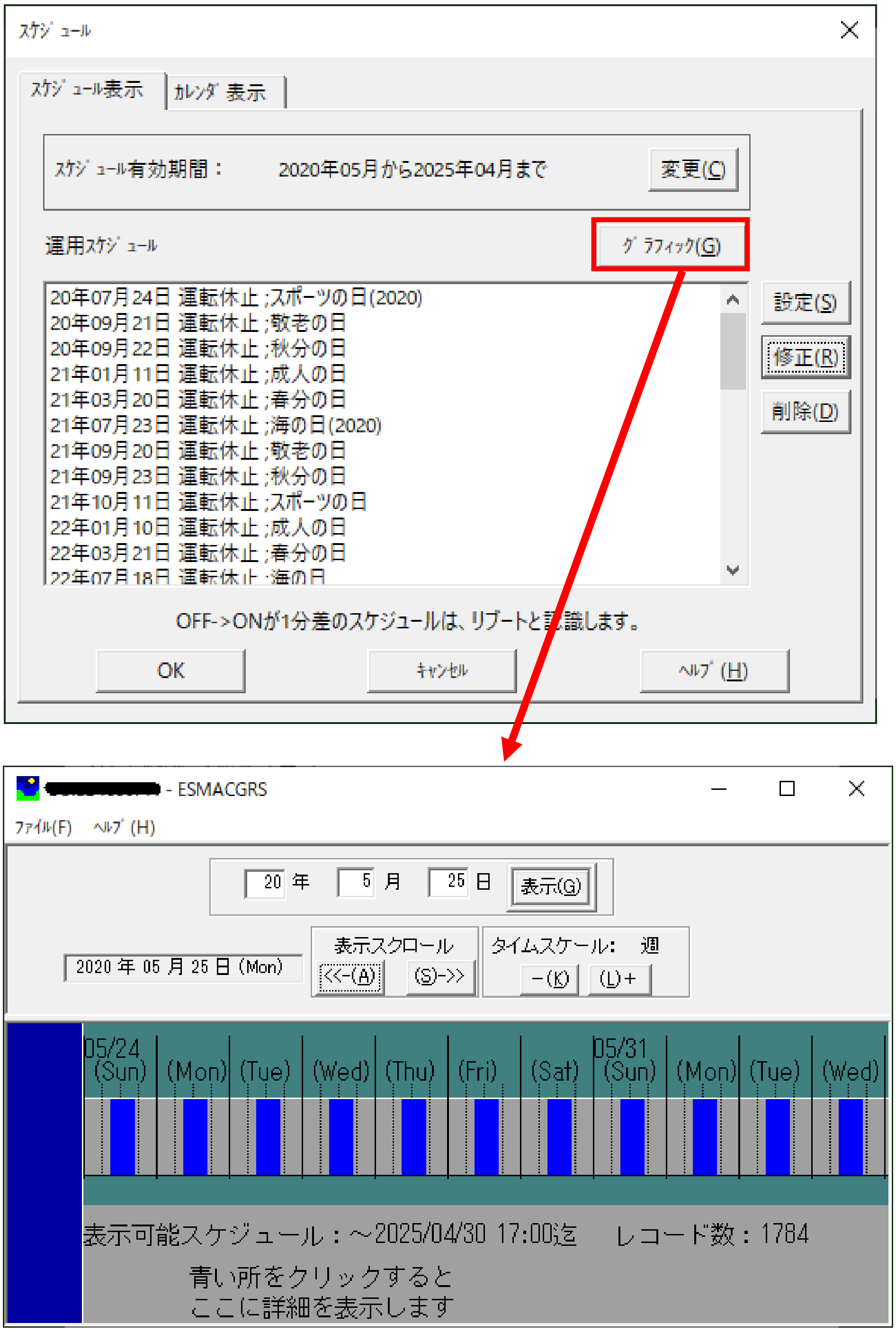


図 4.1-9

第５章　ジョブの登録方法

ESMPRO/AutomaticRunningControllerでは、サーバ停止時に動作させるジョブ（バッチファイルまたはプログラム）をあらかじめ登録することができます。ジョブの登録は、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』で行います。

注意１

- 登録されたジョブは、ESMPRO/ARC Service サービス（SYSTEM ユーザ）により実行されます。
- コマンドプロンプト上で実行した際に Yes / No などの入力を促されるコマンドをジョブとして登録した場合、ジョブが入力待ちの状態となり、正しく実行されないことがあります。
  あらかじめ入力内容を記載したファイルから読み込ませるなどして、入力待ちの状態にならないように工夫願います。
- ジョブ実行に関するお問い合わせの際、ジョブの内容に関してのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承願います。

ジョブの登録には、以下の３つがあります。

①電源投入時のジョブ登録
②電源切断時のジョブ登録
③電源異常切断時のジョブ登録

なお、ここではジョブの登録方法について説明します。

注意２

製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI 」は起動できません。

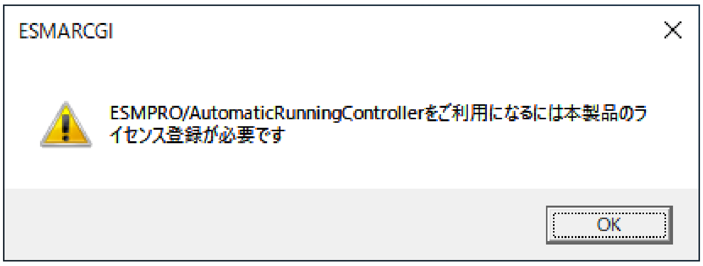


図 5-1

５.１　ジョブ登録画面の起動方法

（１）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUI の起動

[スタート] メニュー → [すべてのプログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC] を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので「オプション」ボタンを押してください。

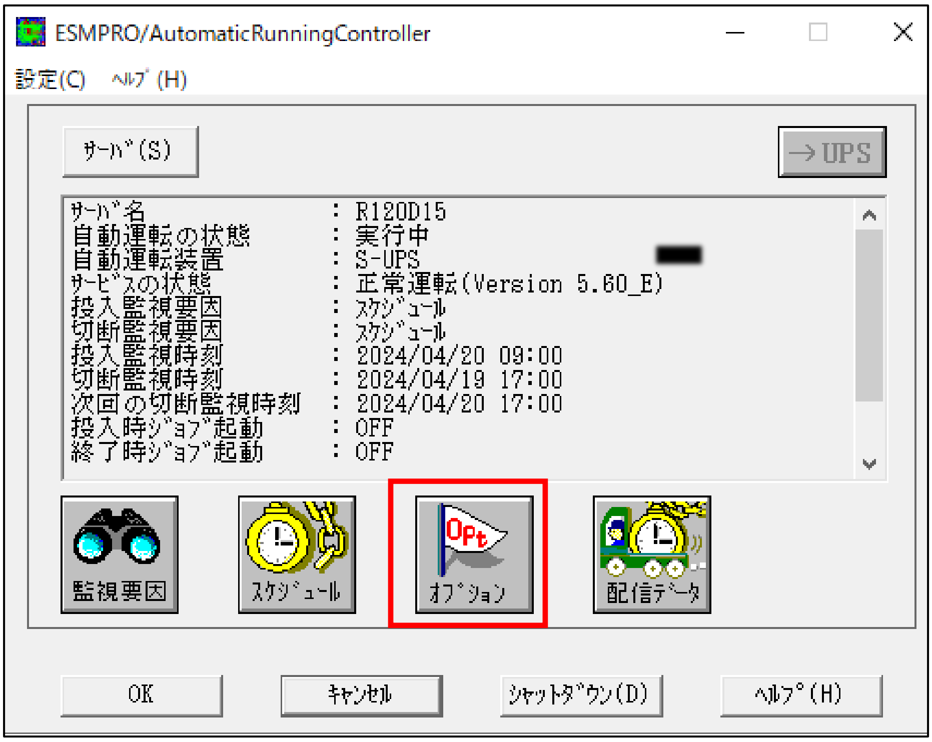


図 ５.１-１

（２）　「オプション」画面が表示されますので、「ジョブ起動」タブに切り替えて「ジョブ起動画面」を表示します。

図 ５.１-２

5.2　電源投入時のジョブ登録方法

投入条件が成立した後、電源を投入した後に、実行するジョブを登録します。

（1）　画面内の「電源投入時」－「電源投入時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(D)」ボタンを押せる状態にします。

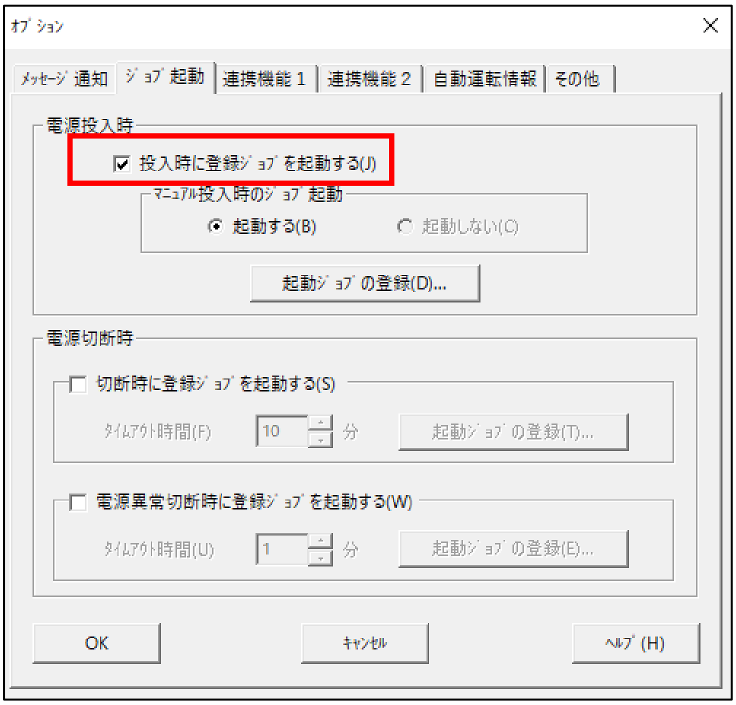


図 5.2-1

（2）　画面内の「電源投入時」－「起動ジョブの登録」ボタンを押して、起動時のジョブ登録画面を表示します。

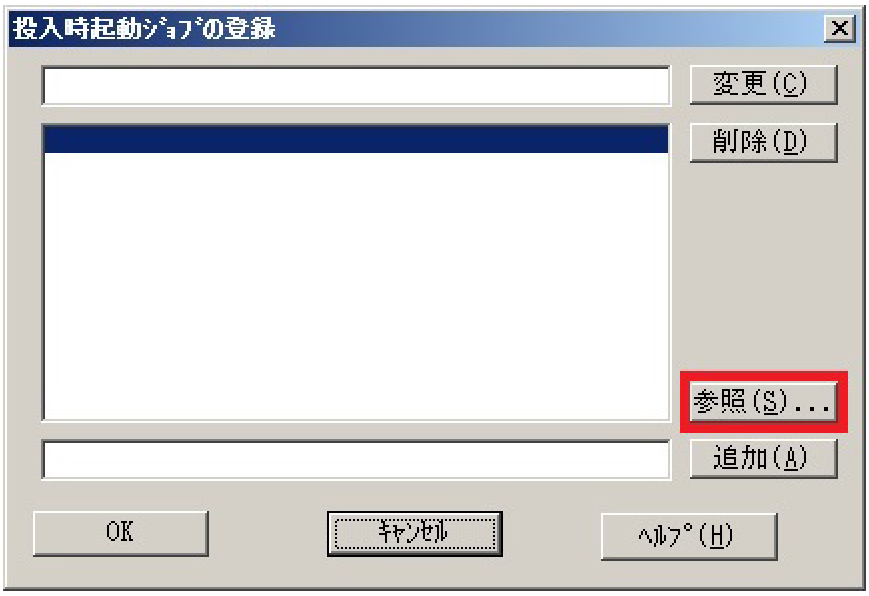


図 5.2-2

※登録時の注意事項

1．ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されますが、複数のジョブが登録された場合は、先に実行されたジョブの終了を待たずに並列で実行されます。
＜ジョブ登録例＞ コマンドリスト
C:¥JOB1.EXE 1
C:¥WORK¥JOB2.EXE
D:¥TEMP¥JOB3.EXE /A /B
D:¥USER1¥BACKUP.EXE
上記登録例の場合、JOB1.EXE → JOB2.EXE → JOB3.EXE → BACKUP.EXE の順番に起動され、並列して実行されます。

2．登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3．コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4．登録できるジョブ数は、最大９９個です。
5．登録するジョブが複数ある場合は、（３）から（５）の手順を繰り返し実行してください。

（３） 「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

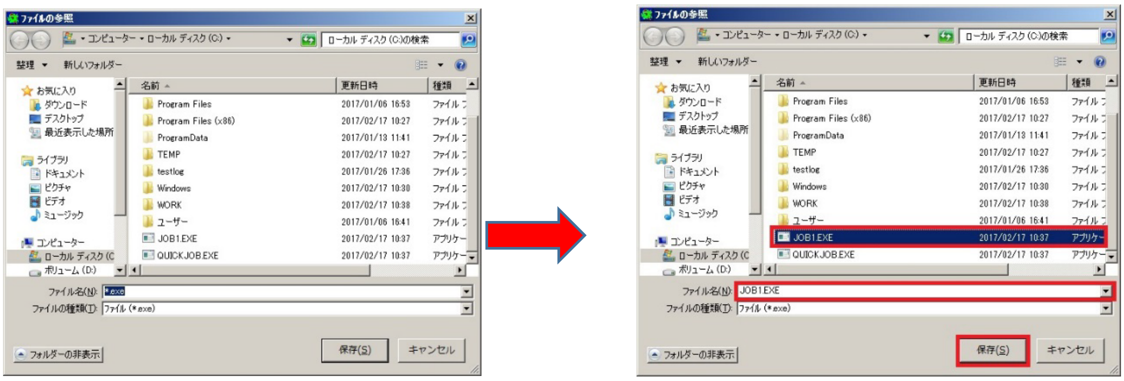


図 5.2-3

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力をします。

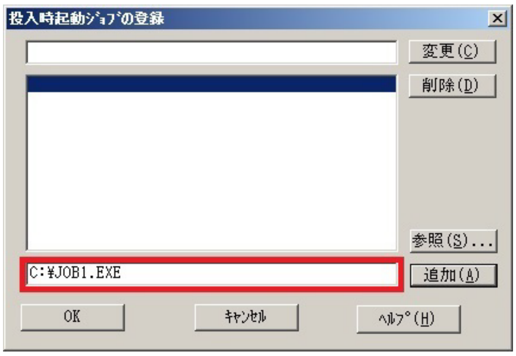


図 5.2-4

（4）　画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンドパラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例）コマンドパラメータとして１を入力した場合

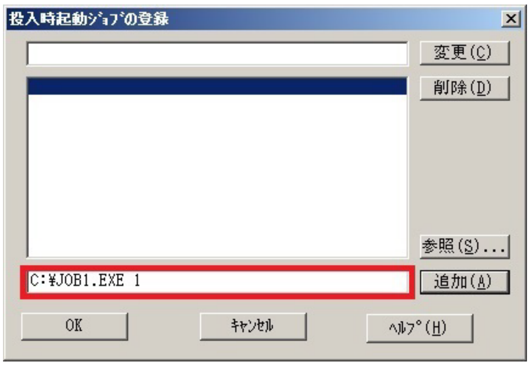


図 5.2-5

（5）　「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

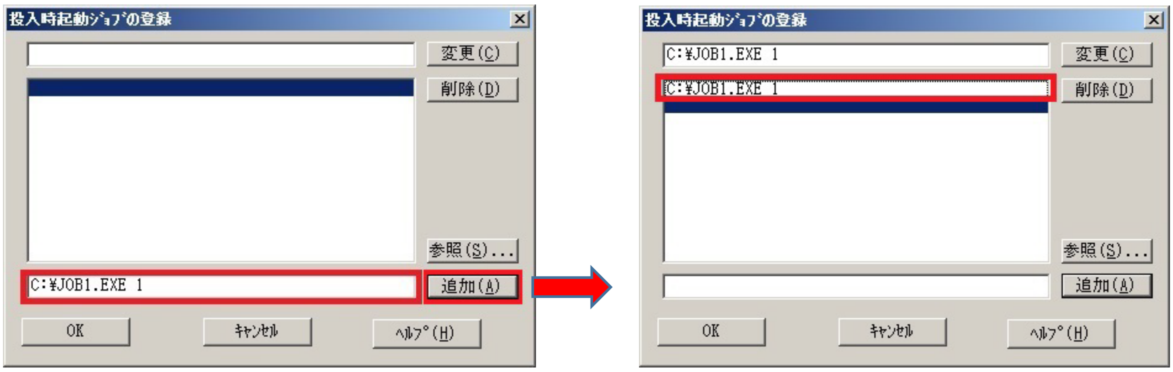


図 5.2-6

（6）　登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

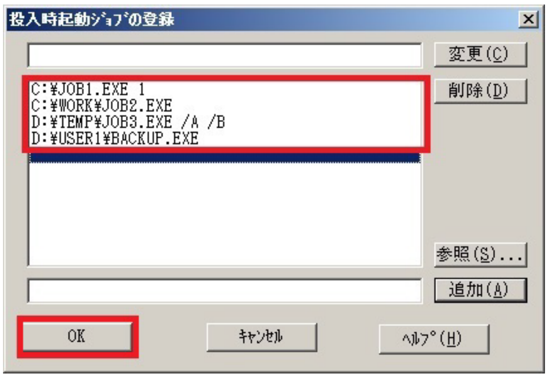


図 5.2-7

５.３　電源切断時のジョブ登録方法

切断条件が成立した後、電源を切断する前に、実行するジョブを登録します。
電源切断時のジョブ登録には、以下の２つがあります。

１．切断時に登録ジョブを起動する場合

２．電源異常切断時に登録ジョブを起動する場合

５．３．１　電源切断時に起動するジョブの登録方法

スケジュール運転やAC Management Console からのシャットダウン等、電源異常ではない場合のシャットダウンが開始する前に、登録ジョブが起動します。

（１）　画面内の「電源切断時」－「切断時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押せる状態にします。

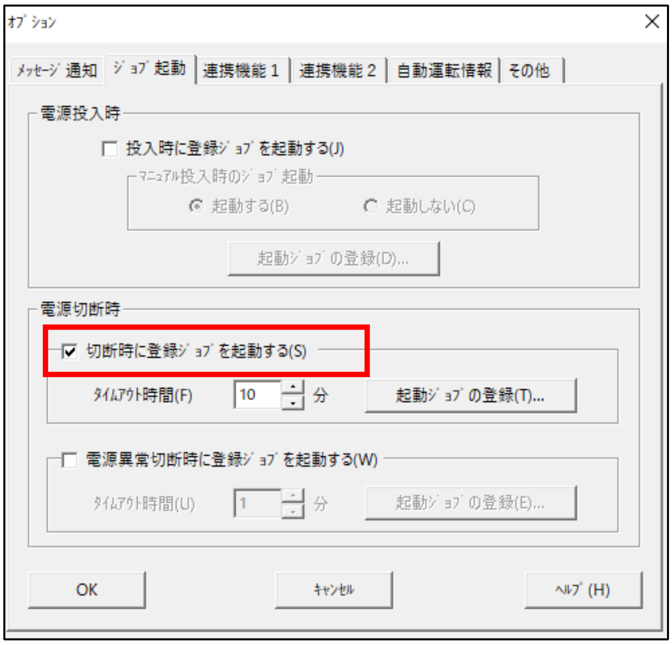


図 5.3-1

（２） 画面内の「電源切断時」－「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押して、切断時起動ジョブの登録画面を表示します。

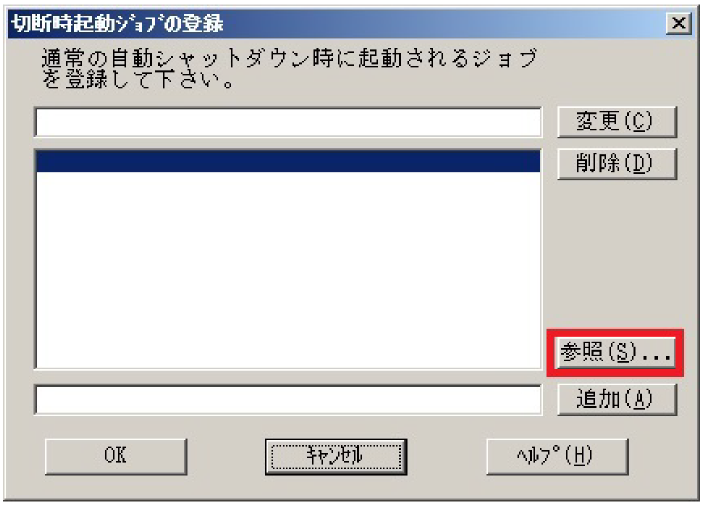


図 5.3-2

※登録時の注意事項

1．ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されます。
<電源異常切断時のジョブ登録例> コマンドリスト
1　　C:¥QUICKJOB.EXE
上記登録例の場合、QUICKJOB.EXE を実行します。

2．登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3．コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4．登録できるジョブ数は、最大９９個です。
5．登録するジョブが複数ある場合は、（３）から（５）の手順を繰り返し実行してください。

（３） 「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

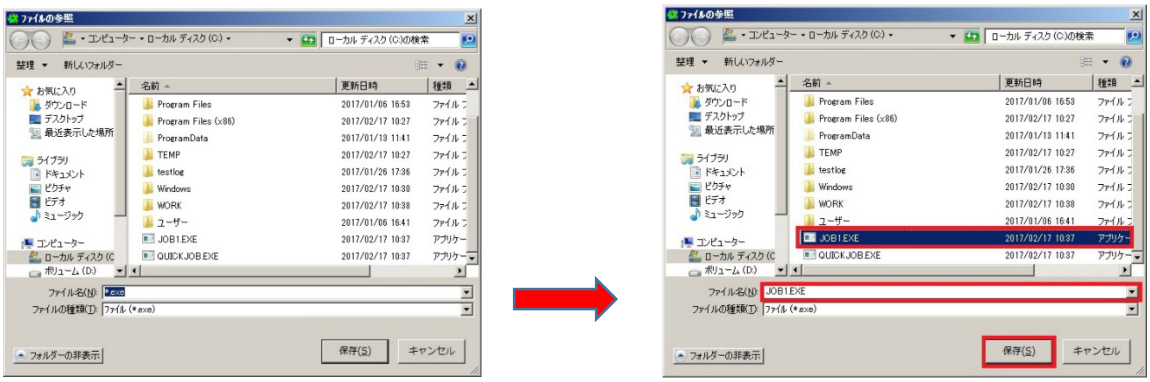


図 5.3-3

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力をします。

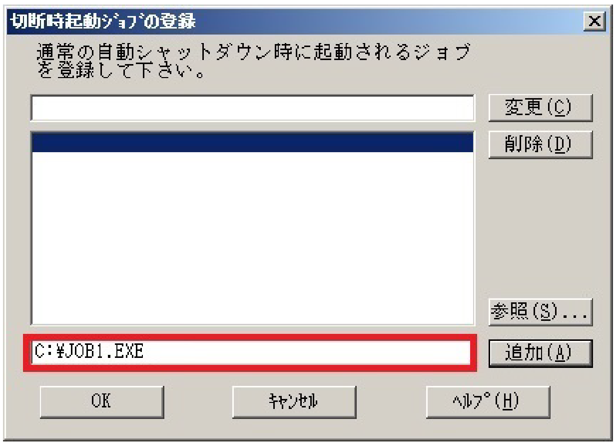


図 5.3-4

（4） 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンドパラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例）コマンドパラメータとして１を入力した場合

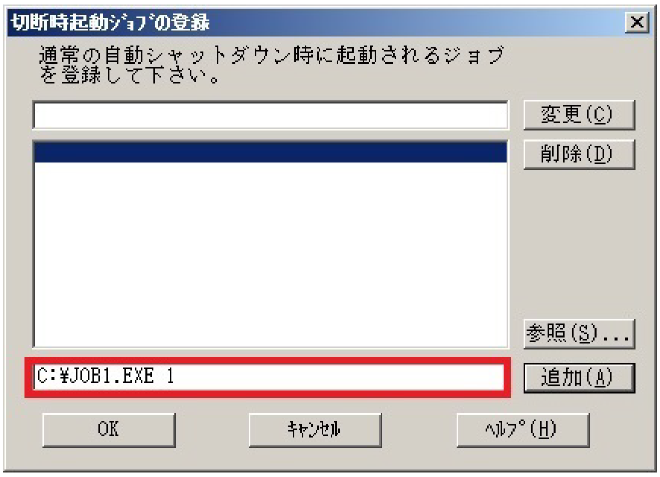


図 5.3-5

（5） 「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

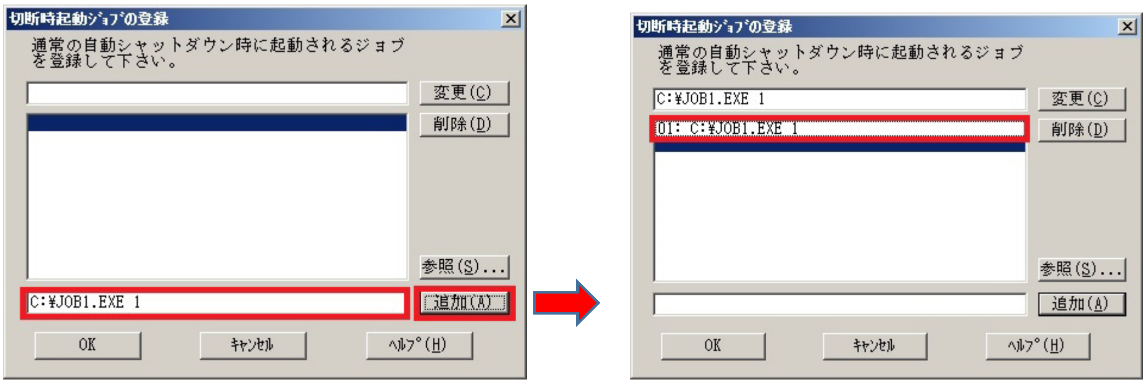


図 5.3-6

（6）　登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

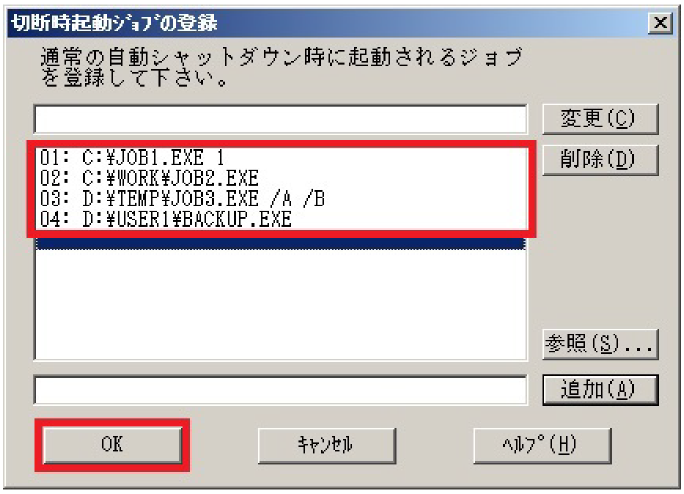


図 5.3-7

（7）　画面内の「電源切断時」－「タイムアウト時間(F)」の設定を行います。
設定範囲は、1 分～255 分となります。
このタイムアウト時間以内に登録されたジョブが完了しない場合は、その時点でサーバのシャットダウン処理に移行しサーバが強制終了します。

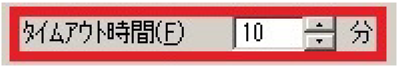


図 5.3-8

５．３．２　電源異常切断時に起動するジョブの登録方法

電源異常によるシャットダウンの前に、登録ジョブを起動することができます。
登録方法について記載します。

（１）　画面内の「電源切断時」ー「電源異常切断時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(E)」 ボタンを押せる状態にします。

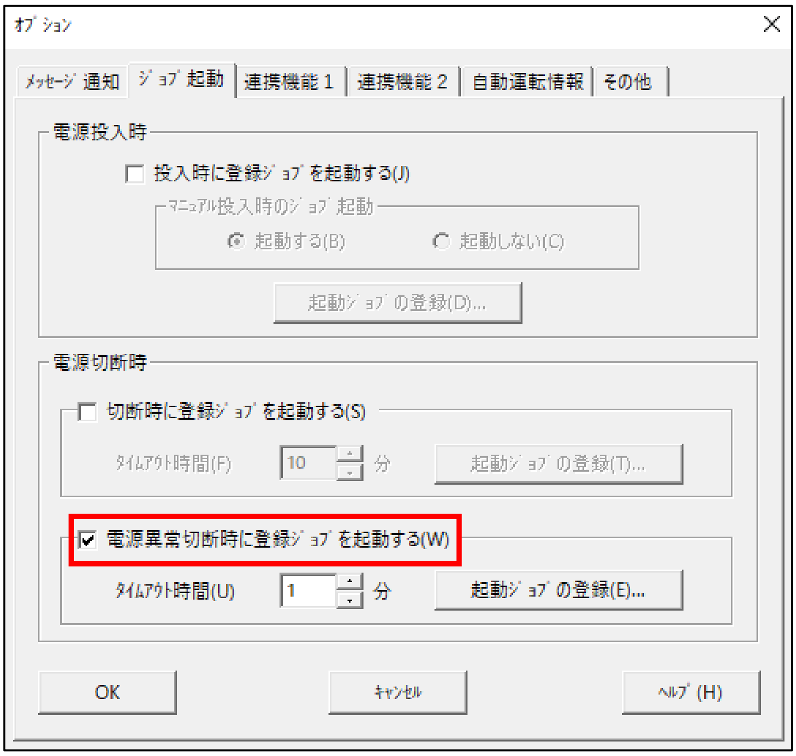


図 5.3-9

（２）　画面内の「電源切断時」ー「起動ジョブの登録(E)」ボタンを押して、電源異常時の切断時起動ジョブの登録画面を表示します。

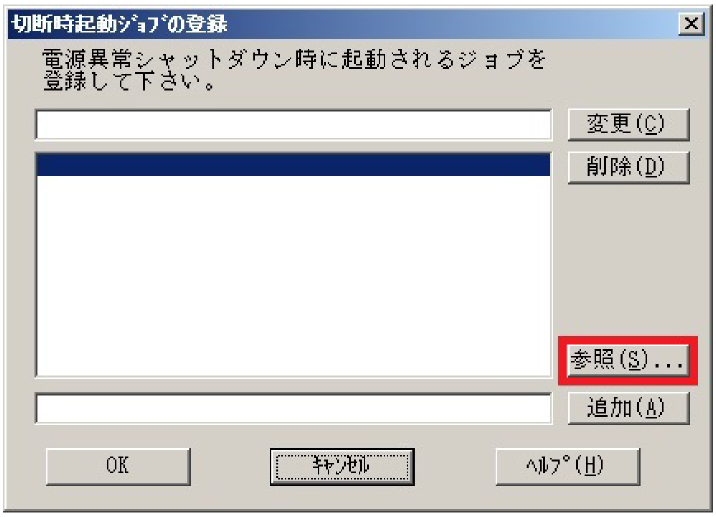


図 5.3-10

※登録時の注意事項

1．ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されます。
＜電源異常切断時のジョブ登録例＞ コマンドリスト
1　　C:¥QUICKJOB.EXE
上記登録例の場合、QUICKJOB.EXE を実行します。
2．登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3．コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4．登録できるジョブ数は、最大９９個です。
5．登録するジョブが複数ある場合は、（３）から（５）の手順を繰り返し実行してください。

（３）　「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

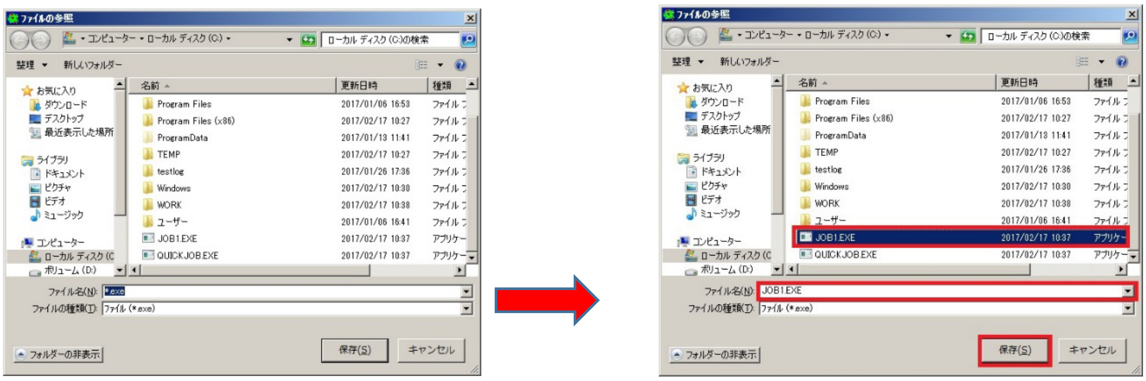


図 5.3-1１

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力をします。

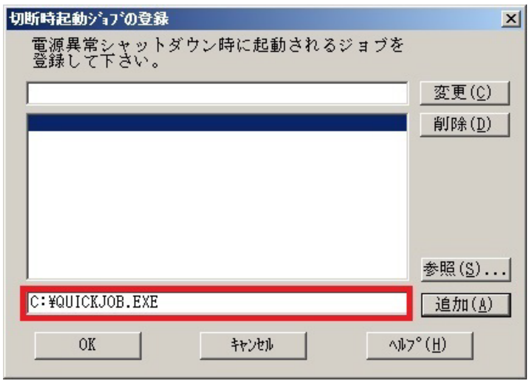


図 5.3-1２

（4）　画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンドパラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例）コマンドパラメータとして１を入力した場合

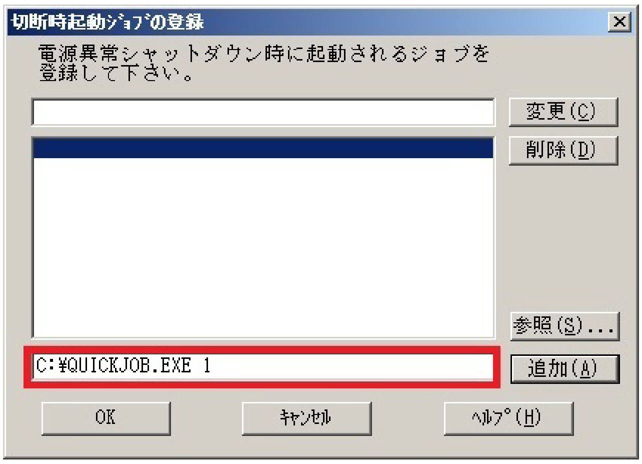


図 5.3-1３

（5）　「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

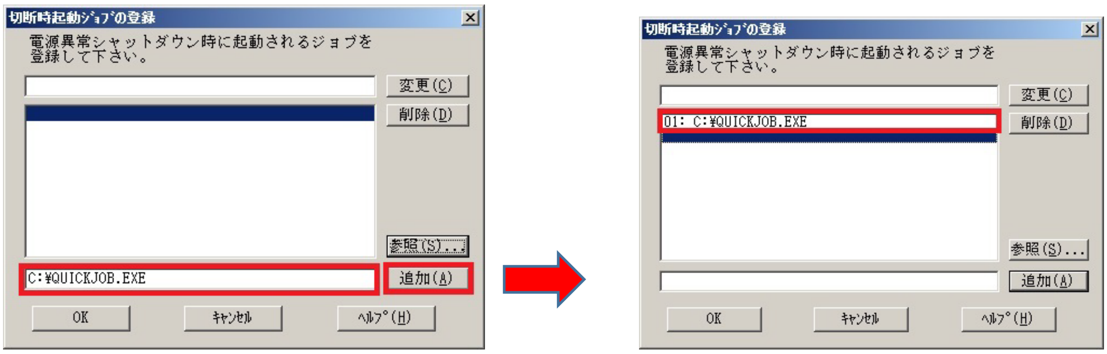


図 5.3-1４

（6）　登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

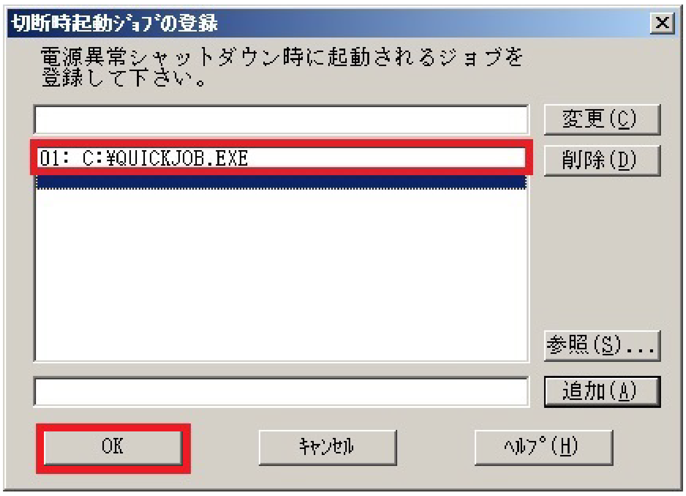


図 5.3-1５

（７）　画面内の「電源切断時」－「タイムアウト時間(U)」の設定を行います。
設定範囲は、1 分～30 分となります。
このタイムアウト時間以内に登録されたジョブが完了しない場合は、その時点でサーバのシャットダウン処理に移行しサーバが強制終了します。

図 5.3-16

５.４　ジョブ登録の保存

（１）　「５．３　電源切断時のジョブ登録方法」にて登録された内容を保存するには、オプション画面の下段にある「OK」ボタンを押してください。

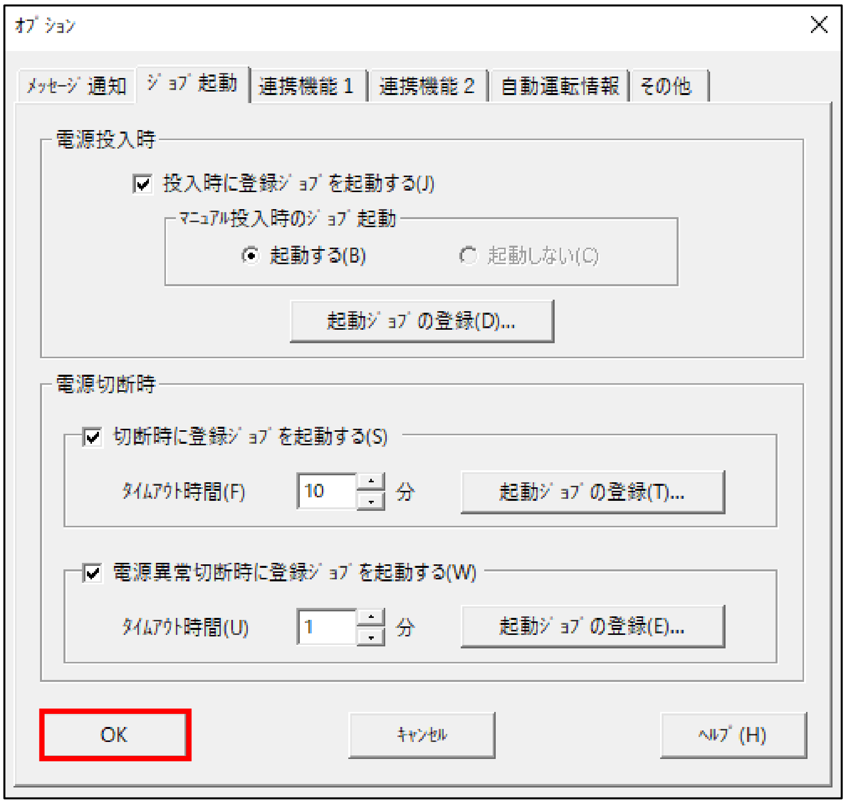


図 5.4-1

第６章ユーティリティ

ESMPRO/AutomaticRunningController では、各種ユーティリティコマンドを用意しています。ユーティリティコマンドを使うことで、細やかな電源制御が可能となります。ユーティリティコマンドは特に明記がないかぎり、ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールディレクトリ直下にあります。

例：C:¥Program files (x86)¥AUTORC¥

コマンドの機能ならびに使い方を説明します。

６.１　acpowoff.exe

[名前]

acpowoff.exe　-　電源切断処理の実行

[構文]

```
acpowoff [r|R] [WaitTime]
```

[機能]

電源切断処理を実行する。

パラメータを１つ以上指定した場合、非対話型コマンドとして動作し、確認ならびにメッセージを一切表示しない。

パラメータを何も指定しなかった場合、対話型コマンドとして動作し、確認ならびにメッセージをメッセージボックスで表示する。

[パラメータ]

r, R

リブートする。同オプション指定がない場合、電源切断処理はシャットダウンとなる。クラスタ連携時には、同オプションの指定（リブート）は不可である。

WaitTime

WaitTime 秒 停止した後で、電源切断処理を実行する。指定可能な値は 0～4294967(10 進数、デフォルト値 0)。

[戻り値]

0x00000000 電源切断成功。
0x20000000 サービスが起動していない。
0x20000001 ESMPRO/AC サービスとの間の通信エラーが発生した。
0x20000003 関数内部エラーが発生した。
0x20000004 ESMPRO/AC がインストールされていない。
0x20000005 自動電源制御装置内部エラーが発生した。
0x20000013 ユーザによる関数の停止要求発生。
0x20000100 その他のエラー。

[前提条件]

ESMPRO/ARC Service サービスが動作中であること。

６.２　WAITJOB.EXE

[名前]

WAITJOB.EXE　–　指定した時間だけコマンド終了を待機

[構文]

```
WAITJOB [/?|/h|/H] [WaitTime]
```

[機能]

パラメータ WaitTime で指定した時間(秒)だけ待機した後、本コマンドを終了する。
ジョブ起動機能を使用する際、登録したジョブとジョブの間に一定の待ち時間を設定する必要がある場合や、登録したジョブの後に一定の終了待ち時間を設定する必要がある場合などに使用する。
※本コマンドは、ESMPRO/AC に対して何らかの操作を行うものではない。
＜補足＞
本コマンドは以下のような待ち合わせが必要な場合に利用します。
・バックアップに関するジョブなど、表面上、終了しているように見えているが、実際にはバックグラウンドで動作が継続しているようなジョブを登録した場合
・上記のジョブの後に本コマンドを登録することで、次に登録しているジョブの起動や、電源切断時の場合、ジョブ終了時のシャットダウン起動を、指定した時間分、遅らせることができる。

[パラメータ]

/?, /h, /H

コマンド説明を表示する。

WaitTime

WaitTime 秒 停止する。指定可能な値は 0～9999(10 進数、デフォルト値 20)。

[戻り値]

0 のみ

[ジョブ登録例]

```
C:¥WORK¥BACKUP.EXE
C:¥AUTORC¥WAITJOB.EXE 600
C:¥USER¥JOB1.EXE
```

６．３　GetAcVer.exe

[名前]

GetAcVer.exe　–　ESMPRO/AutomaticRunningController 製品情報出力

[構文]

```
GetAcVer
```

[機能]

ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品の製品情報を確認するためのコマンドである。
本コマンドを利用することにより、コマンドを実行する環境にインストールされている ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品の製品情報をコンソールに出力する。本コマンドは、ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールフォルダに格納されている。

＜ESMPRO/AutomaticRunningController がインストールされているサーバ以外で使用する場合＞
関連製品がインストールされているサーバに、本コマンド（GetAcVer.exe）をコピーして実行する。

[パラメータ]

なし

[コマンドの実行結果]

インストールされている製品の[バージョン]に 5.5x（x は、製品のリビジョン情報）と表示される。

実行結果に表示される[SV]は、ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6 のインストーラ画面に表示されている[サーバ系製品群]に含まれる製品であることを意味する。
また、[CL]は、ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6 のインストーラ画面に表示されている[クライアント系製品]の製品または ESMPRO/AC for Linux 製品に含まれる[クライアント系製品]であることを意味する。

[戻り値]

0 のみ

[コマンドの実行例]

① ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6+ESMPRO/AC Enterprise Ver5.6 がインストールされている環境で実行した場合

```
C:¥Program Files (x86)¥AUTORC>GetAcVer.exe

=======================================================
[製品名]:ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]
[バージョン]:5.6x
[インストールパス]:C:¥Program Files (x86)¥AUTORC
=======================================================
=======================================================
[製品名]:ESMPRO/AC Enterprise[SV]
[バージョン]:5.6x
[インストールパス]:C:¥Program Files (x86)¥AUTORC
=======================================================
```

② ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションがインストールされている環境で実行した場合
ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]のインストールフォルダに格納されている、コマンド(GetAcVer.exe)を ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションがインストールされているサーバ上にコピーして実行する。

```
C:¥>temp¥GetAcVer.exe

=======================================================
[製品名]:ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション[SV]
[バージョン]:5.6x
[インストールパス]:C:¥Program Files (x86)¥AUTORC
=======================================================
```

③ ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6 + ESMPRO/AC Advance Ver5.6 がインストールされている環境で実行した場合

```
C:¥Program Files (x86)¥AUTORC>GetAcVer.exe

=======================================================
[製品名]:ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]
[バージョン]:5.6x
[インストールパス]:C:¥Program Files (x86)¥AUTORC
=======================================================
=======================================================
[製品名]:ESMPRO/AC Advance[SV]
[バージョン]:5.6x
[インストールパス]:C:¥Program Files (x86)¥AUTORC
=======================================================
```

④　ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品が何もインストールされていない環境で実行した場合
ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]のインストールフォルダに格納されている、コマンド(GetAcVer.exe)を該当のサーバ上にコピーして実行する。

```
C:¥>temp¥GetAcVer.exe

（製品情報は何も出力されません。）
```

第７章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController を使用する際には、次の点にご注意ください。

７．１　セットアップ関連

（１）　ESMPRO/ServerManager の統合ビューア利用時の注意
＜統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスを起動する場合＞
「ESMPRO/ServerManager」のインストールを先に行う必要があります。
※ ESMPRO/ServerManager Ver.5 以降では統合ビューアが廃止されているため、ESMPRO/ServerManager から ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスの起動はできません。

７．２　運用関連

（１）　Windows サーバをご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」は OFF（初期状態）にしてください。
「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。

（２）　ESMPRO/AutomaticRunningController による自動電源制御を行っている間は、サーバ本体のパワースイッチを操作して電源を切断しないでください。もしサーバ本体のパワースイッチを操作して電源切断を実行された場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController が介入しない電源操作が行われたことになります。ESMPRO/AutomaticRunningController は次回の電源自動投入を行いません。そのため、Smart-UPS をご使用の場合は、ON/テストボタンや LCD パネルを操作して、手動で電源投入を行ってください。また、Smart-UPS の OFF ボタンや LCD パネルからの操作により UPS を停止しますと、サーバのシャットダウンが行われずにそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。

（３）　ESMPRO/ServerManager の統合ビューア利用時の注意
＜統合ビューアから ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスで行う操作の場合＞
Administrator 権限のあるユーザでのみ操作を行うことができます。

（４）　スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にすることを推奨します。

（5）　「ユーザーアカウント制御」を有効化している場合、以下のような確認ダイアログが表示される場合があります。「続行」ボタンを選択して起動してください。
※インストール時に起動する Setupac.exe や、ESMPRO/AutomaticRunningController の GUI を実行する場合に表示されます。

図 7.2-1

（6）　本バージョンの ESMPRO/AutomaticRunningController は、JIS2004 で新規追加された文字に対応しておりません。そのため、インストール時のインストールパスや、GUI 操作において、JIS2004 の新規追加文字が含まれるパス情報は指定、入力しないでください。

（7）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUI や AC Management Console からパスワードを入力して対象サーバにネットワーク接続する場合、Administrator アカウントでアクセスする必要があります。

（8）　Smart-UPS 相当無停電電源装置を使用してスケジュール運転を行っている環境では以下を注意してください。
・ESMPRO/AutomaticRunningController のシャットダウン以外でシャットダウンを行った場合、ESMPRO/AutomaticRunningController のスケジュール機能は有効になりません。
・停電によるシャットダウンが行われ、スケジュール OFF 時刻経過後に復電により起動してきた場合、スケジュール OFF 時刻は経過しているため、スケジュールによるシャットダウンは行われません。

「ESMPRO_AC ヘルプ」情報の「ご使用にあたってのご注意」および「トラブルシューティング」もご覧ください。「ESMPRO_AC ヘルプ」はスタートメニューから起動することができます。

７.３　通信ポート番号関連

使用するポート番号は、以下のとおりです。

[ESMPRO/AutomaticRunningController]

（クラスタシステムの時に使用）

[クラスタサーバ]		[クラスタサーバ]
不定/udp	→	4000/udp
4000/udp	←	不定/udp

[ESMPRO/AC Enterprise]

（AC Management Console 機能を使用した SNMP カードを使用するマルチサーバ構成）

[制御端末（マスタ）]		[制御端末（マスタの控え）]
不定/udp	→	6000/udp
6000/udp	←	不定/udp

[制御端末]		[連動端末]
不定/udp	→	6000/udp
6000/udp	←	不定/udp

[制御端末]		[UPS]
不定/udp	↔	161/udp

[AC Management Console]		[制御/連動端末]
不定/udp	→	6000/udp
不定/udp	←	不定/udp

（iStorage S/D/M シリーズ連携機能使用時）

[制御端末]		[iStorage S/D/M シリーズ]
不定/udp	↔	6001/udp

（VMware ESXi/ESX サーバ監視時）

[制御端末] [VMware ESXi/ESX サーバ]

ICMP ←→ ICMP

不定/tcp ←→ 443/tcp

[ESMPRO/AC Advance]

[制御端末（マスタ）] [制御端末（マスタの控え）]

不定/udp ——→ 4005/udp

[制御端末] [連動端末]

不定/udp ——→ 4005/udp

[AC Management Console/AC GUI] [制御/連動端末]

不定/udp ——→ 4005/udp

７.４　共有フォルダ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController では、ネットワーク機能を提供するために、以下の共有フォルダを設定しています。

フォルダ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールフォルダ)¥DATA	ARCDATA	Administrators フルコントロール

表 7-4

「ARCDATA」の共有フォルダは、GUI をサーバ以外からリモートで行う場合に使用します。サーバ上でのみ GUI を使用する場合には、この共有を解除しても問題ありません。

７.５　AC-LINK 関連

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK を「Power ON」にしておいてください。BIOS の設定変更の方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」あるいは「Automatic Power-On」と記載されている場合があります。

７.６　ウィルススキャンソフト関連

ウィルススキャンソフトがインストールされた環境で運用される場合は、以下のファイルをスキャン対象外に設定してください。

ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールディレクトリの DATA 配下にある

SCHEBASE.APC

例）インストール先が C:¥Program Files (x86)¥AUTORC の場合

C:¥Program Files (x86)¥AUTORC¥DATA¥SCHEBASE.APC

をスキャン対象外に設定

第８章　障害発生時には

障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

① ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
② ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)
③ イベントログ
④ バージョン情報
⑤ SNMP カードからの情報採取 (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)

また、Collect ログを採取すると①または②と③のログが一度に採取できます。(８.７ 章参照)
ログ採取時は障害が発生した時刻も合わせてお知らせください。

８.１　ESMPRO/AutomaticRunningController ログ

（１）　サーバのログ採取方法

■ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

　サービスおよび GUI の動作不良のため、ESMPRO/AC GUI からの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■手動によるログ採取方法」を参照してください。

①ESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。

図 8.1-1

②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINTE

と入力し、OK ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。

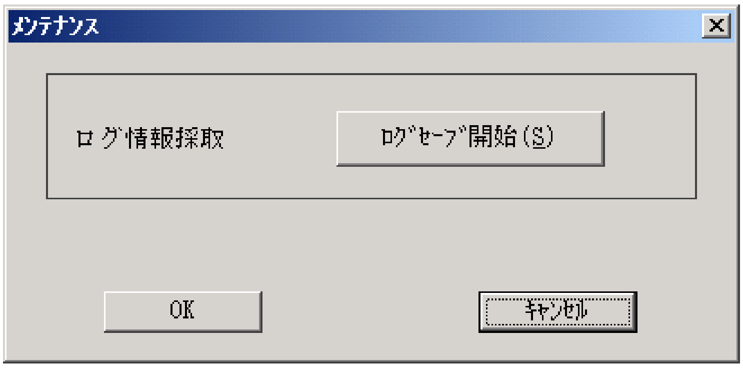


図 8.1-2

③「ログセーブ開始(S)」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。④の作業を実行してください。

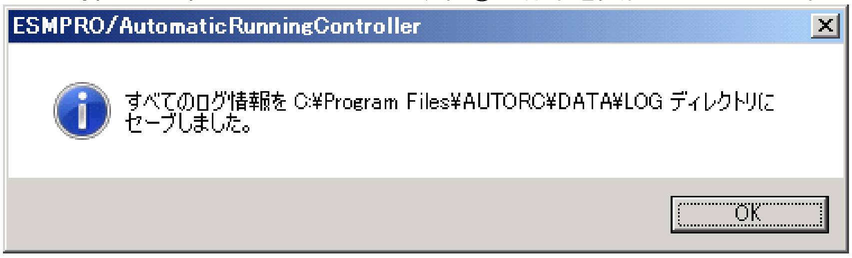


図 8.1-3

ログ採取異常終了メッセージ

図 8.1-4

＜上記のエラーメッセージが表示された場合＞

既にログファイルが存在することが考えられます。ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA¥LOG を確認します。ディレクトリ下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、再度①からの操作をやり直してください。

④採取されたログのファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA¥LOG 下に置かれます。

エクスプローラ等により、DATA¥LOG ディレクトリごと USB メモリ 等の外部記憶媒体に採取してください。DATA¥LOG 下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。

・スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

■手動によるログ採取方法

①エクスプローラ等を使用してください。

②ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ¥DATA ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。

８.２ ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。

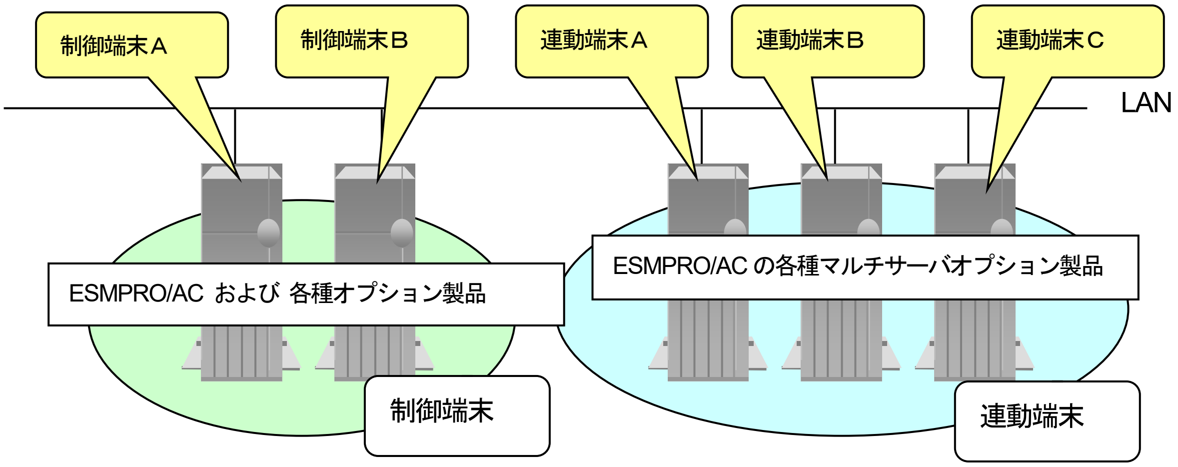


図 8.2-1

（１） 連動端末（Windows サーバ）のログ採取方法

■ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

サービスおよび GUI の動作不良のため、ESMPRO/AC GUI からの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■手動によるログ採取方法」を参照してください。

制御端末または管理 GUI がインストールされているコンピュータの ESMPRO/AC GUI を使用し、下記手順で、連動端末Ａ、Ｂ、Ｃのそれぞれのログを採取してください。

例：制御端末Ａから連動端末Ａのログを採取する場合

①制御端末の ESMPRO/AC メインメニューの「サーバ」ボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。

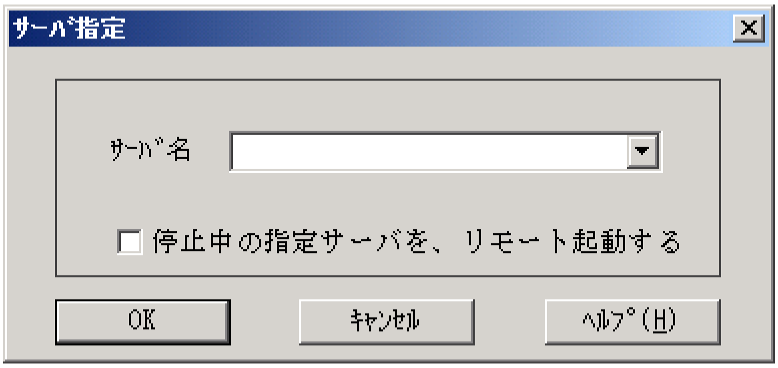


図 8.2-2

②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、連動端末Ａのサーバ名を入力し、「OK」ボタンを選択して、連動端末Ａに接続します。

例：連動端末のサーバ名が、R120E103 の場合、上記サーバ指定で

R120E103

と入力します。接続しましたら下記のように表示されます。

図 8.2-3

③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。

図 8.2-4

④サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINTE

と入力し、「OK」ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。

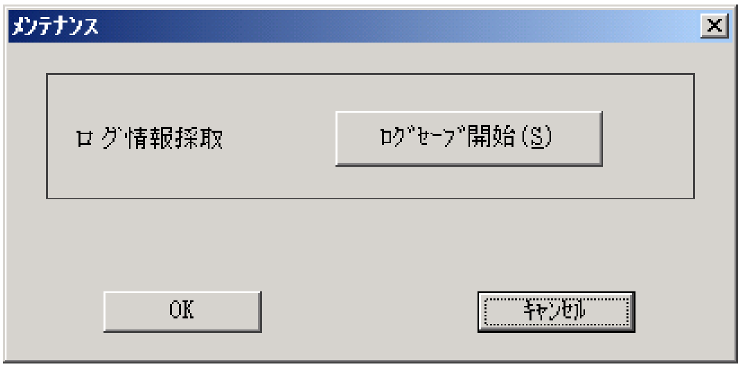


図 8.2-5

⑤「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。⑥の作業を実行してください。

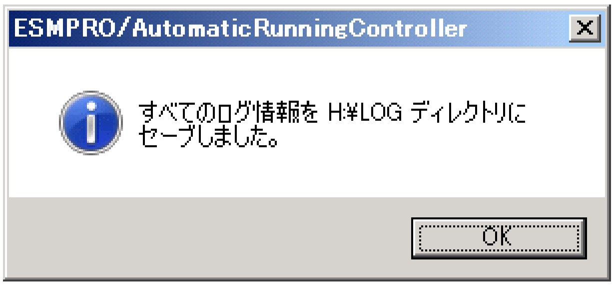


図 8.2-6

ログ採取異常終了メッセージ

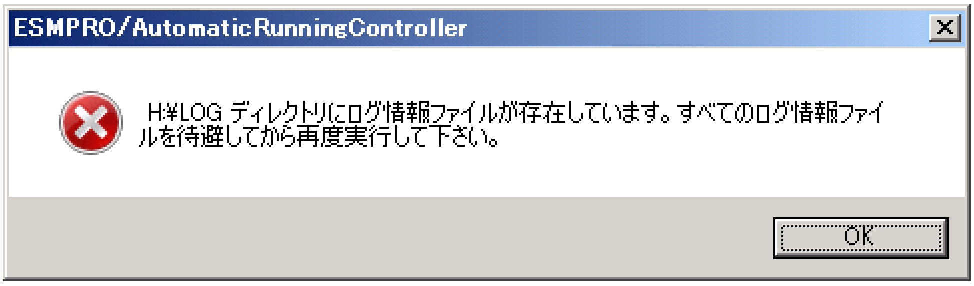
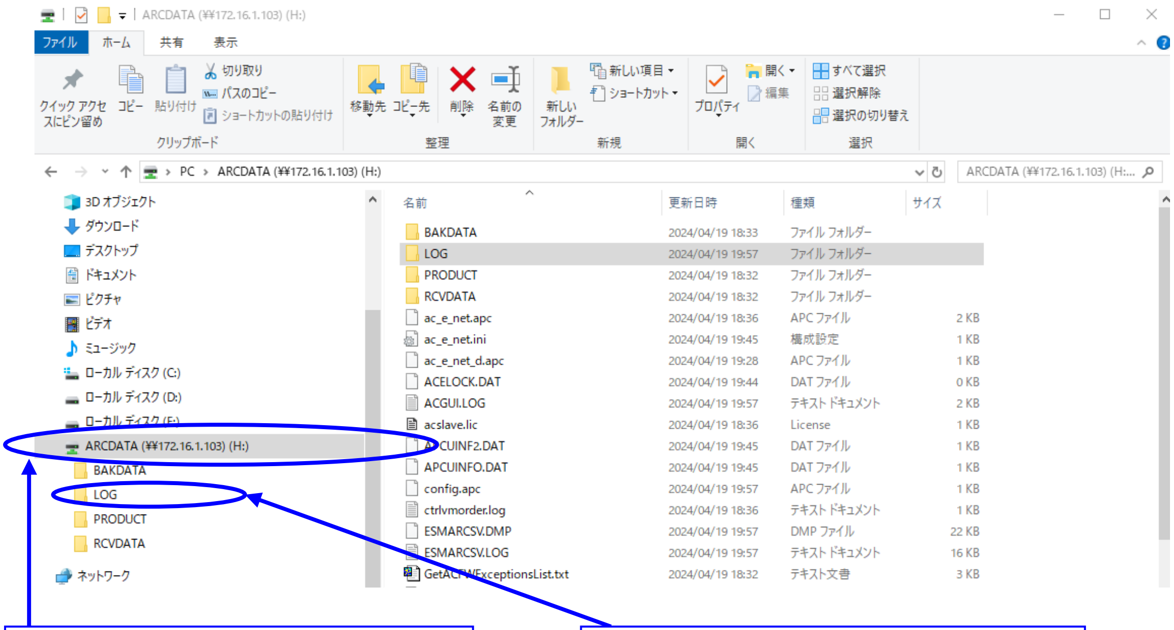


図 8.2-7

上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した連動端末の ESMPRO/AC インストールフォルダ¥DATA¥LOG にログファイルが存在する場合は、すべてのファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑤　制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。



ESMPRO/AC GUI で R120E103 に接続している間は、R120E103 の ARCDATA を接続しています。

LOG フォルダ下に必要な情報が採取されますので、LOG フォルダごと FD 等の媒体に採取してください。

図 8.2-8

※LOG フォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

■手動によるログ採取方法

①エクスプローラ等を使用してください。

②連動端末の ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのインストールフォルダ¥DATA のすべてのファイルを採取してください。

※ネットワークが不調な場合などは、連動端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

８.３　イベントログ

①[Windows 管理ツール]からイベントビューアを起動します。
②[Windows ログ]のツリーで Application ログを表示させ、【操作】を指定し、【すべてのイベントの名前をつけて保存】を選択します。
③【名前をつけて保存】ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
④セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
⑤同様にして、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

８.４　クラスタシステムのログ採取

クラスタシステム構成で障害が発生した場合は、クラスタを構成するすべてのサーバで障害情報を採取してください。その場合、現用系、待機系の区別を明記しておいてください。

※CLUSTERPRO 製品と ESMPRO/AC 製品を連携して運用している場合、CLUSTERPRO のログ採取機能を使用して、ESMPRO/AC のログを採取することができます。

8.5　バージョン情報

　障害発生時はログ以外に、アプリケーションのバージョン情報が必要です。
ESMPRO/AutomaticRunningController のバージョン情報は、以下の手順で取得できます。

（1）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動します。
（2）　メニューバーの「ヘルプ」 → 「バージョン情報」を選択すると、バージョン情報が表示されます。

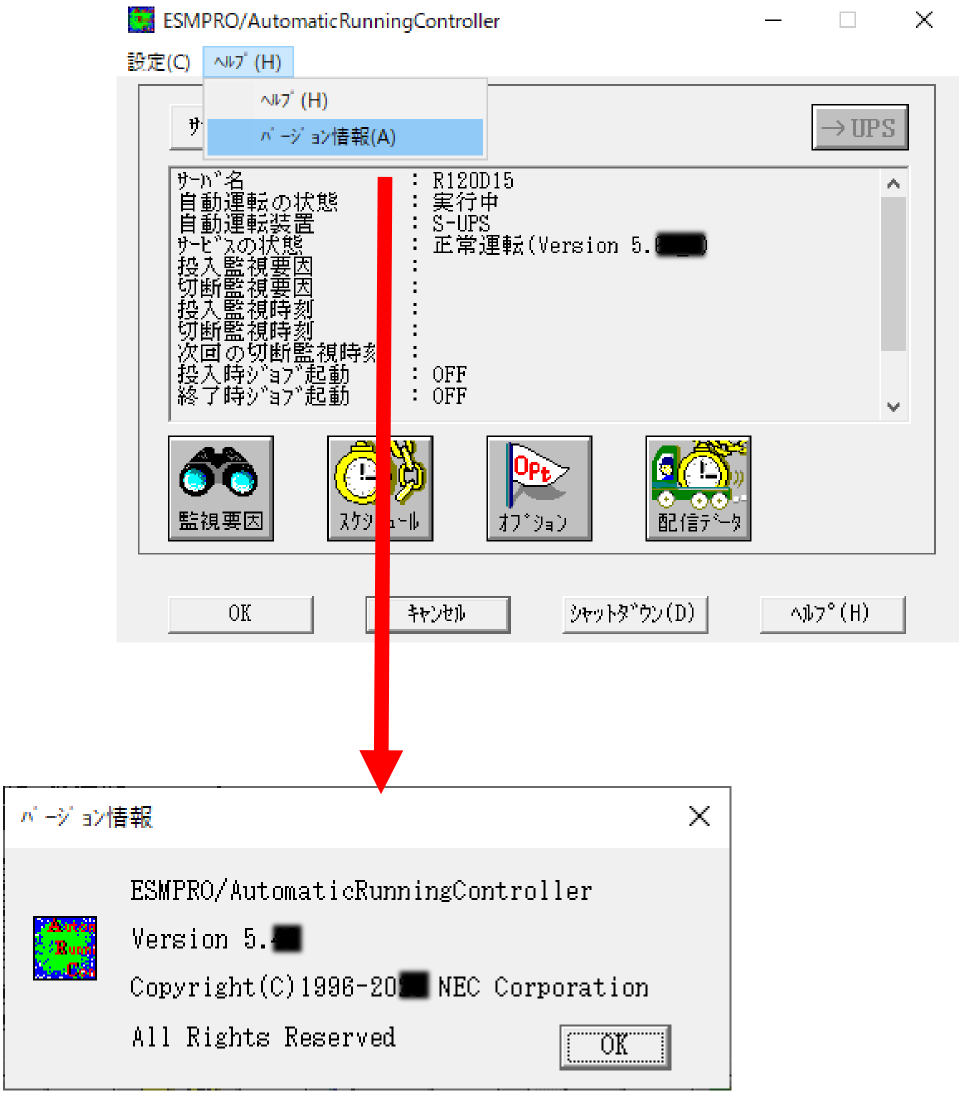


図 8.5-1

８.６　SNMP カードからの情報採取

Smart-UPS を LAN 制御している場合、UPS 毎に下記情報を採取してください。

なお、ご使用の Internet Explorer バージョンおよび Internet Explorer の設定によっては、ファイルに保存する手順が一部異なる場合があります。手順の詳細はご使用の Internet Explorer のバージョンおよびヘルプ等をご確認ください。

(Ａ)のログイン画面が表示された場合は「９.８.１　SNMP カードの情報（Ａ）」を参照してください。
(Ｂ)のログイン画面が表示された場合は「９.８.２　SNMP カードの情報（Ｂ）」を参照してください。
(Ｃ)のログイン画面が表示された場合は「９.８.３　SNMP カードの情報（Ｃ）」を参照してください。

(A)

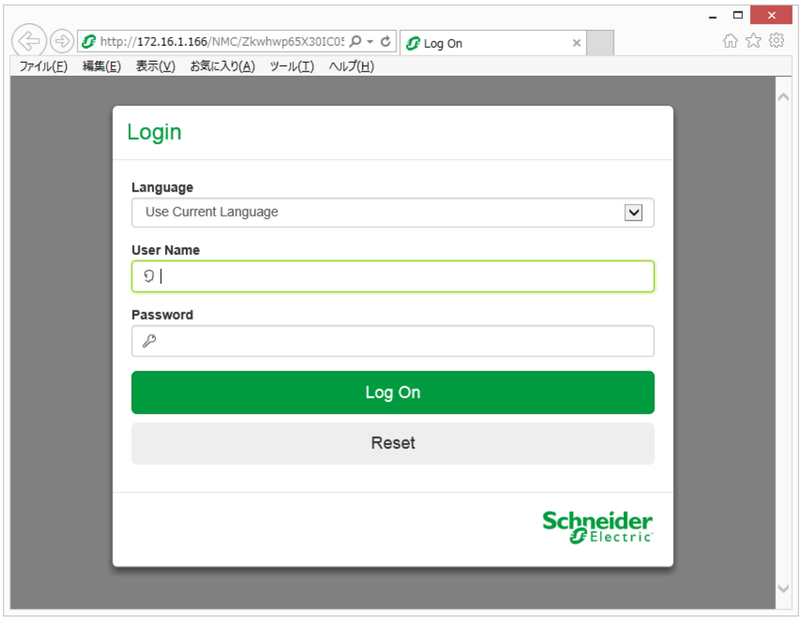


図 ８.６-１

(B)

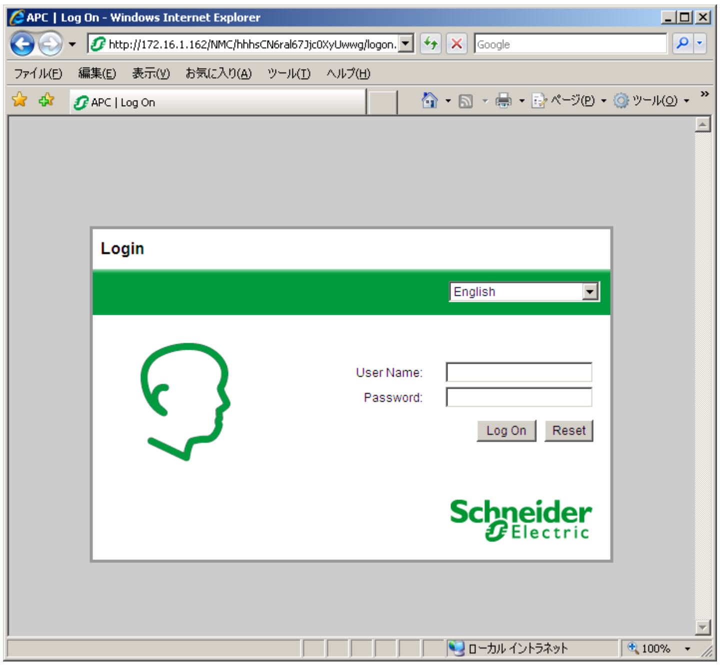


図 ８.６-２

（C）

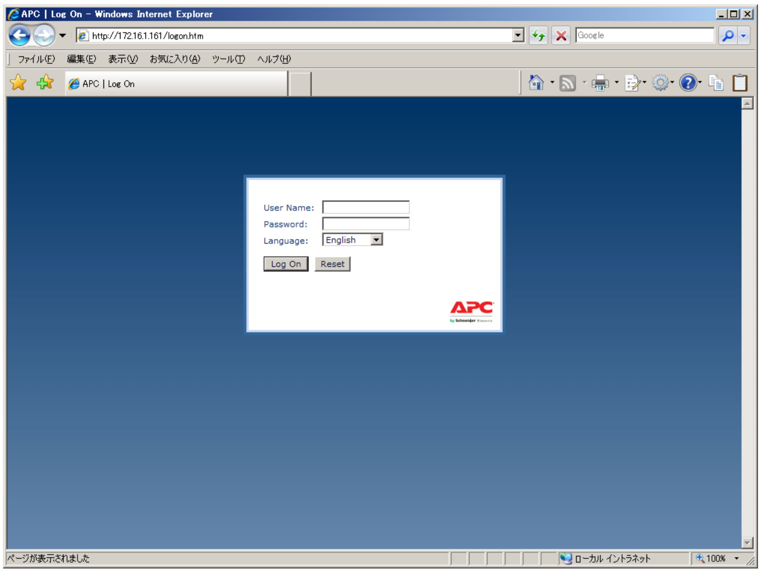

APC | Log On - Windows Internet Explorer
http://172.16.1.161/logon.htm
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
APC | Log On
User Name:
Password:
Language:
English
Log On
Reset
APC
ページが表示されました
ローカル イントラネット
100%

図 8.6-3

８．６．１　SNMP カードの情報（A）

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。
①ステータス情報
②イベントログ情報
③データログ
④access control情報

（１）SNMP カードへの接続方法
①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します
下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。
（ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.166の場合）
http://172.16.1.166
ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

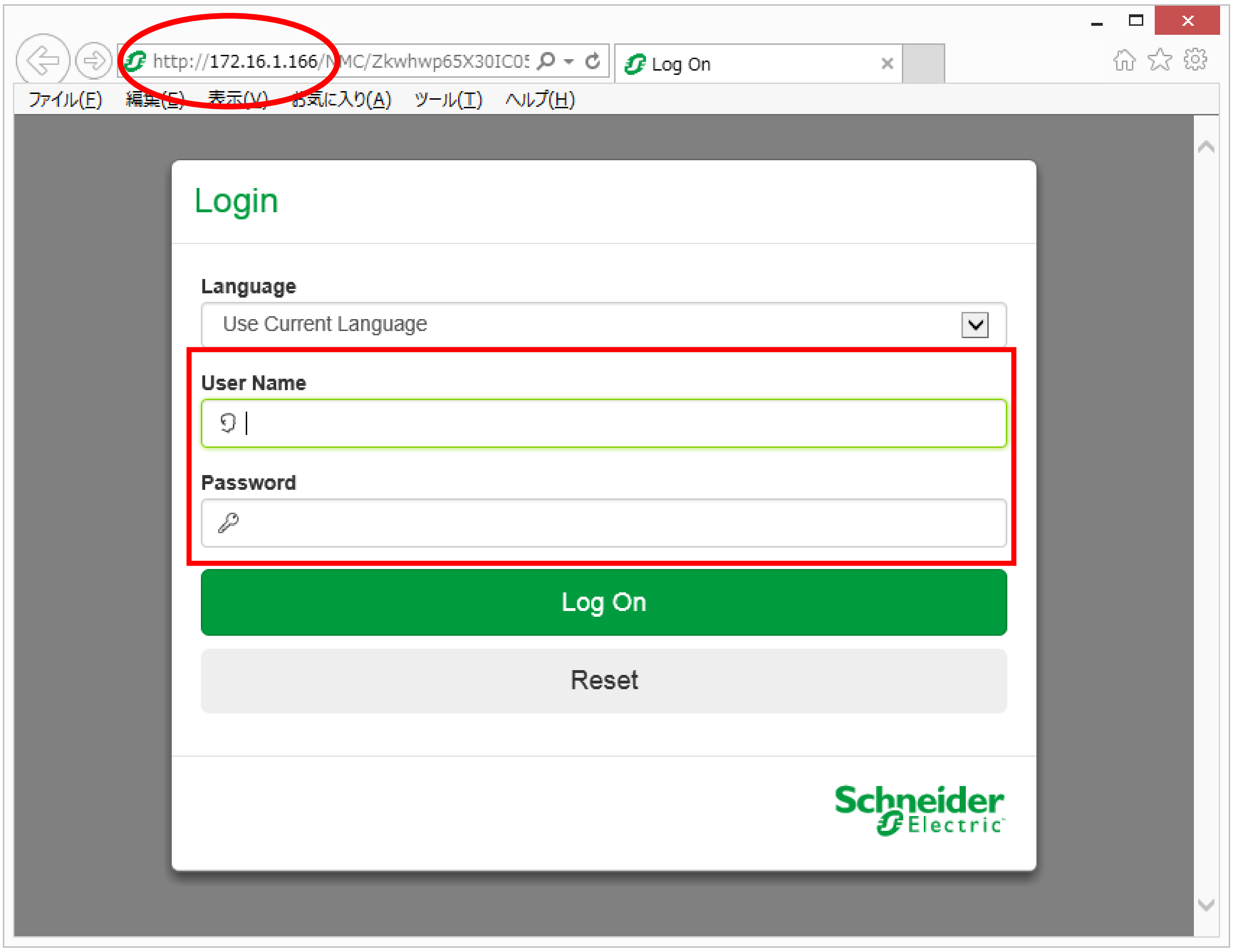


図 8.6-4

（２）情報の採取方法

①ステータス情報

「Status」メニューから「UPS」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

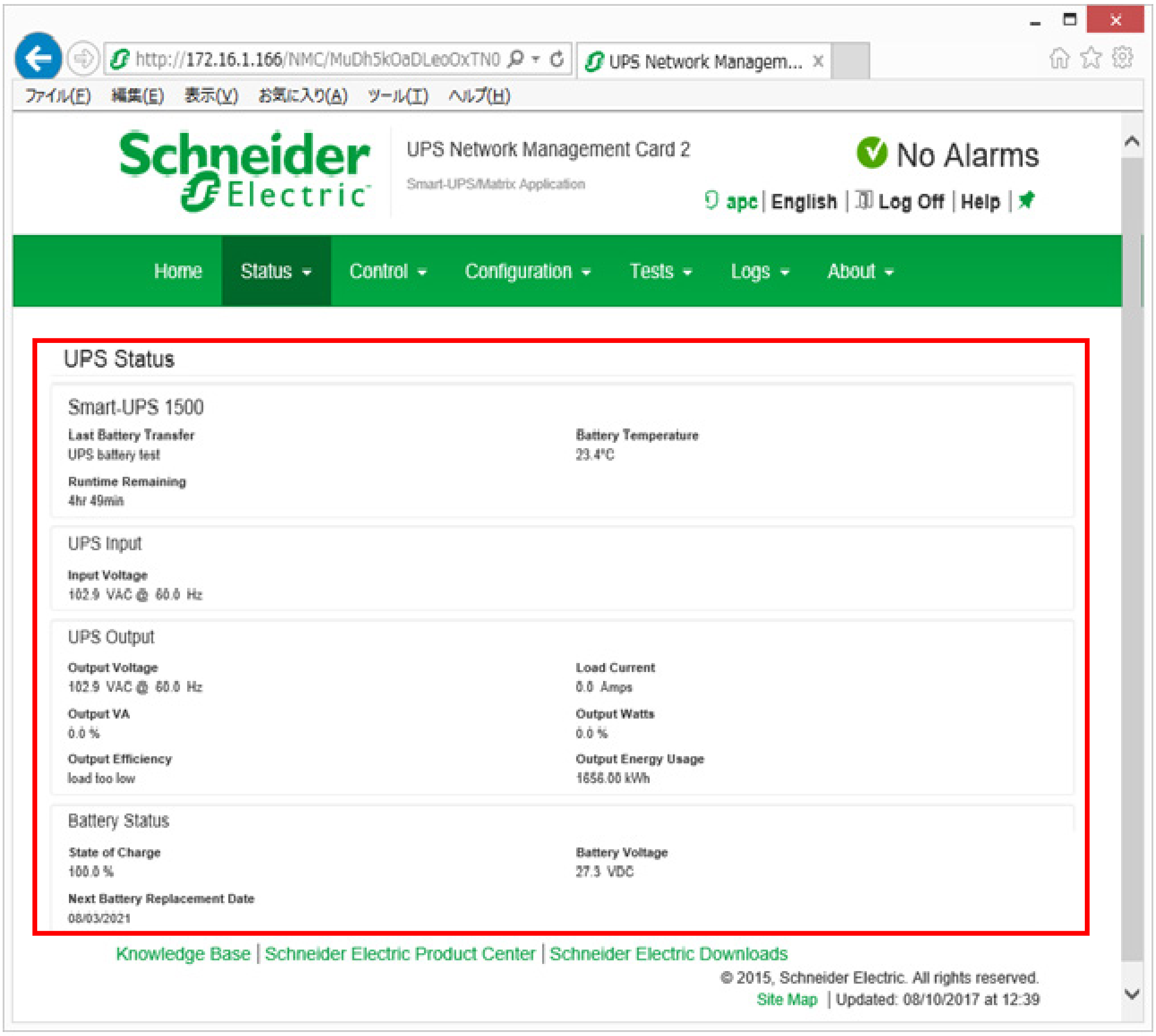


図 8.6-5

②イベントログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Events」→「Log」を選択します。

Event Log が表示されますので、画面下の Event Log Filtering より「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

その後、画面右上のフロッピーディスクアイコンをクリックすると、ダウンロードの確認メッセージが表示されます。

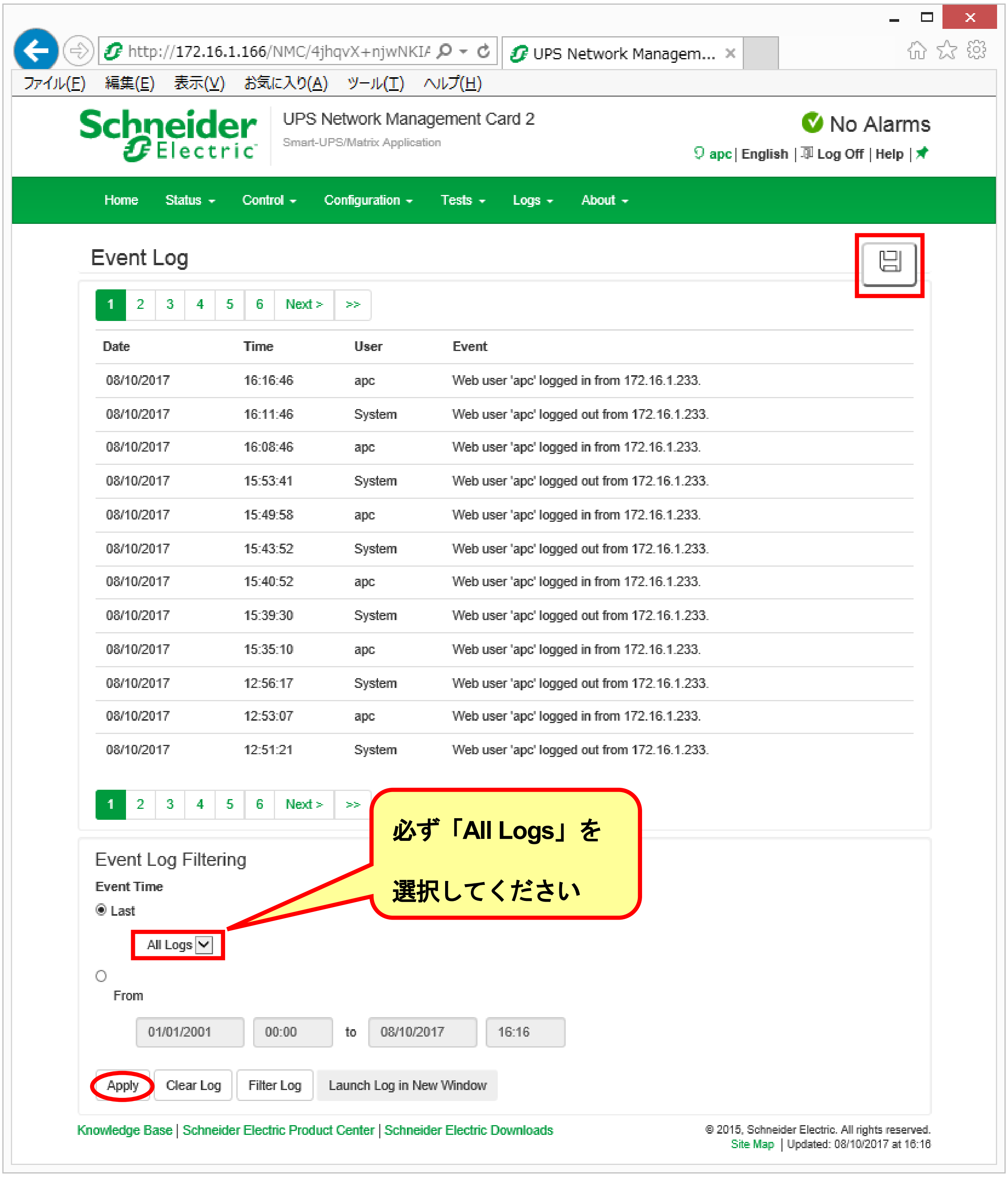


図 8.6-6

イベントログファイルを開くか保存するか尋ねられますので、「保存」を選択します。

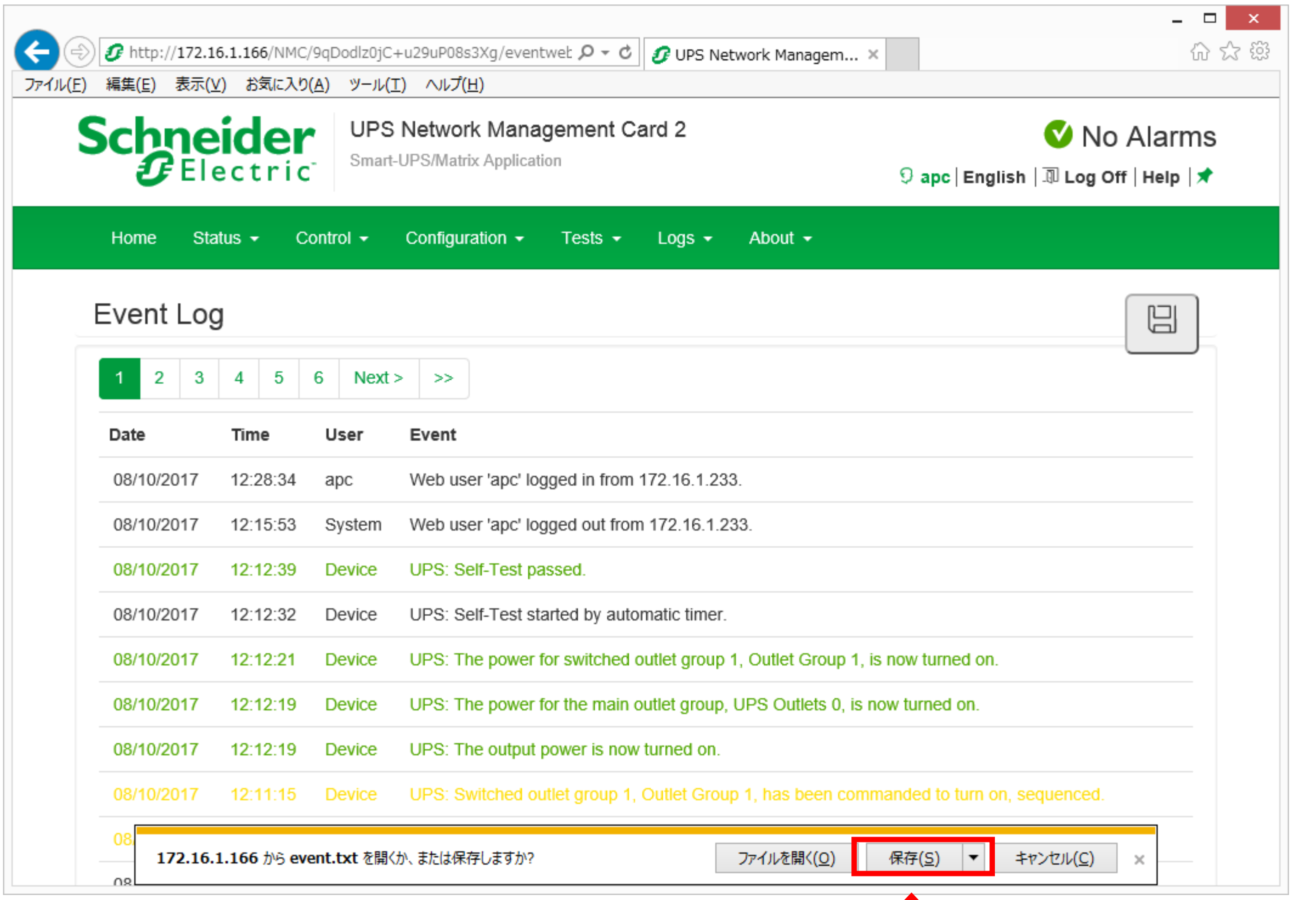


図 8.6-7

複数の UPS のイベントログを取得する場合は、ディレクトリを分けて保存してください。

例）172.16.1.166 のイベントログを保存する場合、172.16.1.166 ディレクトリを作成し、

その配下に保存

172.16.1.166¥event.txt

③ データログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Data」→「Log」を選択します。

Data Log が表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

その後、画面中ほどのフロッピーディスクアイコンをクリックすると、ダウンロードの確認メッセージが表示されます。

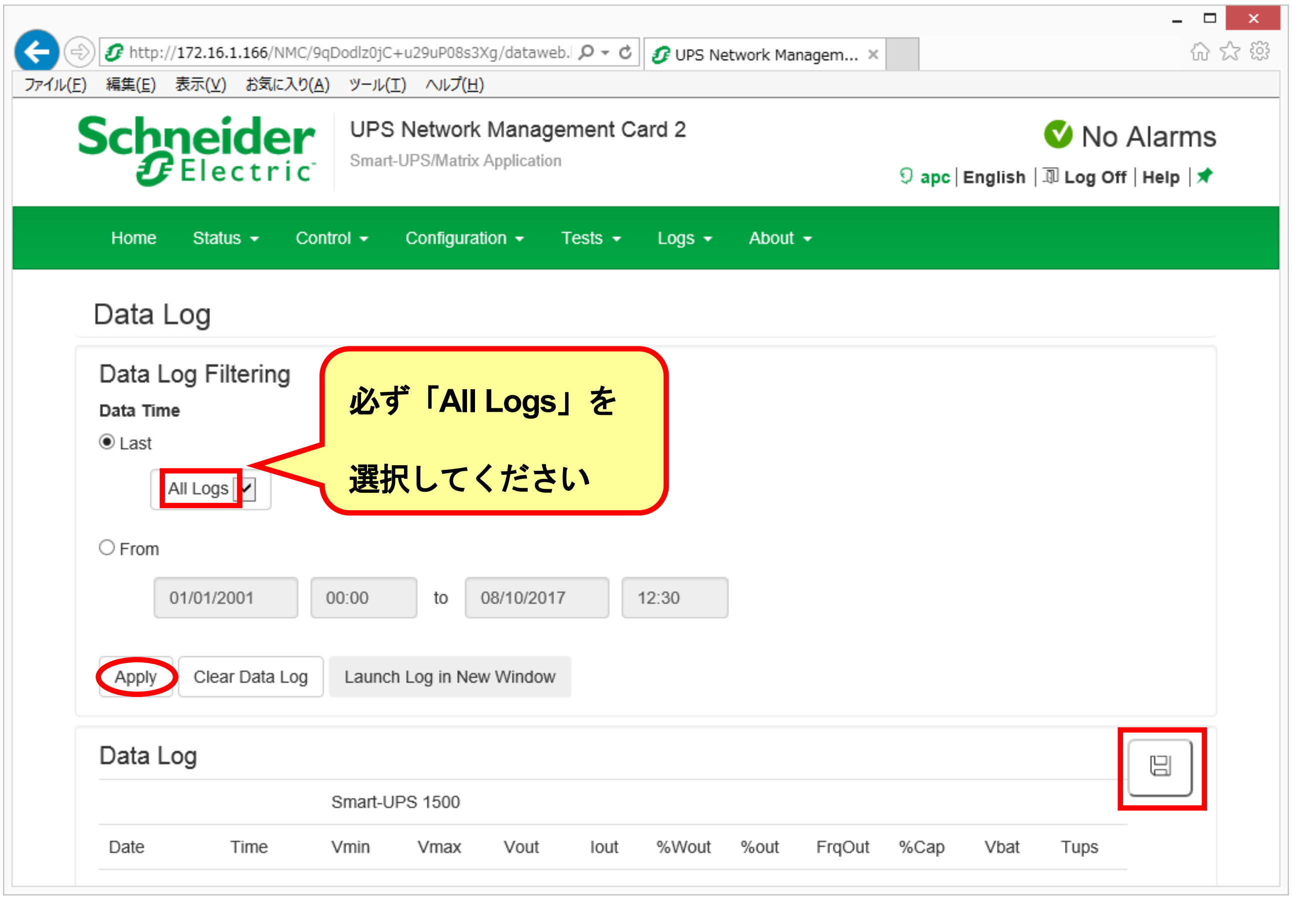


図 8.6-8

データログファイルを開くか保存するか尋ねられますので、「保存」を選択します。

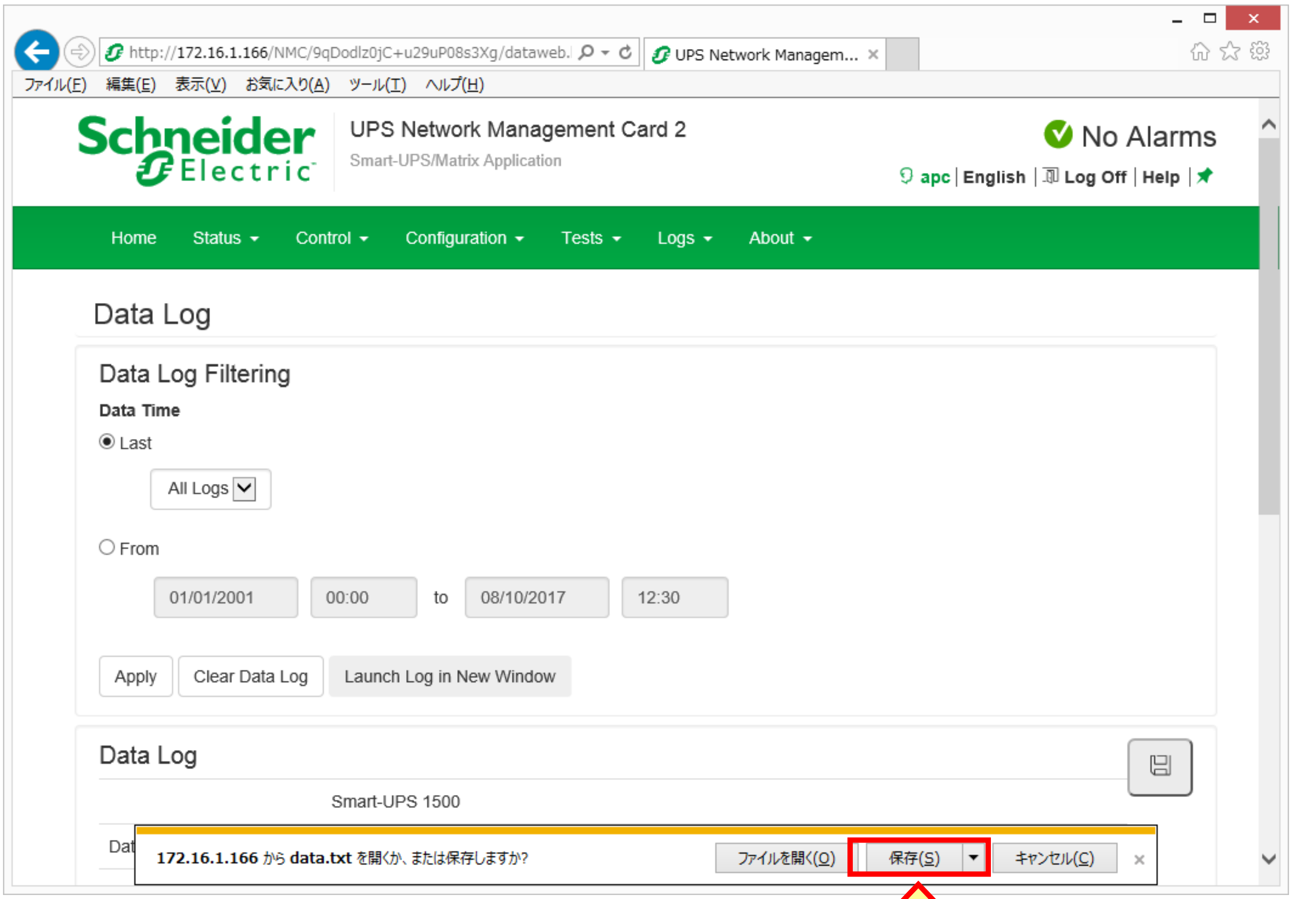


図 8.6-9

複数の UPS のイベントログを取得する場合は、ディレクトリを分けて保存してください。

例）172.16.1.166 のイベントログを保存する場合、172.16.1.166 ディレクトリを作成し、

その配下に保存

172.16.1.166¥event.txt

④access control情報

「Configuration」のメニューを選択し、「Network」→「SNMPv1」→「Access Control」と選択します。
下記 Access Control 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、②、③と同様の方法で情報をファイルに保存してください。

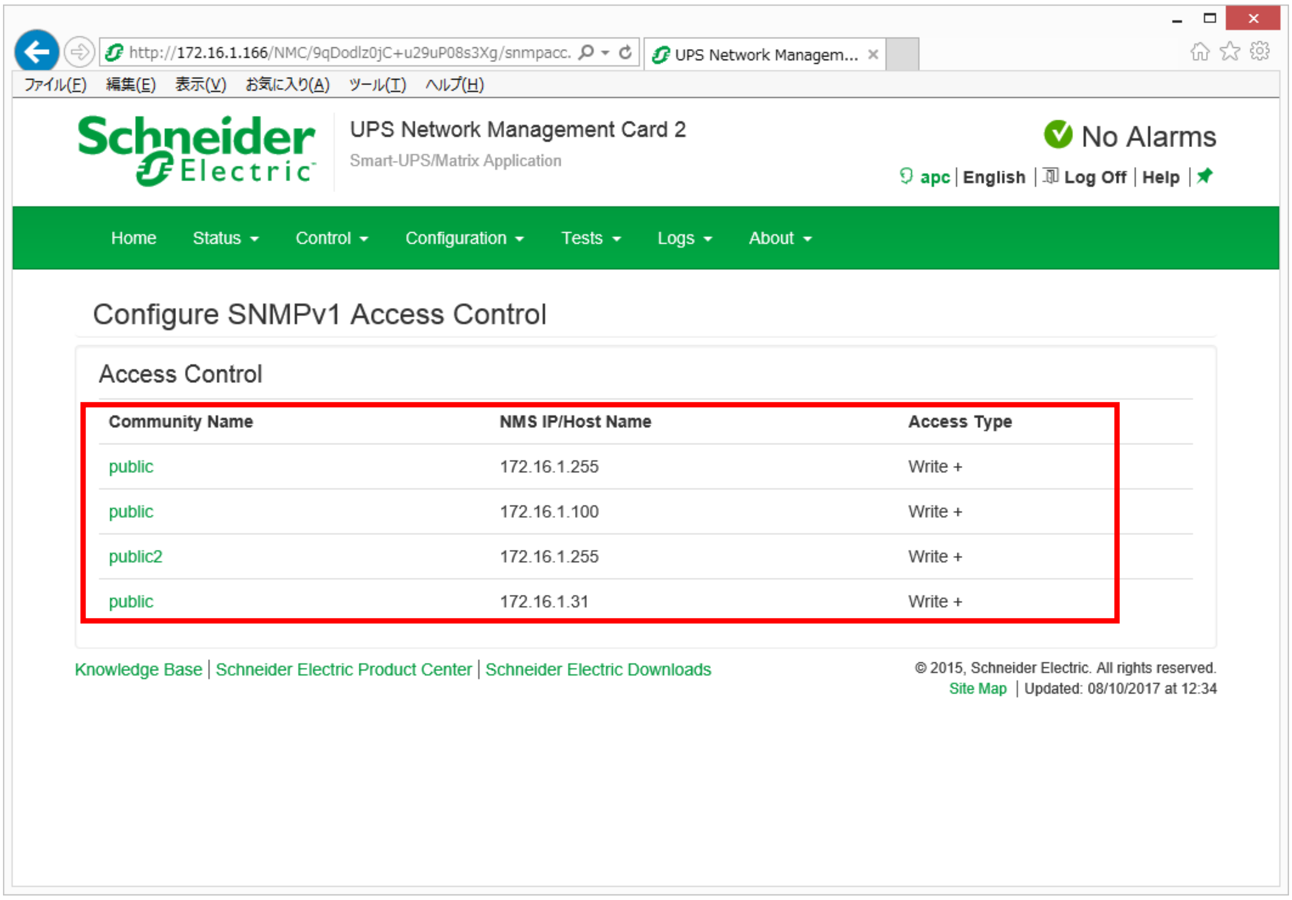


図 8.6-10

８．６．２　SNMP カードの情報（B）

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。
①ステータス情報
②イベントログ情報
③データログ
④access control情報

（１）SNMP カードへの接続方法
①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します
下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。
（ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.162の場合）
http://172.16.1.162
ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

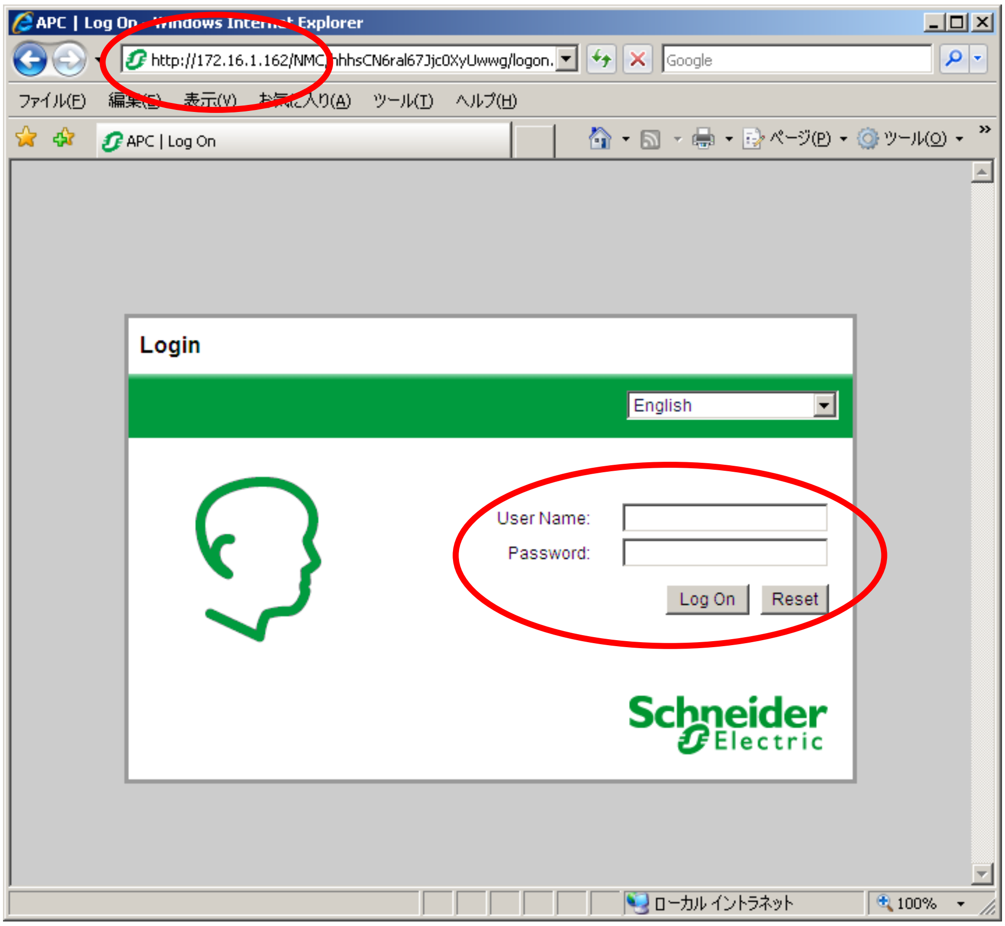


図 8.6-１１

（２）情報の採取方法

①ステータス情報

「Status」メニューから「UPS」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

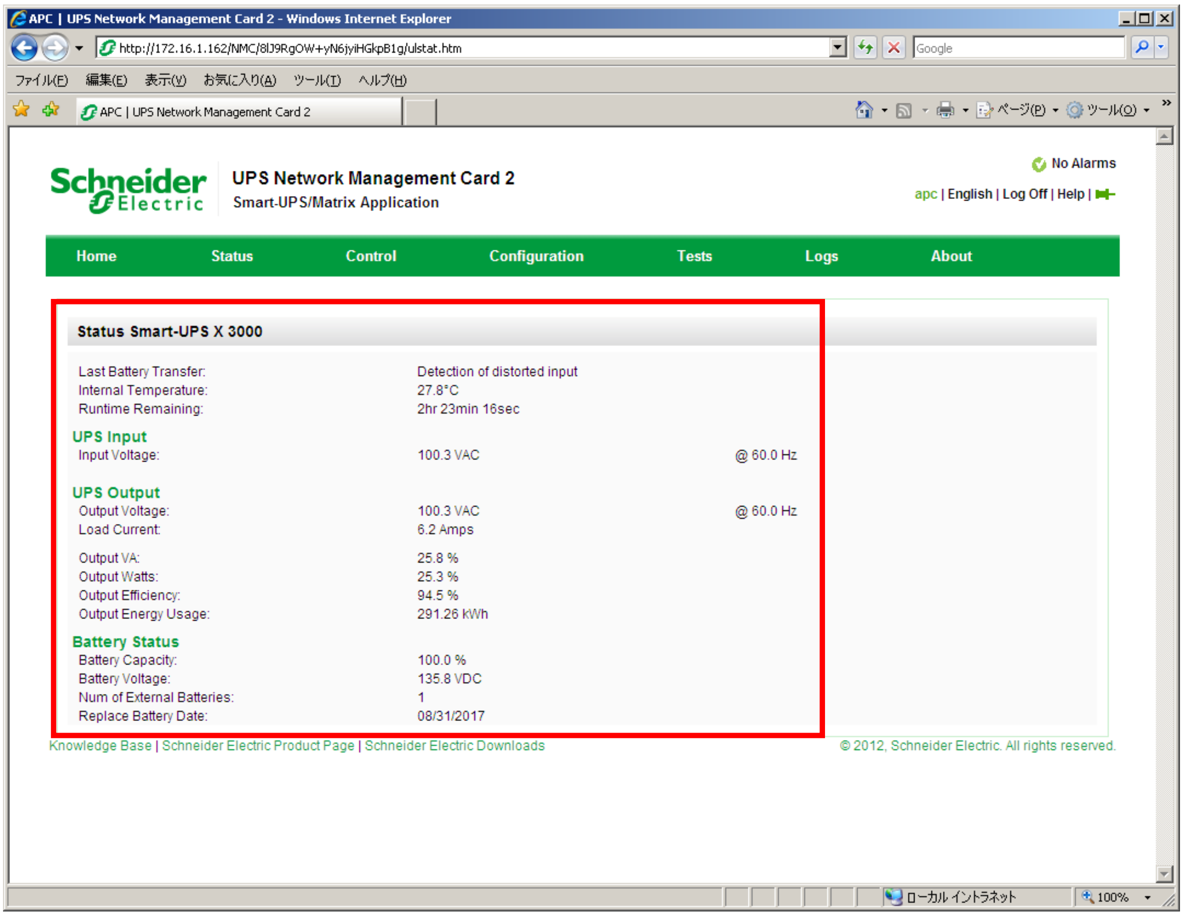


図 8.6-12

②イベントログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Events」→「Log」を選択します。

Event Log が表示されますので、Event Log Filtering　画面の「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

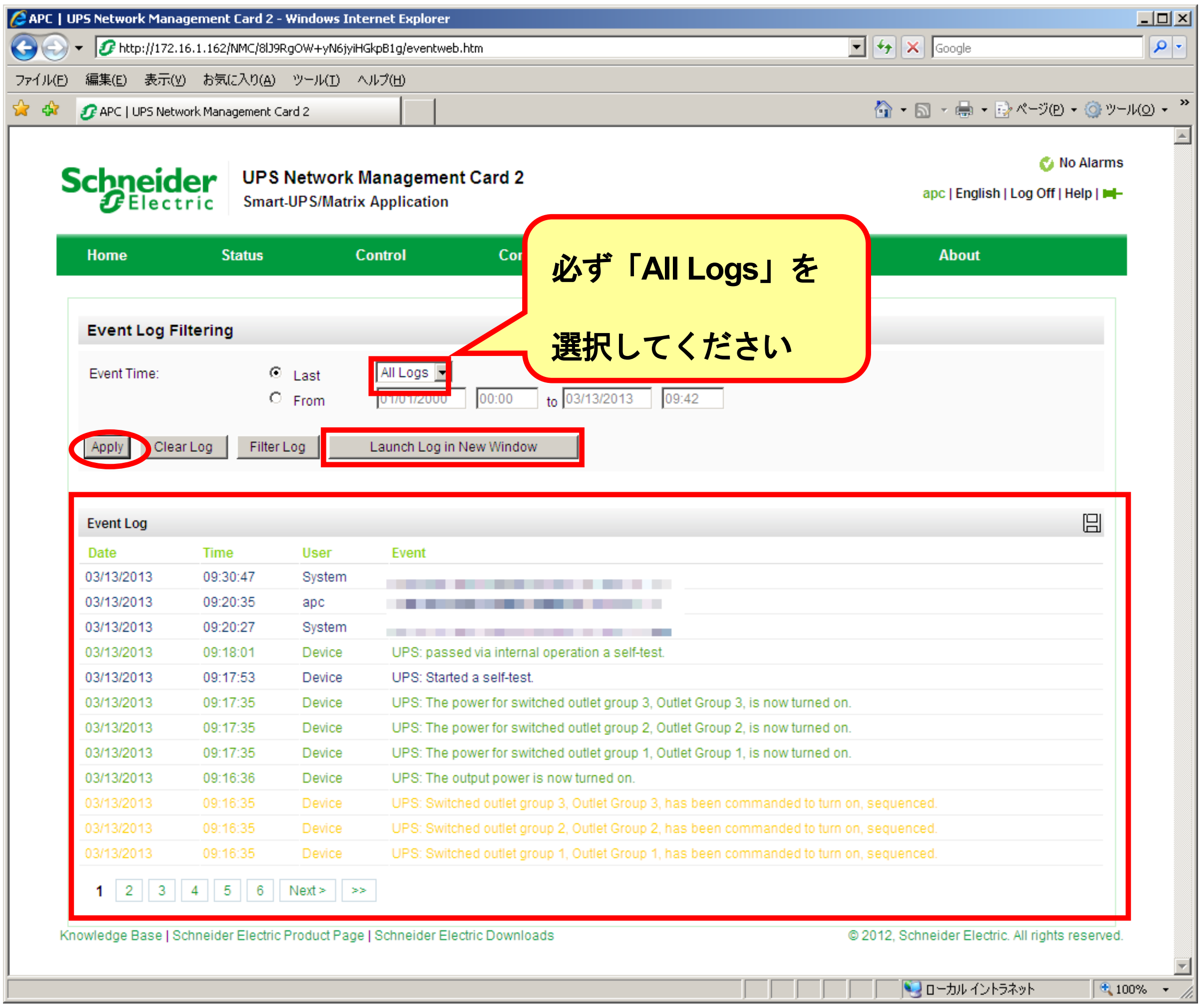


図 8.6-13

「Launch Log in New Window」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

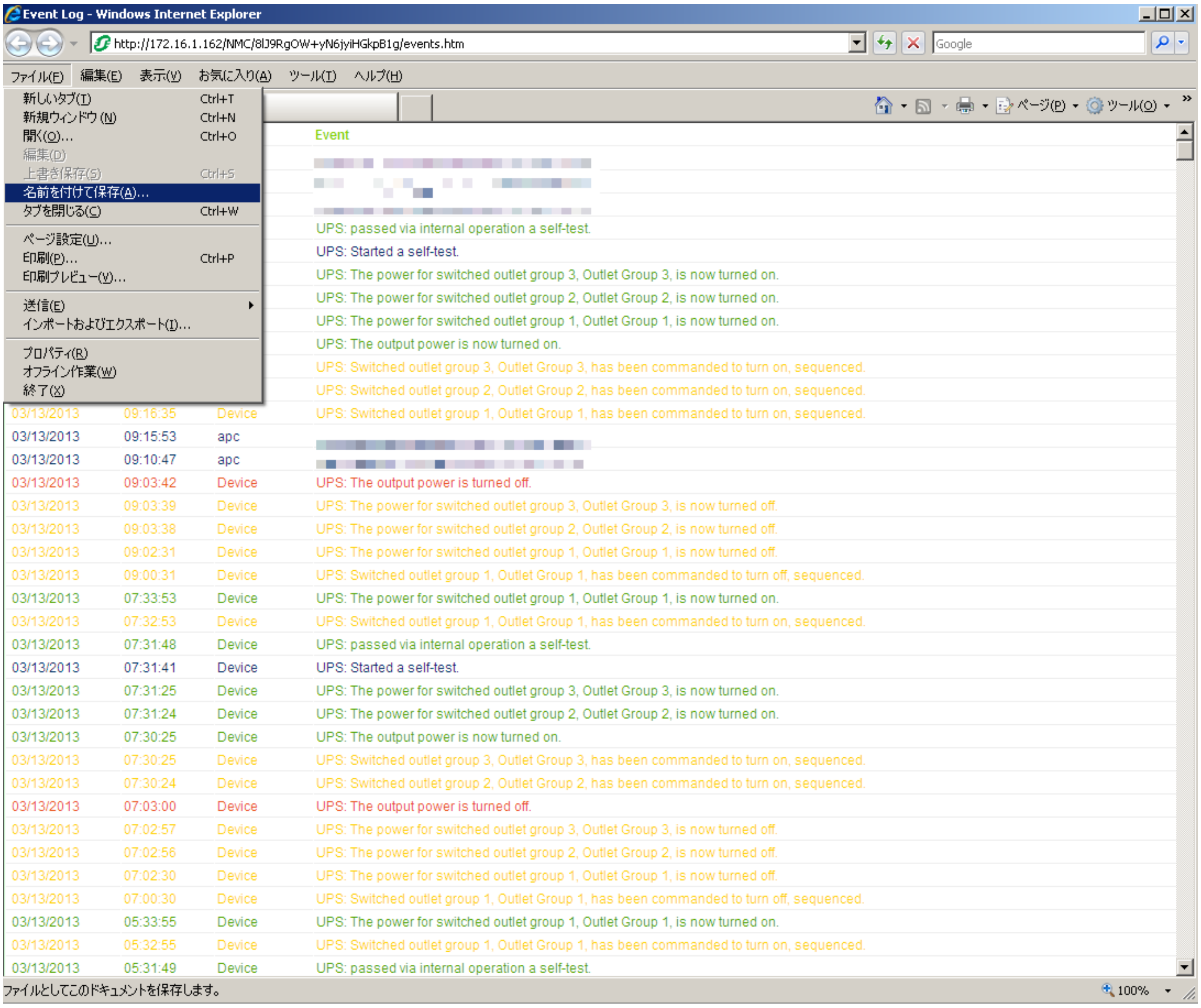


図 8.6-14

③ データログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Data」→「Log」を選択します。

Data Log が表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

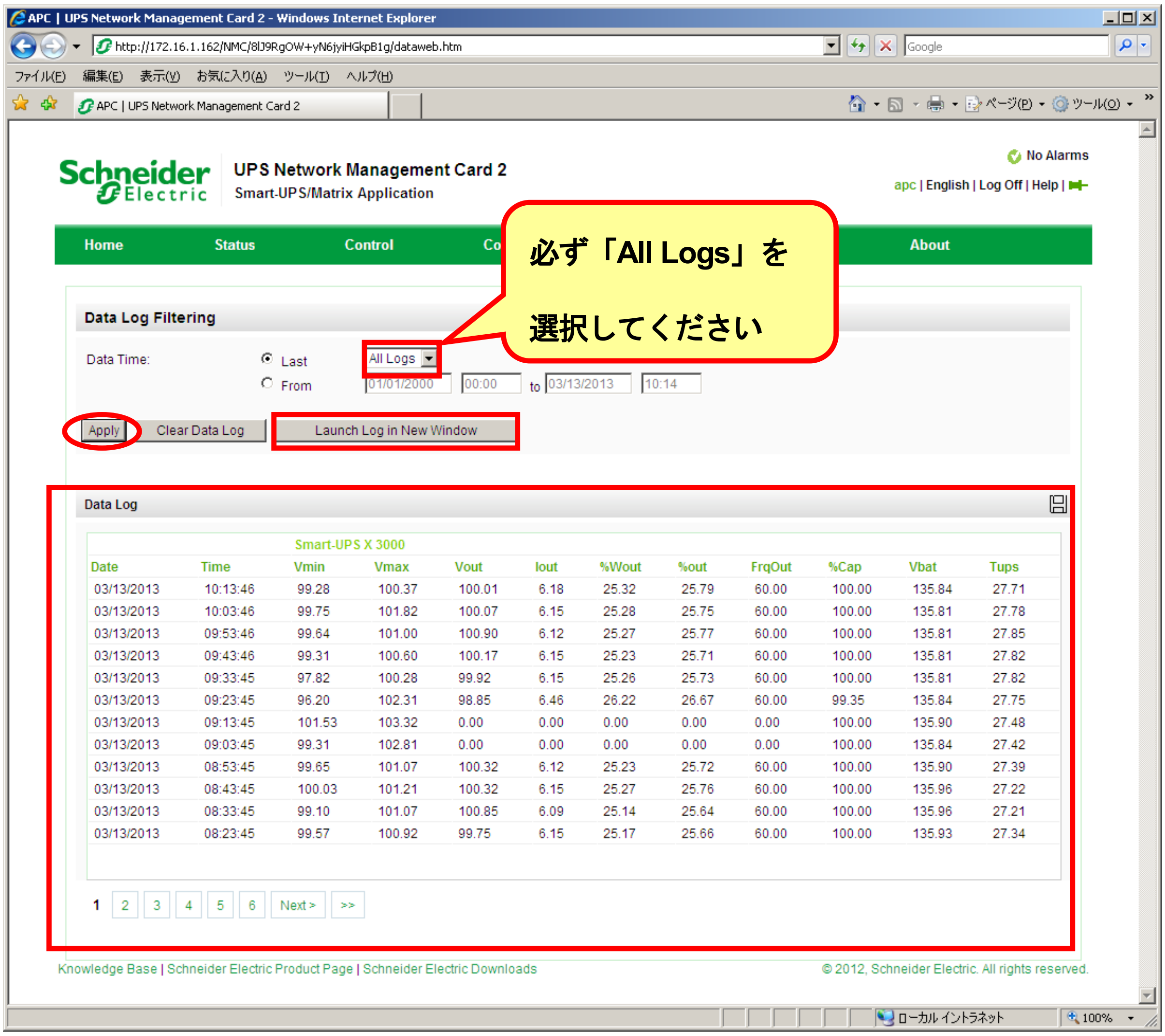
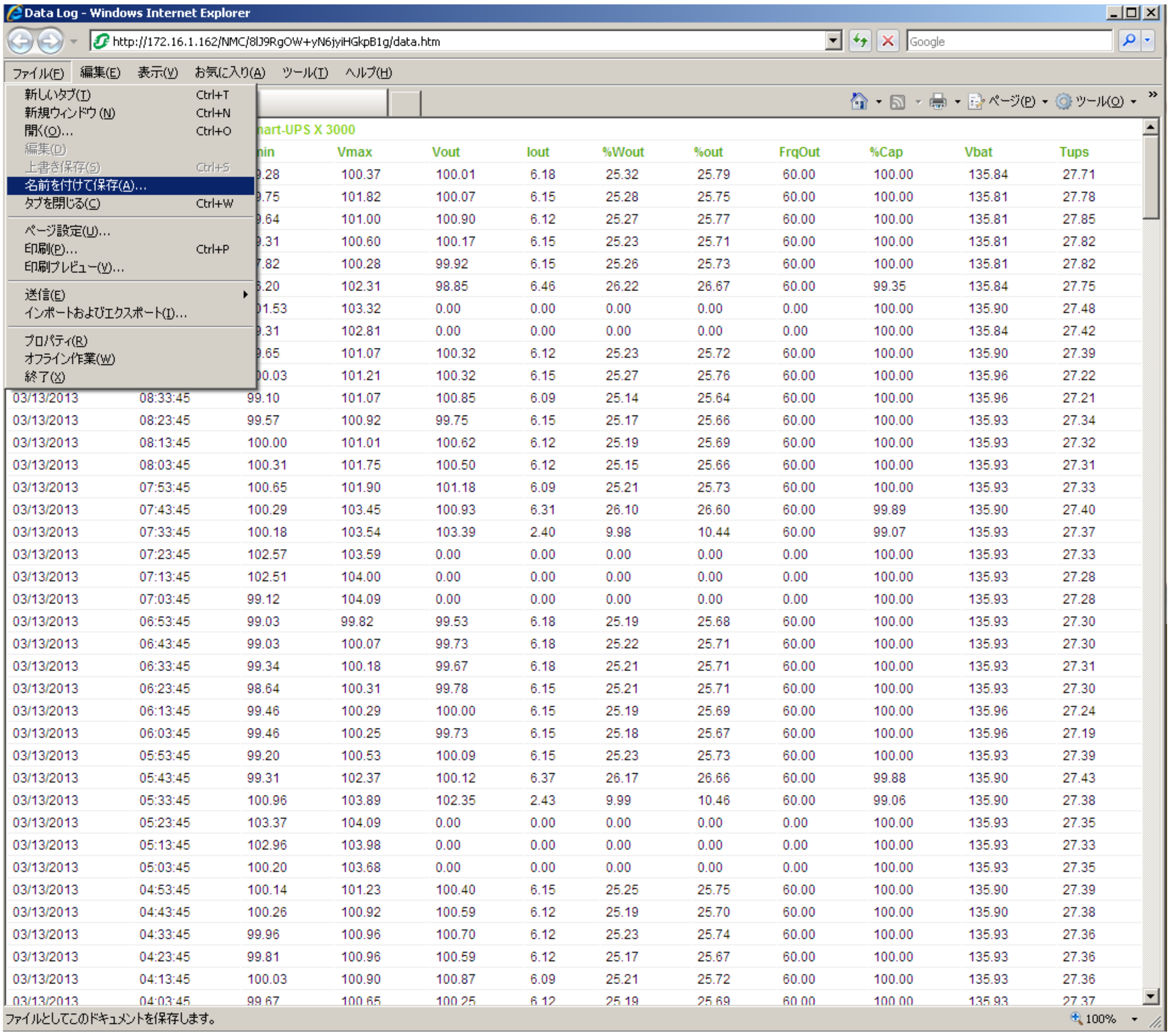


図 8.6-15

「Launch Log in New Window」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。



		min	Vmax	Vout	Iout	%Wout	%out	FrqOut	%Cap	Vbat	Tups
		.28	100.37	100.01	6.18	25.32	25.79	60.00	100.00	135.84	27.71
		.75	101.82	100.07	6.15	25.28	25.75	60.00	100.00	135.81	27.78
		.64	101.00	100.90	6.12	25.27	25.77	60.00	100.00	135.81	27.85
		.31	100.60	100.17	6.15	25.23	25.71	60.00	100.00	135.81	27.82
		.82	100.28	99.92	6.15	25.26	25.73	60.00	100.00	135.81	27.82
		.20	102.31	98.85	6.46	26.22	26.67	60.00	99.35	135.84	27.75
		01.53	103.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.90	27.48
		.31	102.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.84	27.42
		.65	101.07	100.32	6.12	25.23	25.72	60.00	100.00	135.90	27.39
		00.03	101.21	100.32	6.15	25.27	25.76	60.00	100.00	135.96	27.22
03/13/2013	08:33:45	99.10	101.07	100.85	6.09	25.14	25.64	60.00	100.00	135.96	27.21
03/13/2013	08:23:45	99.57	100.92	99.75	6.15	25.17	25.66	60.00	100.00	135.93	27.34
03/13/2013	08:13:45	100.00	101.01	100.62	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.32
03/13/2013	08:03:45	100.31	101.75	100.50	6.12	25.15	25.66	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013	07:53:45	100.65	101.90	101.18	6.09	25.21	25.73	60.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	07:43:45	100.29	103.45	100.93	6.31	26.10	26.60	60.00	99.89	135.90	27.40
03/13/2013	07:33:45	100.18	103.54	103.39	2.40	9.98	10.44	60.00	99.07	135.93	27.37
03/13/2013	07:23:45	102.57	103.59	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	07:13:45	102.51	104.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013	07:03:45	99.12	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013	06:53:45	99.03	99.82	99.53	6.18	25.19	25.68	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	06:43:45	99.03	100.07	99.73	6.18	25.22	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	06:33:45	99.34	100.18	99.67	6.18	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013	06:23:45	98.64	100.31	99.78	6.15	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	06:13:45	99.46	100.29	100.00	6.15	25.19	25.69	60.00	100.00	135.96	27.24
03/13/2013	06:03:45	99.46	100.25	99.73	6.15	25.18	25.67	60.00	100.00	135.96	27.19
03/13/2013	05:53:45	99.20	100.53	100.09	6.15	25.23	25.73	60.00	100.00	135.93	27.39
03/13/2013	05:43:45	99.31	102.37	100.12	6.37	26.17	26.66	60.00	99.88	135.90	27.43
03/13/2013	05:33:45	100.96	103.89	102.35	2.43	9.99	10.46	60.00	99.06	135.90	27.38
03/13/2013	05:23:45	103.37	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013	05:13:45	102.96	103.98	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	05:03:45	100.20	103.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013	04:53:45	100.14	101.23	100.40	6.15	25.25	25.75	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013	04:43:45	100.26	100.92	100.59	6.12	25.19	25.70	60.00	100.00	135.90	27.38
03/13/2013	04:33:45	99.96	100.96	100.70	6.12	25.23	25.74	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	04:23:45	99.81	100.96	100.59	6.12	25.17	25.67	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	04:13:45	100.03	100.90	100.87	6.09	25.21	25.72	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	04:03:45	99.67	100.65	100.25	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.37

図 8.6-16

※②Logs → Events → Log、③Logs → Data → Log ともに、以下の方法で採取してください。
（保存方法その１）

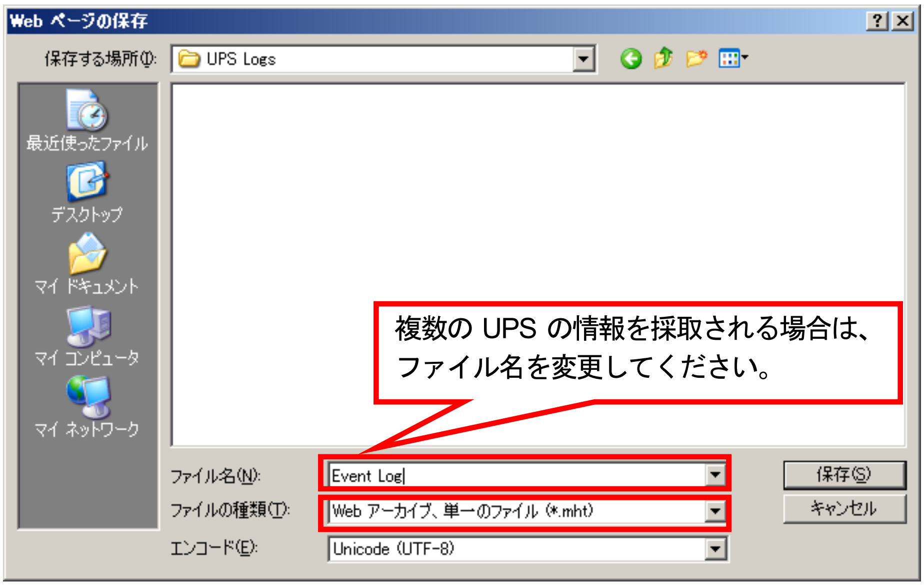


図 8.6-17

「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式で保存する場合は、保存されるファイルが*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

（保存方法その２）

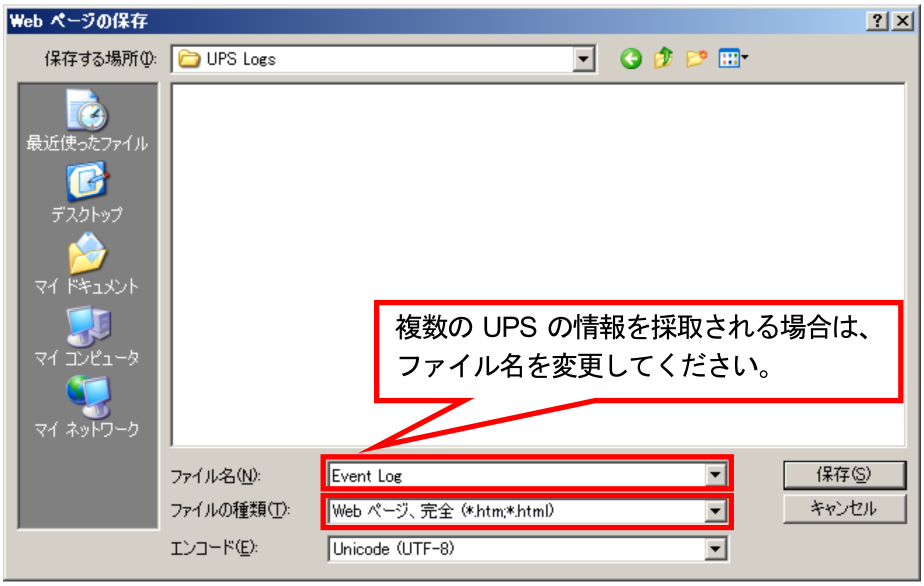


図 8.6-18

「Webページ、完全（*.htm,*.html）」形式で保存する場合は、htmファイルとEvent Log.filesという名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

④access control情報

「Configuration」のメニューを選択し、「Network」→「SNMPv1」→「Access Control」と選択します。
下記 Access Control 情報が表示されますので、メニューで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、②、③と同様の方法で情報をファイルに保存してください。

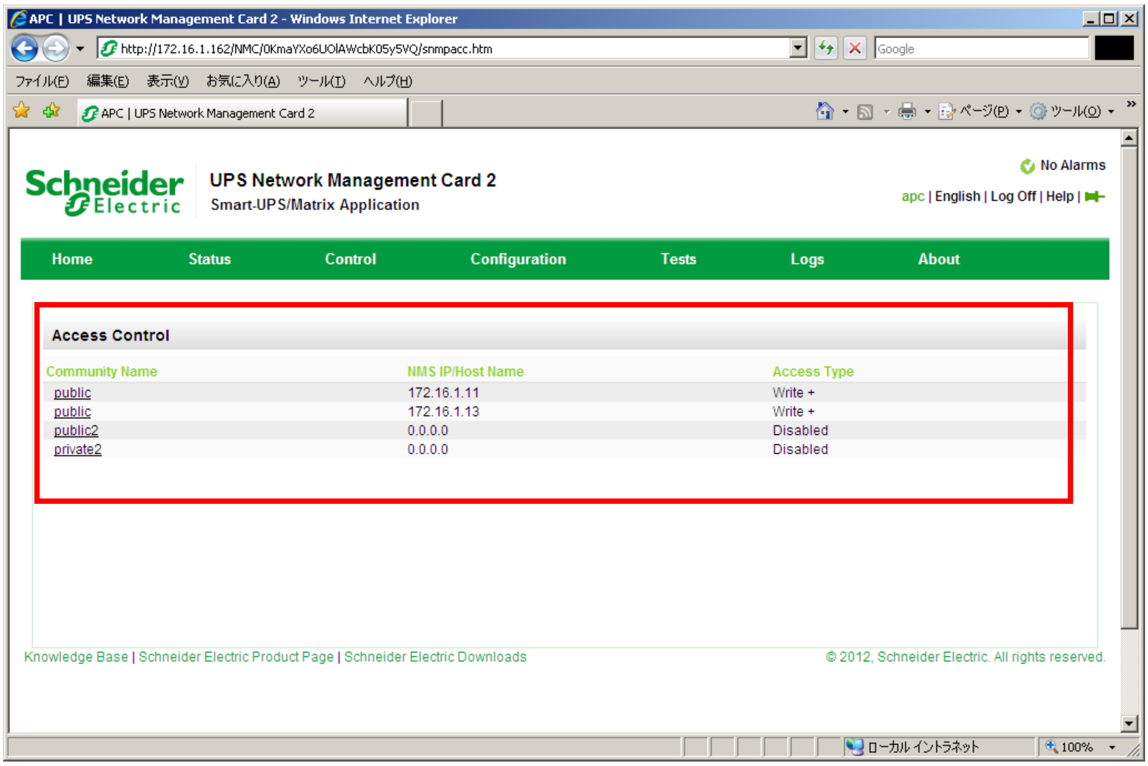


図 8.6-19

８．６．３　SNMP カードの情報（C）

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

①ステータス情報
②イベントログ情報
③データログ
④access control情報

（１）SNMP カードへの接続方法

①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。
（ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.145の場合）

http://172.16.1.145

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

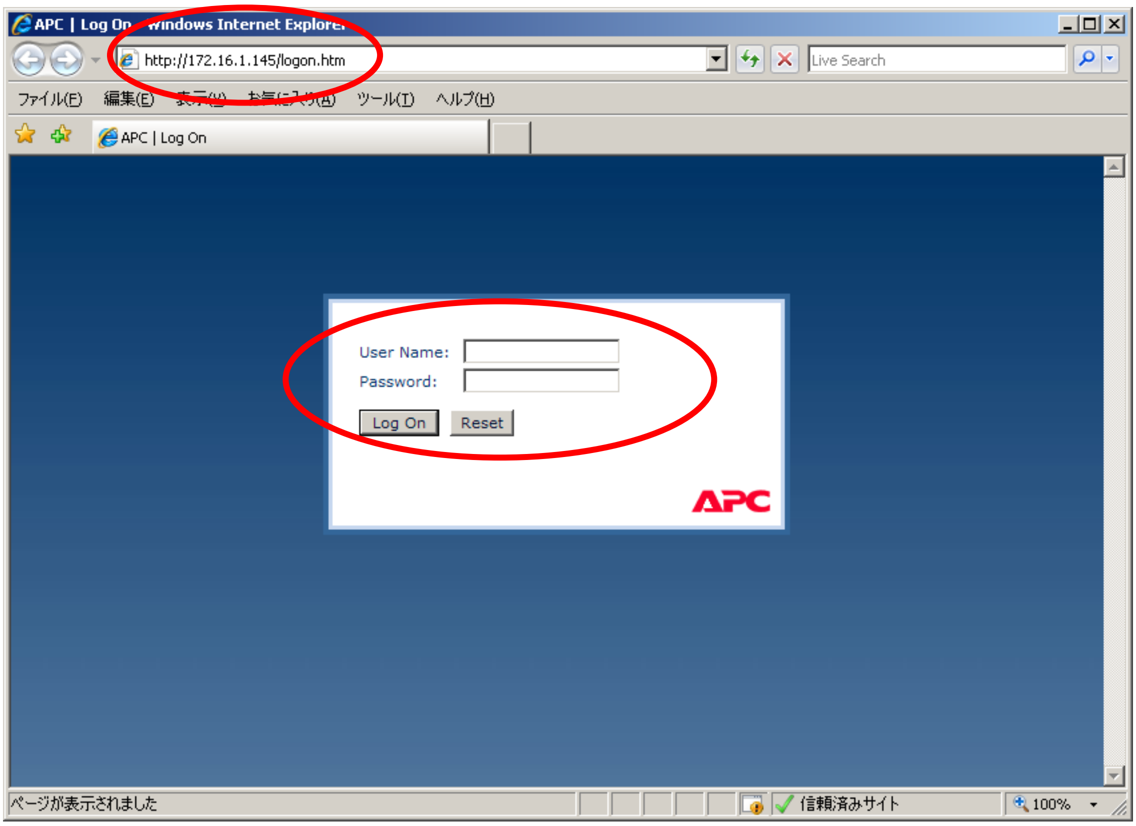


図 8.6-2０

（２）情報の採取方法

①ステータス情報

「UPS」タブを選択し、「Status」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

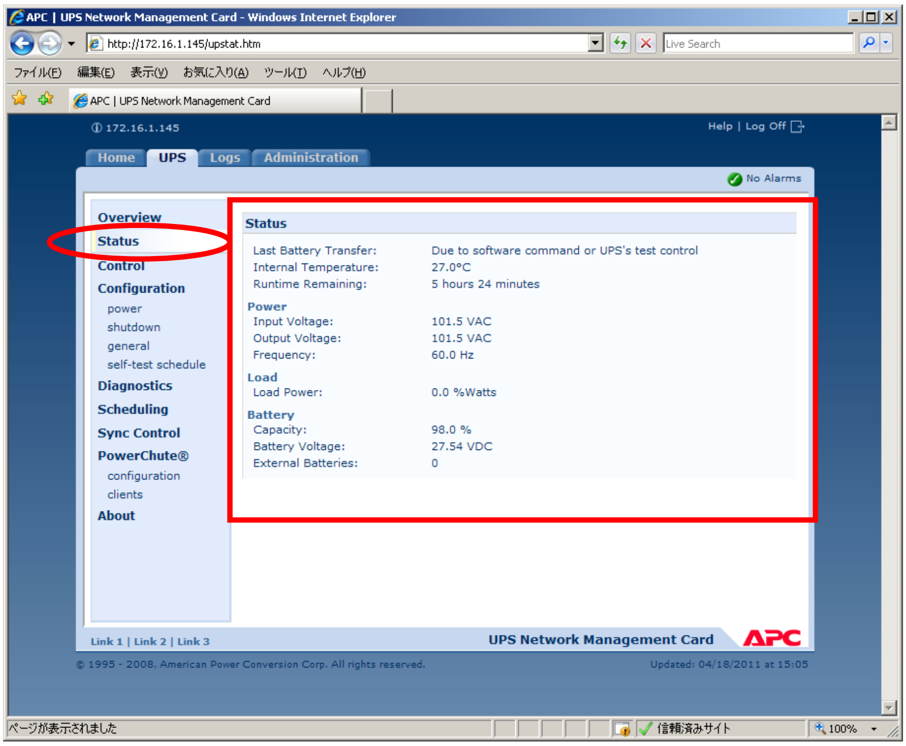


図 8.6-21

②イベントログ情報

「Logs」タブを選択し、「Events → log」を選択します。
Event log が表示されますので、Event log （Filtering） 画面の 「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

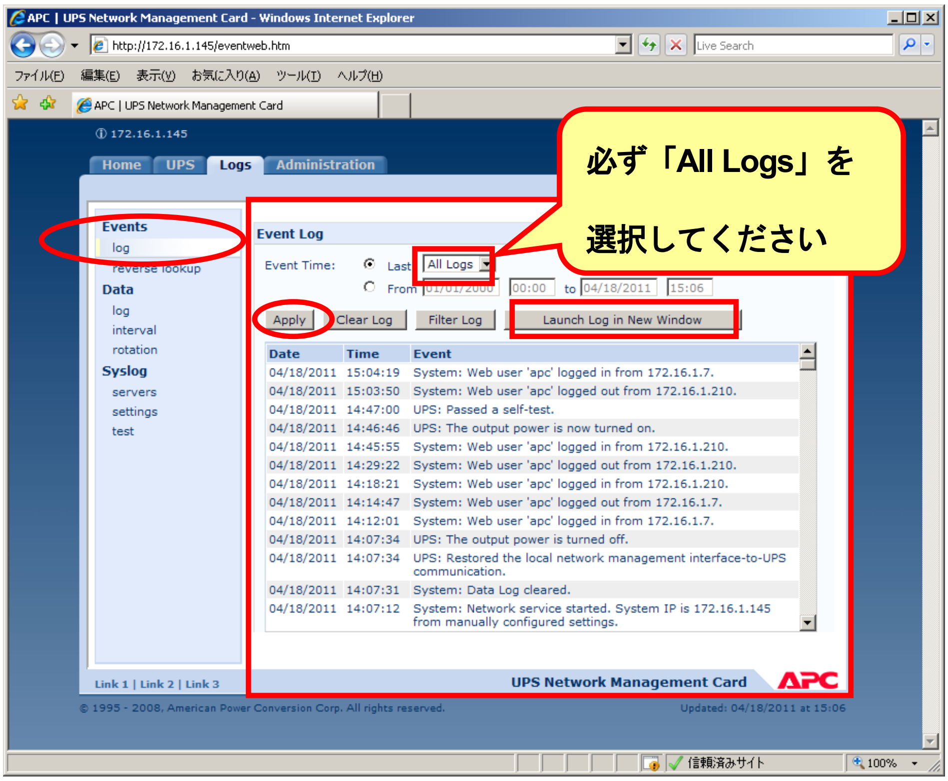


図 8.6-22

「Launch Log in New Window」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

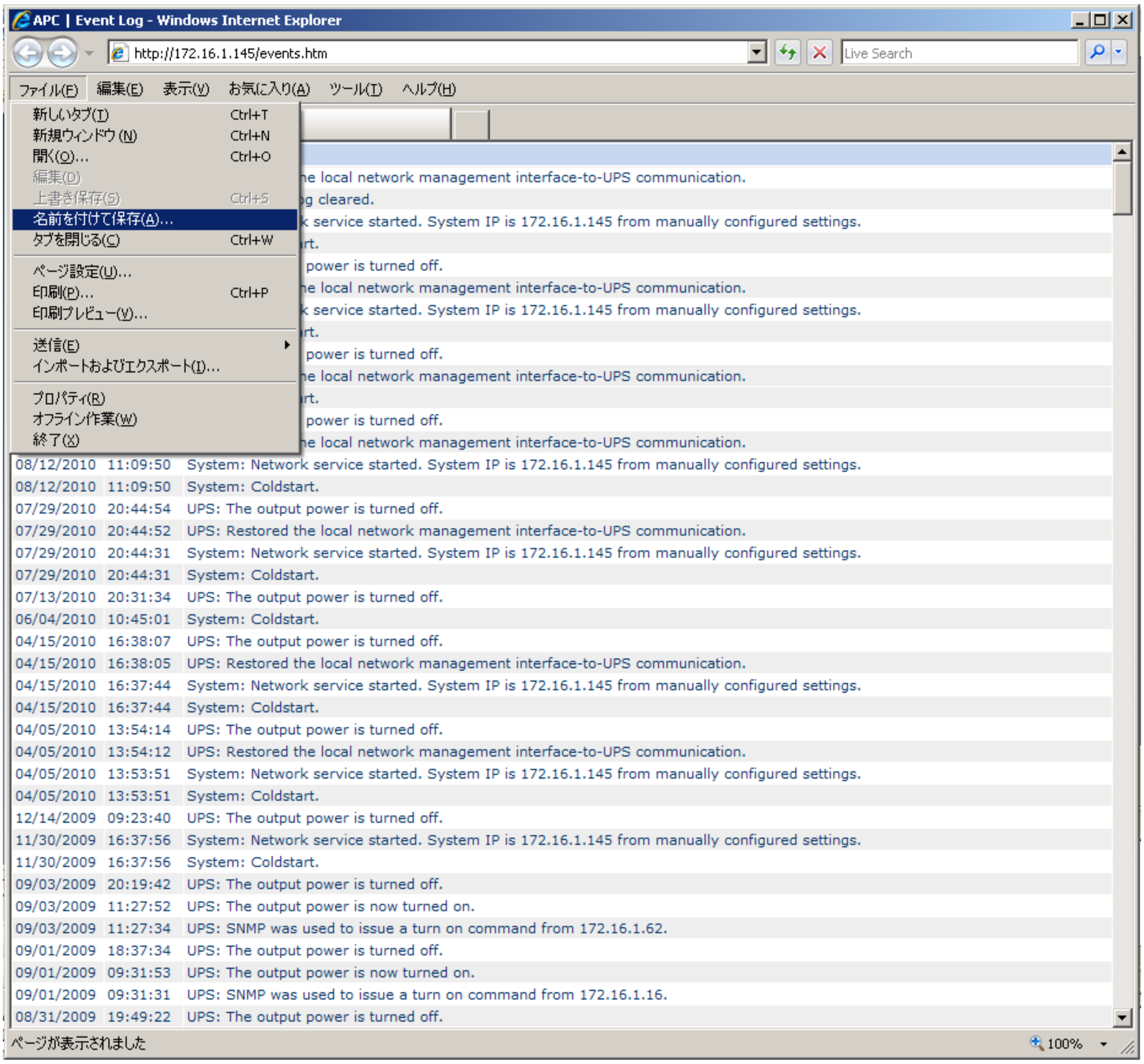


図 8.6-23

③ データログ情報

「Logs」タブを選択し、「Data → log」を選択します。

Data log が表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

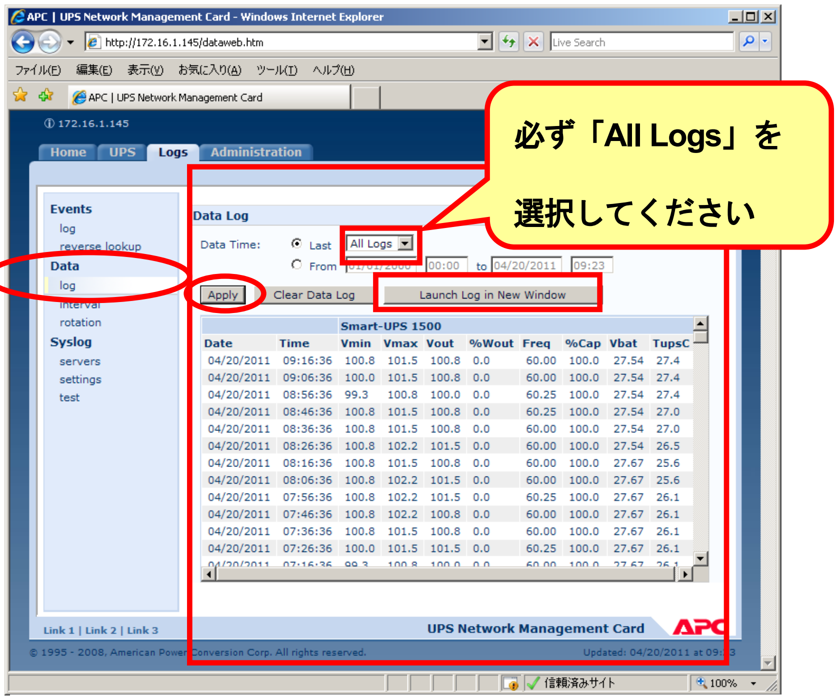


図 8.6-24

「Launch Log in New Window」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

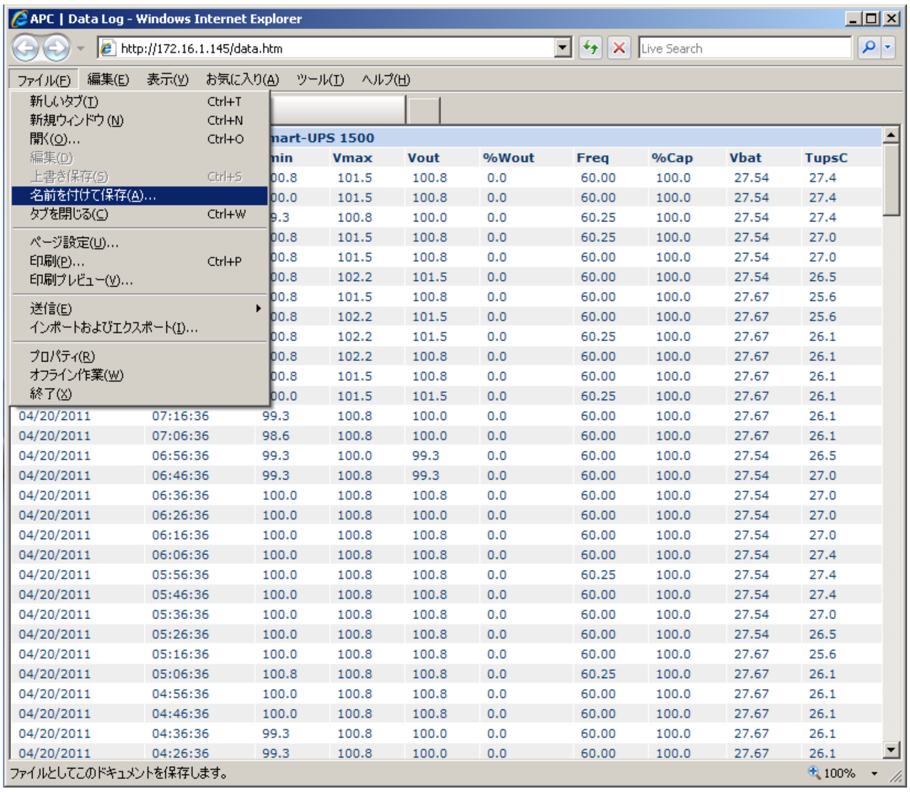


図 8.6-25

※②Logs → Events → log、③Logs → Data → log ともに、以下の方法で採取してください。
（保存方法その１）

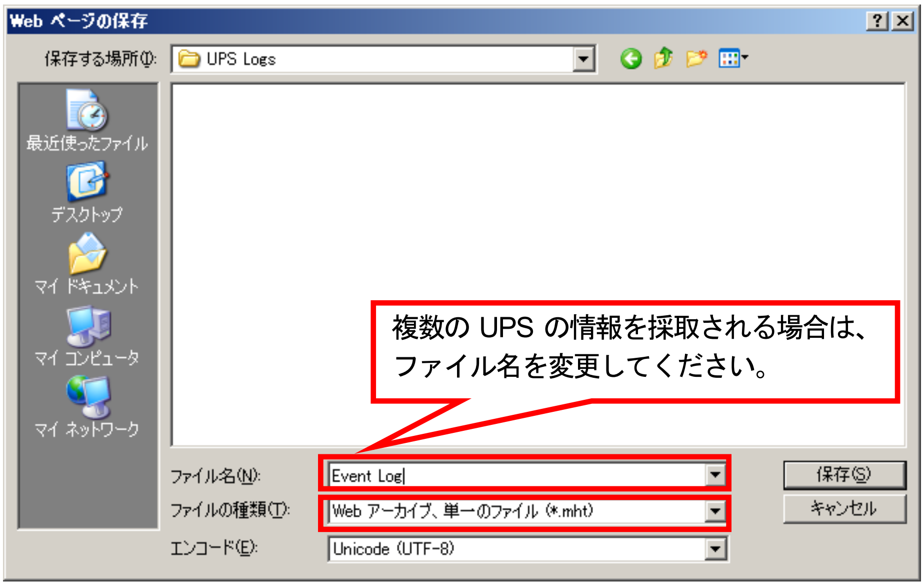


図 8.6-２６

「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式で保存する場合は、保存されるファイルが*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

（保存方法その２）

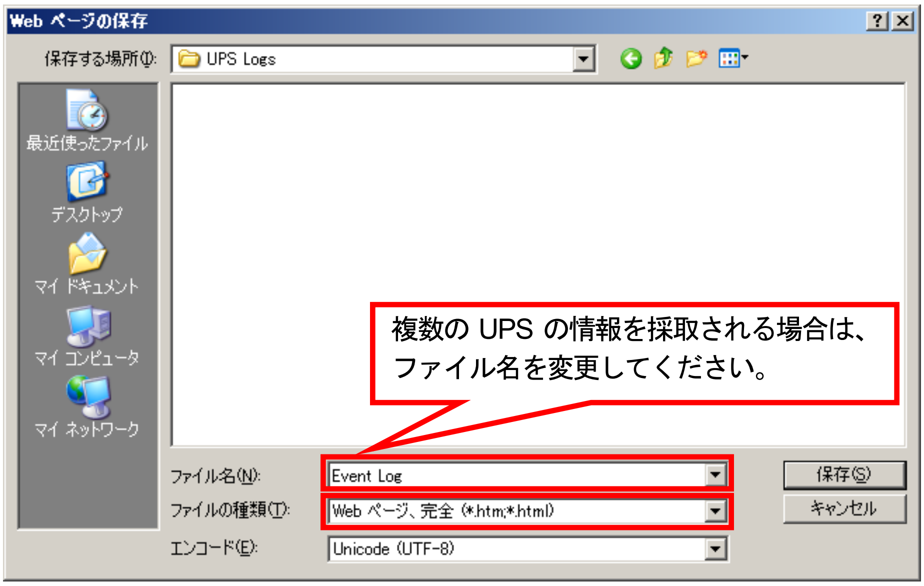


図 8.6-２７

「Webページ、完全（*.htm,*.html）」形式で保存する場合は、htmファイルとEvent Log.filesという名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

④access control情報

「Administration」タブを選択し、「Network」→「access control」を選択します。

下記 Access Control 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル（*.mht）」形式または「Web ページ、完全（*.htm,*.html）」形式を指定して保存してください。

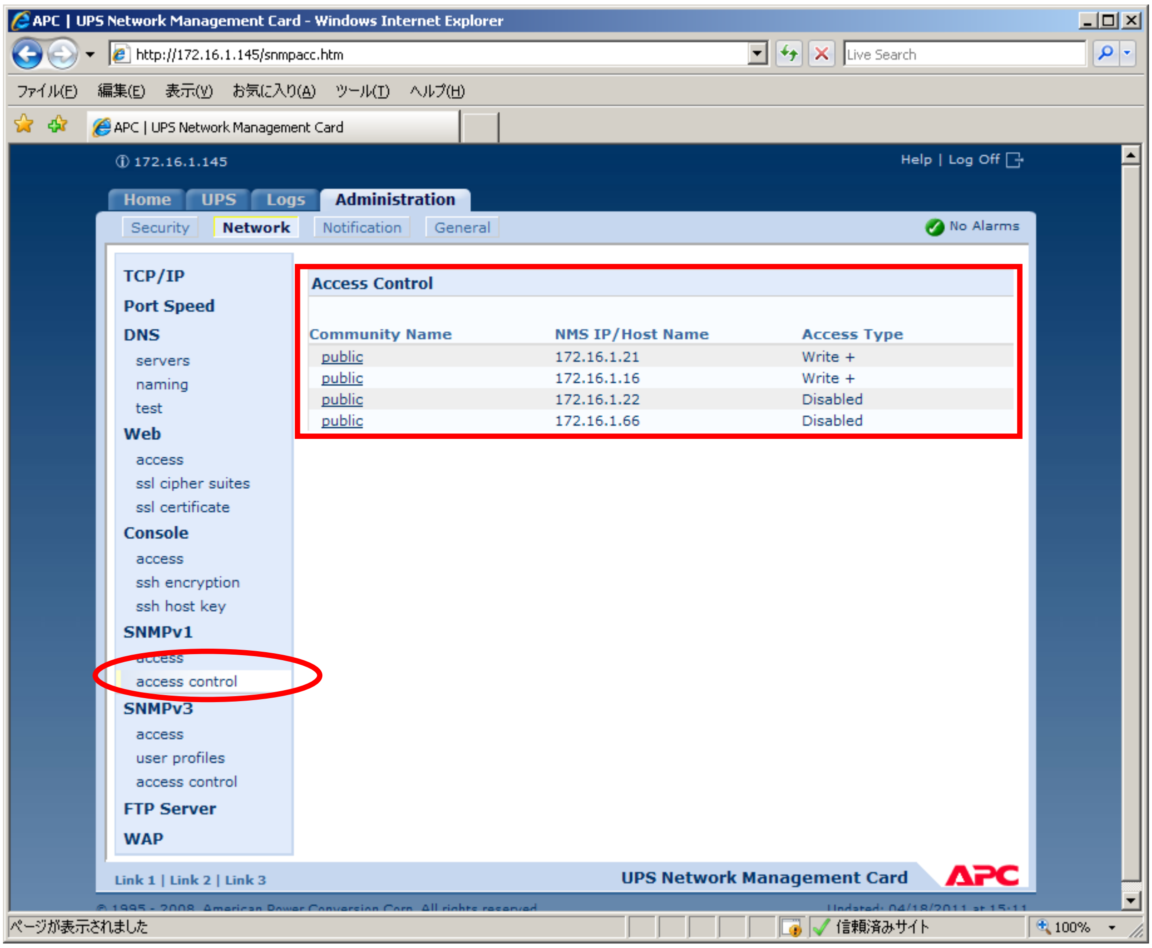


図 8.6-28

８.７　Collect ログの採取

ESMPRO/AC に必要なログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリティは使用しているサーバ装置の EXPRESSBUILDER または Starter Pack に格納されています。または、下記サイトからもダウンロード可能です。

・装置情報収集ユーティリティ (Windows 版最新バージョン)
< https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110130 >

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にて Collect ログを採取してください。

・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログは、ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」を実行します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ（デフォルトは ¥ESM）の ¥tool フォルダ配下にあります。
collect.exe により採取される情報は、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ下の「¥ tool¥ log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。

・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合は、装置情報収集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「¥stdclct¥collect.exe」を実行してください。採取される情報は「¥stdclct¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。

上記内容の詳細について、装置情報収集ユーティリティに添付している readme.txt をご参照ください。

第９章 用語集

No	用語	説明
1	ESMPRO Platform Management Kit	ESMPRO の各種ソフトウェアを格納したソフトウェアパッケージ。
2	ESMPRO/AutomaticRunningController	無停電電源装置(UPS)を使用したサーバの自動電源制御機能を提供するソフトウェア。
3	ESMPRO/AC Enterprise	SNMP カード付き無停電電源装置(UPS)と接続した複数のサーバや共有ディスクの電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
4	ESMPRO/AC Advance	無停電電源装置(UPS)を接続しない複数のサーバの自動運転機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
5	ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Advance」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
6	ESMPRO/AC Enterprise(クライアント)	無停電電源装置(UPS)とサーバを監視する機能を持つパッケージ。
7	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Enterprise」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
8	ESMPRO/AC MSCS オプション	WSFC(Windows Server Failover Cluster)またはMSCS(Microsoft Cluster Service)によるクラスタ環境の電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」＋「ESMPRO/AC Enterprise」環境のオプションパッケージ。
9	ESMPRO/ServerManager	ネットワーク上のサーバを管理・監視するサーバ管理ソフトウェア。
10	ESMPRO Extension for Windows Admin Center	Windows Admin Center に対して Express5800 サーバのハードウェア情報を表示するためのプラグイン。
11	ESMPRO/ServerAgent	ESMPRO/ServerManager と連携し、サーバの監視および各種情報を取得するためのソフトウェア。
12	ESMPRO/ServerAgentService	ESMPRO/ServerAgent の後継ソフトウェア。
13	ExpressUpdate Agent	管理対象サーバにてファームウェア、ソフトウェアなどのモジュールを ESMPRO/ServerManager によってリモートから更新することを可能とするソフトウェア。
14	WebSAM iStorageManager	ストレージリソースを効率的に一元管理し、構成表示、状態監視、障害通知を行うソフトウェア。
15	Windows Admin Center	Microsoft が提供する Web ブラウザベースのサーバ管理ソフトウェア。
16	BMC	Baseboard Management Controller システムの状態や OS に依存することなく、ハードウェアの状態・異常を監視できる Embedded controller。
17	EXPRESSSCOPE エンジン	BMC を用いて実現している NEC 製管理用コントローラ。

18	BMC（EXPRESSSCOPE エンジン）	EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載の装置
19	BMC（その他）	以下以外の装置。 ・BMC（EXPRESSSCOPE エンジン） ・iLO ・vPro
20	iLO	Integrated Lights-Out 標準インターフェース仕様の IPMI2.0 に準拠してハードウェアを監視するコントローラ。
21	vPro	インテルの企業向けプラットフォーム・ブランド（Intel® vPro™ テクノロジ）。
22	iAMT	Intel® Active Management Technology vPro を構成する主要機能の 1 つで、リモート管理をコントロールする技術。
23	SOL	Serial Over LAN Serial に出力されるデータを BMC が UDP Packet 化して LAN 経由で送信する機能。
24	WS-Man	Web Service Management IT システム全体の管理情報にアクセスするための共通手段を提供する技術仕様。
25	クラシックモード	ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 から起動する ESMPRO/ServerManager Ver.6 相当のユーザーインターフェイス。 サーバの詳細情報表示や ESMPRO/ServerManager の環境設定を行う。
26	コンポーネント	ESMPRO/ServerManager 上で管理する装置。
27	システム管理	ESMPRO/ServerManager で SNMP (ESMPRO/ServerAgent) / WS-Man を使用してコンポーネントを管理すること。
28	ダッシュボード	さまざまなコンポーネントの状態や詳細情報を統合して表示する管理画面。
29	ライセンスキー	ESMPRO のソフトウェアのライセンスを登録するためのキー。
30	インポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理においてライセンスキーをソフトウェアに送信し、ライセンスを登録すること。
31	エクスポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理においてソフトウェアに登録されたライセンスキーを取得すること。
32	WebSAM AlertManager	ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent などの関連製品の通報機能を拡張するソフトウェア。
33	iStorage (M シリーズ) ESMPRO/ServerManager 連携モジュール	ESMPRO/ServerManager から iStorage の監視をするために必要な連携ソフトウェア。
34	[まとめて設定]	ESMPRO/ServerManager が管理しているコンポーネントの一括設定および設定のダウンロードを行う拡張機能。

		以下の設定が可能です。
		・AC Management Console で電源管理設定を行った Express サーバと無停電電源装置（UPS）の設定
		・以下のソフトウェアがインストールされている装置の通報設定。
		  - ESMPRO/ServerAgent(Windows)
		  - ESMPRO/ServerAgentService(Windows)
		  - ESMPRO/ServerAgent for GuestOS(Windows)
		  - 他社機版 ESMPRO/ServerAgent(Windows)
		以下のソフトウェアがインストールされている装置のリソース監視設定。
		  - ESMPRO/ServerAgentService(Windows)
		  - ESMPRO/ServerAgentService(Linux)
		本ガイドでは、まとめて設定機能を[まとめて設定]と記載。

35	拡張機能	ESMPRO/ServerManager では、拡張機能として以下の機能を提供。 ・イベントトリガーアクション ・[まとめて設定] 拡張機能を使用するには、ESMPRO/ServerManager 拡張機能マネージャライセンスおよび、管理対象機器台数に応じて ESMPRO/ServerManager 拡張機能ノードライセンスが必要。 詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 インストレーションガイド(Windows)」を参照してください。
36	Microsoft Teams	米国 Microsoft Corporation が提供するコミュニケーションツール。
37	イベントトリガーアクション	ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを契機に、指定するアクションを実行する拡張機能。 指定可能なアクションは以下のとおり。 ・メール通報 ・Microsoft Teams 通報

表 9-1